

平成 22 年度

# 自己点検・評価報告書



2010 年度

清泉女学院短期大学

## はじめに—こころを育てることができる場として

前任の宮澤学長のあとの学長として着任したのが2011年、平成23年4月1日です。着任2日目には入学式で学長としての講話をしなければなりません。もちろん着任前から本学のアウトラインは事前学習済みです。しかしながらそれをなぞるだけで学長講話を終えるのは自らの信条に沿いません。したがって本学がこれまで何を目指して学生の教育を引き受けてきたかを考え、行き着いたのが「自己点検・評価報告書」でした。ここ数年分を事前に取り寄せ読み比べました。

報告書には年度ごとにいくつかの新たな試みが記されており、かつそれらがどの程度実現したかもしっかりと書いてありました。ともするとお手盛りになりがちなこの類の報告書にあってそれは異質ともいうべきものであり、その点で目を見張るものがあったことは確かです。ただ、かなりの工夫が見られる自己点検・評価報告書ではありますが、短期大学基準協会が示している作成様式や作成要領が定型化されてきたこともあって、マンネリ化を免れないという自己批判もありました。大切なのはこのような自己批判であり、作成に当たっても漫然と前年のものを踏襲することに堕していないところはすばらしいと思いました。

確かに短期大学をめぐる環境には厳しいものがあります。優勝劣敗をかざしたわが国の総理大臣が去ったあとに残った学生教育環境は、まさに死屍累々というべき索漠としたものでした。勝ち組に入ったとはいえそこには学生が自らのこころを育てるという環境は皆無とすらいえる状態であり、ひたすら専門的知識と技術を伝えることが教育とされてる有様だったと言えましょう。これらのことを本学の過去の自己点検・評価報告書から読み取りながら、わたくしは新任学長として三つのことを目指す大学にしたいと語りました。

その一は、学生自らが自分自身のこころのありように気づき、自己点検をへて「自らのこころを育てることができる大学」にしたいというものでした。その二は、大切に育ててきたお子さま方を「安心して預けることができる大学」にしたいとお約束をしました。ここでは「清泉」というブランドが真に生きる大学という意味を込めています。その三は、地域に期待される学生を育てたいということです。この長野市にある清泉ですが、そもそも清泉は「世界の清泉」でもあるのです。地域貢献を視野に入れながらも「国際性豊かな“人”として育つことを目指す大学」にしたいと申しあげたのです。

このたび編纂しました「平成22年度自己点検・評価報告書」にもその萌芽は見られます。私たちは間違いのない道を歩んでいるとは思いますが、この「自己点検・評価報告書」をお読みいただき、忌憚のないご意見を賜りたくお願い申し上げます。

2011年6月30日

清泉女学院短期大学

学長 吉川 武彦

# 目 次

|                                         |    |
|-----------------------------------------|----|
| 清泉女学院短期大学の特色等 .....                     | 1  |
| 領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標                |    |
| 【建学の精神、教育理念について】 .....                  | 5  |
| 【教育目的、教育目標について】 .....                   | 7  |
| 【定期的な点検等について】 .....                     | 9  |
| 領域Ⅱ 教育の内容                               |    |
| 【教育課程について】 .....                        | 11 |
| 【授業内容・教育方法について】 .....                   | 23 |
| 【教育改善への努力について】 .....                    | 24 |
| 【特記事項について】 .....                        | 27 |
| 領域Ⅲ 教育の実施体制                             |    |
| 【教員組織について】 .....                        | 30 |
| 【教育環境について】 .....                        | 33 |
| 【図書館・学習資源センター等（以下「図書館等」という。）について】 ..... | 36 |
| 領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果                      |    |
| 【単位認定について】 .....                        | 41 |
| 【授業に対する学生の満足度について】 .....                | 50 |
| 【退学、休学、留年等の状況について】 .....                | 52 |
| 【資格取得の取組みについて】 .....                    | 55 |
| 【学生による卒業後の評価、卒業生に対する評価について】 .....       | 56 |
| 【特記事項について】 .....                        | 60 |
| 領域Ⅴ 学生支援                                |    |
| 【入学に関する支援について】 .....                    | 61 |
| 【学習支援について】 .....                        | 65 |
| 【学生生活支援体制について】 .....                    | 68 |
| 【進路支援について】 .....                        | 73 |
| 【多様な学生に対する支援について】 .....                 | 77 |
| 【特記事項について】 .....                        | 78 |
| 領域Ⅵ 研究                                  |    |
| 【教員の研究活動全般について】 .....                   | 79 |

|                                     |     |
|-------------------------------------|-----|
| 【研究のための条件について】 .....                | 81  |
| 領域Ⅶ 社会的活動                           |     |
| 【社会的活動（国際的活動は別項で記述）への取組みについて】 ..... | 83  |
| 【学生の社会的活動について】 .....                | 88  |
| 【国際交流・協力への取組みについて】 .....            | 91  |
| 【特記事項について】 .....                    | 93  |
| 領域Ⅷ 管理運営                            |     |
| 【法人組織の管理運営体制について】 .....             | 95  |
| 【教授会等の運営体制について】 .....               | 99  |
| 【事務組織について】 .....                    | 103 |
| 【人事管理について】 .....                    | 106 |
| 領域Ⅸ 財務                              |     |
| 【財務運営について】 .....                    | 109 |
| 【財務体質の健全性と教育研究経費について】 .....         | 112 |
| 【施設設備の管理について】 .....                 | 115 |
| 領域Ⅹ 改革・改善                           |     |
| 【自己点検・評価について】 .....                 | 118 |
| 【自己点検・評価の教職員の関与と活用について】 .....       | 118 |
| 【相互評価や外部評価について】 .....               | 119 |
| 【第三者評価（認証評価）について】 .....             | 120 |
| 【特記事項について】 .....                    | 120 |



## 清泉女学院短期大学の特色等

(1) 短期大学を設置する学校法人（以下「法人」という。）の沿革（概要）及び短期大学の沿革（概要）。

カトリック聖心侍女修道会は、1877年に聖女ラファエラ・マリアによってスペインに創立されて以来、世界の各地に広がり、現在では南北アメリカ・ヨーロッパ・アフリカ・アジア等、世界のいたるところで女子教育に献身している。本学も、宗教法人カトリック聖心侍女修道会を母体とする学校法人清泉女学院によって設立された短期大学で、昭和56年1月16日に文部省より設置認可され、同年4月1日より長野市上野2-120-8において幼児教育科と英語科の二学科で開学した。以下のような歩みで今日に至っている。

|       |                                              |
|-------|----------------------------------------------|
| 昭36.4 | 長野清泉女学院高等学校の敷地内に「専攻科」を創設                     |
| 41.4  | 専攻科に代って「清泉女学院幼稚園教員養成所」を開設                    |
| 43.4  | 幼稚園教諭免許状とあわせ保母資格取得の認可を取得<br>校名を「清泉女子専門学校」に変更 |
| 44.4  | 校名を「清泉保育女子専門学校」に変更                           |
| 56.1  | 文部省より短大設置認可。長野市上野に新校舎完成                      |
| 4     | 「清泉女学院短期大学」を幼児教育科と英語科で開学。初代学長に藤森さと就任         |
| 57.3  | 短期大学開学にともない「清泉保育女子専門学校」を閉校                   |
| 7     | 英語科による日本・フィリピン学生交歓旅行開始                       |
| 59.10 | エンゼル館（体育館棟）完成                                |
| 62.2  | アメリカ西海岸にて第1回海外研修                             |
| 10    | ヨゼフ館（図書館棟）完成                                 |
| 63.4  | 第2代学長として森里美就任                                |
| 平2.10 | 短期大学創立10周年記念式典を挙行                            |
| 3.2   | Saint Joseph College(アメリカ)と姉妹校提携調印           |
| 3.12  | 国際文化科のためのパウロ館完成                              |
| 4.4   | 国際文化科を開科                                     |
| 6.4   | 第3代学長として宮澤紀江就任                               |
| 4     | 「短期大学設置基準」の大綱化にあわせ大幅なカリキュラム改定実施              |
| 11    | ソフィア館（研究棟）完成                                 |
| 7.1   | 韓国の漢陽女子大学と姉妹校提携調印                            |
| 8.4   | 第4代学長として清水宏子就任                               |
| 11.5  | 学校法人 清泉女学院創設50周年記念式典を挙行                      |
| 9     | マリアンホール完成                                    |
| 12.4  | 大幅な再改訂による新カリキュラム実施                           |
| 14.4  | 第5代学長として東洋就任                                 |
| 15.2  | フランシスコ館完成                                    |
| 4     | 国際文化科を国際コミュニケーション科と名称・変更                     |
| 4     | 清泉女学院大学人間学部文化心理学科を併設                         |
| 16.7  | ユタ大学(アメリカ)と学術交流協定調印                          |
| 11    | 長野市内高等教育機関における単位互換協定を調印                      |
| 19.4  | 第6代学長として宮澤紀江就任                               |
| 7     | 長野市立長野高等学校との連携協定を調印                          |
| 8     | NPO 法人長野県障がい者スポーツ協会との連携協定調印                  |
| 20.3  | (財)短期大学基準協会の第三者評価の結果適格と認定                    |
| 3     | 長野県カルチャーセンターとの連携                             |

- 20. 3 長野市との連携協定を調印
- 21. 7 「NPO 法人夢空間松代のまちと心を育てる会」との連携協定調印
- 22. 2 小川村との連携協定調印
- 22. 2 長野市との連携協議会
- 22. 5 カピオラニ・コミュニティ・カレッジ(ハワイ)と学術交流協定調印

(2) 短期大学の所在地、位置（市・区・町・村の全体図）、周囲の状況（産業、人口等）等。

長野県内の長野市北部に短期大学は位置している。長野市は、明治 30 年の市制施行以来、4 度にわたる合併・編入を繰り返してきた。市域面積は現在 834.85 平方キロメートルで、豪雪地帯は日本海側気候で冬季雪が多い。それ以外の地域は中央高地式気候とも呼ばれ、周囲を標高の高い山地に囲まれている盆地の気候である。

現在約 38 万人の県内最多の人口を有し、世帯数、人口ともに漸増している。

長野県の県庁所在地でもあり県北部、長野盆地（善光寺平）の中心に位置する。古くから善光寺の門前町として栄えた都市であり、1998 年には長野冬期オリンピック・長野パラリンピックが開かれそのメイン会場にもなっていた。長野県の政治・経済や金融、国の出先機関の中心地としてのみならず、全国的にも有力な観光資源に恵まれ、善光寺や松代などの歴史・文化的遺産、飯綱・戸隠高原などの自然的資産を有するほか、須坂、小布施、湯田中・渋温泉郷、志賀高原など、北信濃全域をカバーする観光の玄関口となる重要な位置を占める。

長野市の主要産業としては、電子回路基板、無線通信機械器具、味噌製造業、オフセット印刷業、電子計算機、農業生産物や酪農をいかした惣菜製造、自動車関連の鋳鉄物製造などが、上位 10 位を占める産業となっている。

長野市に所在する高等教育機関としては、国立大学の工学部と教育学部、国立高等専門学校、文化教養・保育・幼児教育系の県立短期大学、私立系では、家政・福祉系の女子短期大学 1、保育・幼児教育・福祉系の専門学校などがある。

(3) 法人理事長、学長の氏名、連絡先及びその略歴、ALO の氏名、連絡先及びその略歴。なお、連絡先としては、TEL、FAX、E-Mail 等を記載して下さい。

|                          | 法人理事長                                                                              | 学長                                                                                                 | ALO                                                                                       |
|--------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 氏 名                      | 堀 明子                                                                               | 宮澤紀江                                                                                               | 小林敏枝                                                                                      |
| 連絡先 TEL<br>FAX<br>E-Mail | 0467-43-1776<br>0467-43-5714<br>seisenhonbu@nifty.com                              | 026-295-5665<br>026-295-6420<br>miya@seisen-jc.ac.jp                                               | 026-295-5665<br>026-295-6420<br>toshi@seisen-jc.ac.jp                                     |
| 略 歴                      | 学習院大学自然科学研究科修士課程（化学専攻）修了 理学修士<br>清泉女学院中学校・高等学校、長野清泉女学院高等学校教諭、聖心侍女修道会管区会計を経て管区長に就任。 | 上智大学大学院修士課程文学研究科教育学（心理コース）専攻修了 文学修士<br>清泉小・中学校教諭、清泉保育女子専門学校教授、本学講師、助教を経て教授。学校法人清泉女学院評議員、理事に断続的に就任。 | 信州大学大学院教科教育専攻保健体育専攻修了<br>長野赤十字看護専門学校非常勤講師、信州大学教育学部生涯スポーツ課程非常勤講師、清泉女学院短期大学非常勤講師を経て専任教授に就任。 |

（４）平成 17 年度から 23 年度までの学科・専攻（通信による教育を行う学科（以下「通信教育学科」という）、専攻科を含み、以下「学科等」という）ごとの入学定員、入学者数、入学定員充足率（％）、収容定員、在籍者数、収容定員充足率（％）を次ページの表を例に作成して下さい。廃止、募集停止等の学科等を含む、該当する期間内に設置されたすべての学科等について作成して下さい。なお、在籍者数は毎年度 5 月 1 日時点とします。

平成 17 年度～23 年度の設置学科、入学定員等

| 学科等の名称                  |            | 17 年度 | 18 年度 | 19 年度 | 20 年度 | 21 年度 | 22 年度 | 23 年度 | 備考 |
|-------------------------|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----|
| 幼児教育科                   | 入学定員       | 100   | 100   | 100   | 100   | 100   | 100   | 100   |    |
|                         | 入学者数       | 111   | 112   | 110   | 101   | 97    | 121   | 124   |    |
|                         | 入学定員充足率(%) | 111   | 112   | 110   | 101   | 97    | 121   | 124   |    |
|                         | 収容定員       | 200   | 200   | 200   | 200   | 200   | 200   | 200   |    |
|                         | 在籍者数       | 227   | 218   | 220   | 209   | 198   | 217   | 243   |    |
|                         | 収容定員充足率(%) | 114   | 109   | 110   | 105   | 99    | 109   | 122   |    |
| 国際コミュニケーション科<br>（国際文化科） | 入学定員       | 100   | 100   | 100   | 100   | 100   | 100   | 100   |    |
|                         | 入学者数       | 115   | 89    | 123   | 89    | 105   | 88    | 75    |    |
|                         | 入学定員充足率(%) | 115   | 89    | 123   | 89    | 105   | 88    | 75    |    |
|                         | 収容定員       | 200   | 200   | 200   | 200   | 200   | 200   | 200   |    |
|                         | 在籍者数       | 223   | 197   | 208   | 206   | 191   | 187   | 154   |    |
|                         | 収容定員充足率(%) | 117   | 99    | 104   | 103   | 96    | 94    | 77    |    |

（５）平成 20 年度～22 年度に入学した学生（この事項においては通信教育学科の学生を除く）の出身地別人数及び割合（10 程度の区分）を下表を例に毎年度 5 月 1 日時点で作成して下さい。なお、短期大学の実態に沿って地域を区分して下さい。

出身地別学生数（平成 20 年度～22 年度）

| 地 域    | 20 年度 |       | 21 年度 |       | 22 年度 |       |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|        | 人数(人) | 割合(%) | 人数(人) | 割合(%) | 人数(人) | 割合(%) |
| 北信地域   | 140   | 73.7  | 130   | 64.3  | 141   | 67.4  |
| 東信地域   | 27    | 14.2  | 41    | 20.3  | 42    | 20.1  |
| 中信地域   | 15    | 7.9   | 20    | 9.9   | 18    | 8.6   |
| 南信地域   | 5     | 2.6   | 4     | 2.0   | 2     | 1.0   |
| 県外地域   | 3     | 1.6   | 5     | 2.5   | 4     | 1.9   |
| 大検・社会人 | 0     | 0     | 2     | 1.0   | 2     | 1.0   |
| 合 計    | 190   | 100.0 | 202   | 100.0 | 209   | 100.0 |

※本学では、入学者を出身高校別に集計しているため、高校の所在地の地域別に区分した表になっている。

（６）法人が設置する他の教育機関の所在地、入学定員、収容定員とそれぞれの在籍者数を下表を例に平成 23 年度 5 月 1 日時点で作成して下さい。

法人が設置する他の教育機関の現状 （平成 23 年 5 月 1 日現在）

| 教育機関名         | 所在地               | 入学定員 | 収容定員 | 在籍者数 |
|---------------|-------------------|------|------|------|
| 清泉女学院大学       | 長野県長野市上野2-120-8   | 100  | 400  | 259  |
| 長野清泉女学院中学校    | 長野県長野市箱清水1-9-19   | 35   | 105  | 107  |
| 長野清泉女学院高等学校   | 長野県長野市箱清水1-9-19   | 225  | 685  | 528  |
| 清泉女学院中学校      | 神奈川県鎌倉市城廻字打越200   | 180  | 540  | 550  |
| 清泉女学院高等学校     | 神奈川県鎌倉市城廻字打越200   | 180  | 540  | 522  |
| 清泉小学校         | 神奈川県鎌倉市雪ノ下3-11-45 | 126  | 756  | 677  |
| 清泉インターナショナル学園 | 東京都世田谷区用賀1-12-15  | 210  | 810  | 680  |

（７）その他、評価員が誤解しないように事前に知ってもらいたい事項や事情があれば、記述して下さい。

本報告書では、各領域の評価項目ごとに【現状・評価】と【課題・改善策】の2つの欄を設けている。【課題・改善策】の欄は、自己評価を受けてとくに今後組織的、重点的に検討すべき、また改善すべき内容を記している。ただし、個別の課題や問題点については、【現状・評価】の欄において記し、【課題・改善策】を設けない項目もある。



## 領域 I 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

### 【建学の精神、教育理念について】

（１）建学の精神・教育理念を記述し、その意味するところ及び建学の精神・教育理念が生まれた事情や背景をできるだけ簡潔に記述してください。

【現状・評価】 本学の建学の精神は、カトリック精神に基づいた教育である。それは、真摯な学問研究を通して永遠の真理である神を求め、キリストの生き方に基づいて、すべての人の父である神を敬い、同じ神から生まれ神から愛された者として互いに愛しあう生き方を追求することである。したがって本学では、学生一人ひとりが、キリスト教的価値観・世界観・人生観を知り、神の似姿として創られた人間の尊厳に気づき、愛と自由の精神を培い、道、真理、生命であるキリストとの出会いに導かれるようにと願いつつ、各自が与えられた能力を十分に伸ばし、自己の使命に目覚め、他者の幸せのために生き、愛と正義に基づいた社会実現のために貢献できる存在となるよう全人教育を行うことを目指している。この教育理念は、本学の教育目的を定めた学則第 1 条に明記されている。この精神は、日本と世界各地の姉妹校に共通し、一貫している。

カトリック的な世界観とか価値観、人生観といっても一言では言い尽くせない。その中でも何が中心かといえば、「神は、愛である。人間一人ひとり、神から愛されて創られた尊い存在である。人類一人ひとり皆、同じ父である神から生まれた兄弟姉妹である。神は、御一人子をこの世に送って十字架上の死という犠牲を通して人類の罪を贖ってください。だから、みんなお互いに自分の受けた能力を出しあって奉仕しあい、愛しあって仲良く生きよう」ということである。

この建学の精神は、本学の「モットー」に表現されている。それは、「神の尊前に清く正しく愛ふかく」である。

本学の設立母体は、カトリックの聖心侍女修道会である。この修道会の創立者は、スペイン人の聖ラファエラ・マリア（1850-1925）であり、創立当初から無償の学校を開き、経済的に恵まれない子どもたちを受け入れていた。創立者の書簡の中には、教育の必要性が語られ、教育に携わることはこの会の修道女たちの大切な使命であると述べられている。この聖心侍女修道会の会員が、昭和 9 年にはじめて日本を訪れ、昭和 10 年 4 月には東京麻布に清泉寮を開学し、創立者の教育に対する熱き想いを日本において実現した。戦争中、聖心侍女たちは、長野県に強制疎開させられ、その縁あって、終戦後、昭和 21 年に長野市に清泉寮学院を復活した。翌年には、長野清泉女学院と改名している。同じ頃、横須賀市に小・中・高を、25 年には大学（現清泉女子大学、現在は別法人）を設置した。24 年には、長野清泉女学院高等学校を開校し、昭和 26 年 2 月 21 日に「学校法人清泉女学院」が誕生した。

長野清泉女学院高等学校に併設された幼児教育者・保育者を養成する専門学校を土台として昭和 56 年に誕生したのが短期大学であり、したがって、上記の建学の精神は設立当初から確立しており、今日まで継続している。

現代の若者たちの凶暴な事件を見るにつけ、愛しあうことをうたう本学の建学の精神の浸透、知的教育のみならず、心の教育を大切にする全人教育を押しすすめる必要を痛感す

## 領域 I

る。現代人のセンスにかなう表現方法、伝達方法を模索しながら、なお一層の努力を続けたい。

(2) 現在は建学の精神・教育理念をどのような形や方法で学生や教職員に知らせているかを記述してください。

【現状・評価】 以下のような多様なアプローチで周知を図っている。

### ① 「学生便覧」や「大学案内」等の記述物および校章

「学生便覧」の冒頭に本学の建学の精神、および教育方針を学生向けに記述している。ちなみに建学の精神は、以下のように記されている。

『本学は、キリストのよきおとずれ (good news)、福音に基づいた学園です。学問研究の場である大学において、真摯に真理を探究するものは、永遠の真理である神を見出すでしょう。

永遠の真理であり、愛の源である神を敬い、キリストの生き方に基づいて、神から愛されたものとして互いに愛しあうこと、これが本学の教育の根本精神です。

そのため、本学では、学生の皆さんが、人生に真の意味を与える福音的価値観を知り、その価値観に基づいて自ら行動できるよう励まし、愛と自由の精神を培い、道・真理・生命であるキリストとの出会いに導かれるよう全人教育を行っています。

本学で学ぶ皆さんが、与えられた能力を十分に伸ばし、自己の使命に目覚め、他者の幸せのために生きることのできる人に成長してほしいと望んでいます。

世界の人々と文化に心を開き、宇宙的視野を持って、人類は父なる神のもとに一つであり、みな兄弟であることを深く認識し、正義と愛に基づく社会を築く力となりますように。』

また、本学の「大学案内」にも、「清泉で学べること」として「基本方針」や「教育目標」、「求める学生像」を掲載し、オープン・キャンパス、入学式および入学当初のオリエンテーションにおいて、本学の教育理念を説明している。

本学の校章は、清泉の頭文字「S」の字型にあしらわれた白百合の花によって「清さ」を、楯の形によって「正しさ」を、キリストの聖心とそれを囲む鎖によって「神の愛」と、父なる神の子としての「兄弟愛」を示している。

### ② 授業を通じての取り組み

卒業必修科目の「人間学」、「キリスト教概論」は、学科ごとにクラス別に講座を編成し、本学の建学の精神に直接関わる授業内容となっている。

### ③ キャンパス・アワーおよび学校行事・静修会など

毎週月曜日のキャンパス・アワーの中で、各学科・学年単位でそれぞれ年2回の学長講話を実施している。本学の設立の経緯、歴史、創立者の生きざま等を通して示される建学の精神を語った。また、クラスごとにメディテーション・アワー（祈りの時間）が実施されている。カトリックオフィスと担任教員とが協力して内容を企画し、聖堂での静かな時間を共有する機会である。このほか、全学行事の静修会については、領域Ⅱの特記事項を参照されたい。

卒業式の前日、3月18日（金）には、両科合同で卒業静修会を行った。今年度の講師は、本学の八重田修事務局長で、テーマは、「旅立ちを前に贈る言葉」であった。そのあと、ス

ペインで研鑽し長野で活躍中のギタリスト岩村通康氏によるギター演奏を通して社会に巣立つ卒業生を励ました。教職員からの「贈る言葉」ならびに「自分への手紙」は例年通り行われた。

姉妹校の長野清泉女学院高等学校および外郭団体との共催で行われる清泉ファミリー・クリスマスの集いは、短期大学創立前（昭和 44 年）から始まっている。この集いは、長野にある 4 つの姉妹校とその外郭 6 団体の共催で行われ、例年、ミサあるいはみことばの祭儀を中心に行われるが、今年度も昨年度に引き続き長野清泉女学院高等学校が主催校となり、長野市民会館で行った。クリスマスの真の意味は何かを訴えてくれる行事となっているが、一般の市民にも広く参加を呼びかけながら行っている。

平成 22 年度で第 29 回を迎えた今回は、12 月 11 日（土）「闇の中を歩む民は、大いなる光を見た」というテーマで行われた。第一部は、実話をもとに演劇部が創作した「ナツのひまわり」の公演とそのもとになる記事を書いた体験者加藤いつかさんのお話があった。第二部は、カトリックのイエズス会、ロバート・キエサ神父の司式により「みことばの祭儀」が行われた。式中に行われた各代表の共同祈願では、世界平和の実現など思い思いの感謝や願いが述べられ、「主よ、私たちの祈りを聞き入れてください」と心をひとつにして祈った。また、奉納の部分では、各代表が、この 1 年間努力してきた実行目標や、清泉祭等で行った活動による利益を必要としている諸機関に贈ったことなどを奉納した。恒例となった最後の全員合唱ハレルヤコーラスも力強く歌われた。

カトリックオフィスの主催する祈りの集いは、毎週（木）の昼休みに行われた。今年度は毎月テーマを変えて、信徒の教員を中心に月毎に交代して行った。自由参加であることと昼休みということもあって参加者は限られていたが、毎週必ず参加するものもあり励みになった。また恒例の追悼ミサは、10 月 28 日（木）にご遺族をお招きして聖心館聖堂で行われた。司式司祭は、カトリック長野教会の藤田銀順神父であった。参加したご遺族からは感謝の手紙が寄せられた。

カトリックオフィスでは、HUMANITAS CATHOLICA という機関紙の第 2 号を発行し、広く清泉ファミリー関係者の執筆による建学の精神と関係のある文書を掲載した。

また、教職員に建学の精神を涵養するため、平成 22 年 9 月 15 日の午後全教職員を対象に、建学の精神研修会を行った。今年度の講師は、新潟司教区の菊池功司教で、アフリカでの体験を踏まえ、「カトリックの世界観と教育 -アフリカと共に生きて学んだこと-」のテーマでお話いただいた。

#### 【教育目的、教育目標について】

（１）多くの短期大学が複数の学科等を設置しています。その場合、それぞれの学科等では建学の精神や教育理念から導き出された、より具体的な教育目的や教育目標を掲げているものと思います。（例えば、設置認可の際に「設置の趣旨」等で示されたもの等）。ここでは全学的に示された教育目的や教育目標ならびにそれぞれの学科等が設定している具体的な教育目的や教育目標を記述して下さい。

#### 【現状・評価】

#### 幼児教育科

##### ① 教育の基本方針

## 領域 I

創設以来培ってきた養成教育を継承しつつ、新しい時代にふさわしい保育者を養成する。そのために次の3つを基本方針とする。

- (i) 本学の教育理念に基づき、人を愛し人につくす保育者を養成する。
- (ii) これからの時代にふさわしい保育を創造し、実践する専門的資質を育成する。
- (iii) 2年間の教育課程および学園生活を通じて、互いに人間性と専門性を育てあう。

### ② 教育目標

- (i) 保育士資格、幼稚園教諭二種免許の取得にふさわしい養成教育の質的向上を図る。
- (ii) 人間性豊かな保育者となるよう、2年間の学園生活を支援する。
- (iii) 地域社会のニーズにこたえ、実践的指導力の基礎を確保する。

### ③ 学科の特色ある取り組み

平成20年度開始した「保育者養成のための初年次教育プログラムの展開～地域、子ども、学生をつなぐコミュニケーション基礎力の育成～」は3年目となった。（「初年次教育プログラム2010 報告書」参照）

## 国際コミュニケーション科

平成18年度のコース改編とカリキュラム改訂を機に教育目標を再検討し、策定し直した。「ヒューマン・コミュニケーション ― 自己の確立と他者への貢献」を学科の教育理念として、以下の5項目を教育目標として掲げている（「学生便覧」を参照）。

- ① 共通教育、専門教育、課外活動などの学修を通してバランスの取れた見識、深く考え感じる力、他者への理解を養い、創造的自己の確立に励む。
- ② 専門科目においては、各自の専攻を中心として国際社会・文化、言語・外国語、情報・ビジネス実務、ヒューマン・コミュニケーションの知識、技能の習得をめざす。
- ③ 学修をキャンパス内に限ることなく、学びの場を教育実習、インターンシップ、地域・ボランティア活動、海外研修、国際交流など広く社会に求め、実践的知識・技能、協調性、社会性を養う。
- ④ 上記学修の成果として、実社会において自立して働くためのキャリア・デザインへの視野とスキルを養い、これを有効に活用するためのコミュニケーション能力を身につける。
- ⑤ 学修した知識、技能を広く社会に還元し、「地の塩」として平和で豊かな地域社会、国際社会の建設に貢献できる女性をめざす。

（2）それぞれの学科等の教育目的や教育目標を、現在どのような方法で学生や教職員に周知し、またどのような方法で学外に公表しているかを記述してください。

## 幼児教育科

【現状・評価】 学生便覧に掲載して適切な時期に周知している。例えば、入学当初のオリエンテーション期間内に学科長と履修ガイダンス担当者が学生便覧を見ながら解説する。また、5月に行う学科セミナー・静修会のテーマは、学科目標に沿って学生が考え、講師の講演内容もこれに関連させている。平成22年度は「子どもと一緒に生きる保育者の姿」という講話があった。保護者に対しては入学式直後の学科別大学紹介で、学科長が学科の基本方針、教育目標を解説する。兼任講師に対しては、便覧の配布を行うと共に、FDの一環として行う「兼任講師との懇談会」で周知を図っている。また、入学前の高校生には「大

学案内」に掲載して志願者に対しても学科の理解を促している。

【課題・改善策】 平成 22 年度も教育方針・目標は従来のままを踏襲した。短大の中期構想が終了するので、次年度新たな目標を立て、幼児教育科の教育方針を検討したい。

### 国際コミュニケーション科

【現状・評価】 本学科のように多様なコースを設け、学習内容が多岐に及ぶ学科は、教育目標を明確にし、具体的に提示することが重要な課題と考えている。学生への周知についても一回では十分とはいえず、次のような複数の手段、方法を利用し伝えている。

まず学生に対しては、入学前オリエンテーションおよび入学当初の履修オリエンテーションで学科長が教育目標の周知を図っている。そして、1 年春学期の必修科目「フレッシュマン・セミナー」のなかで、各担当教員が学科の方針や心がけてほしいことを伝達している。このほか、平成 19 年度からは「ライフデザインノート」という目標設定と自己評価のための冊子を配布し、学生生活全般に目的意識を持たせ、計画と反省の前向きなサイクルを作る手助けを始めた。また、5 月に行う静修会でも、学科の教育目標に関連づけた学生相互の分かち合いや多様な企画を通じて、めざす学生のあり方を理解できるよう工夫している。

年 2 回開催される兼任講師 FD 懇談会では、学科長が学科の教育方針、教育目標を説明し周知を図っている。入学式の日に行う保護者向け学科説明会でも同様である。

【課題・改善策】 「ライフデザインノート」の使用は 4 年を経たが、まだ担当教員の対応にもばらつきがあり、十分とは言えなかった。もっと個別的に学生の学修内容を把握し、自立した短大生活を送れるようきめ細かな指導や対応に役立つ形として「学生ポートフォリオ」のシステムを立ち上げる準備をしている。

### 【定期的な点検等について】

(1) 建学の精神や教育理念の解釈の見直し、教育目的や教育目標の点検が定期的に行われている場合はその概要を記述して下さい。また、点検を行う組織、手続き等についても記述して下さい。

【現状・評価】 定期的に見直す組織は、建学の精神や教育理念については学内の組織では「評議会」、学外の組織は「理事会」がこれに相当する。具体的な教育目的や教育目標については各学科で行ってきた。ただし、自己点検・評価活動の中の評価・点検以外に、建学の精神や教育目的等を単独で取り上げて検討する手続きや規程はなく、必要に応じて議論されてきた。次年度からは、カトリックオフィスのカトリックセンターとすることになった。今後建学の精神に関しては、このセンターが担当することになる。

【課題・改善策】 平成 19 年度の第三者評価の折に見直す機会が与えられ、幅広いカトリック精神の中でどの部分に重点を置くのかを明らかにする必要があること、また、現代人にピンとくる表現を研究し、みんなで共通意識を持つ必要があることを痛感した。昨年の課題であったシステムとしては、とりあえずカトリックセンターが担当することになる。実質的な成果が望まれる。清泉ファミリー・クリスマスの集いの今後のあり方に関しては、長野清泉高等学校の代表と本学の代表とが話しあった結果、各学校で別々に行うこととなった。本学では、カトリックセンターが全体を統括し、各学科で具体的な企画を立て、実

## 領域 I

施することになる。

(2) 建学の精神や教育理念の解釈の見直し、教育目的や教育目標の点検及びそれらを学生や教職員に周知する施策等の実施について、理事会または短期大学教授会がどのように関与しているかを記述して下さい。

【現状・評価】 ここ数年の教育目的、教育目標の点検としては、平成 20 年度に評議会内において、短期大学の中期計画の検討を行っている。平成 21 年度はその中期計画の 1 年目（2 カ年計画）であったが、短期大学としての今後のあり方、教育計画等について実施すべきこと、検討すべきことを教授会等で確認している。また、同年 10 月に本学を会場として行われた姉妹校交流会（学園全体の教職員研修会）を通じて、短期大学をふくむ清泉女学院の今後の使命、あり方について理解を深める機会をもった。平成 22 年度には、領域 X でも触れるが、第 2 回目の外部評価会議を実施し、とくに建学の精神と各学科の教育目標、日頃の教育活動の取組との関連について検討を行った。

【課題・改善策】 平成 23 年度には、「中期計画」の検証を行うとともに、外部評価での指摘等を踏まえ、今後の 2 年間の新・中期計画の策定と、各種のポリシー（教育課程、入試、学生支援、単位認定等）の見直しや各学科の教育目標の確認を積極的に行っていきたい。



## 領域Ⅱ 教育の内容

### 【教育課程について】

(1) 学科等の現在の教育課程を、下の表を例に作成して下さい。なお学科等に複数の履修コースを設定し、学生に別の教育課程表として提示している場合はコースごとに記載して下さい。平成 22 年度に学科改組等を行った場合は、平成 21 年度の教育課程表を別途作成し、巻末に綴じて下さい。

【現状・評価】 平成 23 年 5 月 1 日現在の「教育課程表」は以下の通りである。履修者数およびクラス数は平成 22 年度分のものであり、教員配置が空欄の科目は担当者未定の科目である。

### (1) 平成 23 年度 共通教育科目 教育課程 (平成 23 年 5 月 1 日現在)

| 科目の種別                | 授業科目名           | 授業形態 |    |    | 単 位 |    |    | 教員配置 |    |    | 前年度の履修人員<br>(クラス数) | 備考  |
|----------------------|-----------------|------|----|----|-----|----|----|------|----|----|--------------------|-----|
|                      |                 | 講義   | 演習 | 実習 | 必修  | 選択 | 自由 | 専任   | 兼任 | 兼任 |                    |     |
| 精神・「建学の精神」科目         | 人間学             | ○    |    |    | 2   |    |    | ○    |    | ○  | 207(4)             |     |
|                      | キリスト教概論         | ○    |    |    | 2   |    |    | ○    |    | ○  | 182(4)             |     |
| 現代教養科目               | 文学の世界           | ○    |    |    |     | 2  |    | ○    |    |    | —                  |     |
|                      | 歴史の中の日本         | ○    |    |    |     | 2  |    |      |    | ○  | 53                 |     |
|                      | 音楽の世界           | ○    |    |    |     | 2  |    | ○    |    |    | 56                 |     |
|                      | 美術の世界           | ○    |    |    |     | 2  |    | ○    |    |    | 23                 |     |
|                      | キリスト教と現代        | ○    |    |    |     | 2  |    |      |    | ○  | 70                 |     |
|                      | 日本国憲法           | ○    |    |    |     | 2  |    |      |    | ○  | 134(2)             |     |
|                      | 経済と生活           | ○    |    |    |     | 2  |    |      |    | ○  | 52                 |     |
|                      | 子どもと学校          | ○    |    |    |     | 2  |    | ○    |    |    | 105                |     |
|                      | これからの社会福祉       | ○    |    |    |     | 2  |    | ○    |    |    | 63                 |     |
|                      | レクリエーション概論 A    | ○    |    |    |     | 2  |    | ○    |    |    | 25                 |     |
|                      | メディアの世界         | ○    |    |    |     | 2  |    |      |    | ○  | 43                 |     |
|                      | 子育てと遊びの文化       | ○    |    |    |     | 2  |    | ○    |    |    | -                  |     |
|                      | 心の科学            | ○    |    |    |     | 2  |    | ○    |    |    | 88                 |     |
|                      | スポーツとノーマライゼーション | ○    |    |    |     | 2  |    | ○    |    |    | -                  |     |
|                      | 女性とキャリア         | ○    |    |    |     | 2  |    | ○    |    |    | -                  |     |
| コミュニケーション・スキル・英語・中国語 | 日本語表現Ⅰ          | ○    |    |    |     | 2  |    |      |    | ○  | 79(2)              |     |
|                      | 日本語表現Ⅱ          | ○    |    |    |     | 2  |    |      |    | ○  | 94                 |     |
|                      | 日本語表現Ⅲ          | ○    |    |    |     | 2  |    |      |    |    | 23                 | ※ 1 |
|                      | 教養としての数学        | ○    |    |    |     | 2  |    |      |    | ○  | 63                 |     |
|                      | 手話通訳            |      | ○  |    |     | 2  |    |      |    | ○  | 28                 |     |
|                      | 英語              |      | ○  |    |     | 2  |    |      |    | ○  | 98(3)              |     |
|                      | 中国語             |      | ○  |    |     | 2  |    |      |    | ○  | 23                 |     |
| スポーツと健康              | 保健体育講義          | ○    |    |    |     | 1  |    | ○    |    |    | 135(2)             |     |
|                      | 体育実技            |      |    | ○  |     | 1  |    | ○    |    | ○  | 121(4)             |     |

## 領域Ⅱ

|          |              |   |   |   |  |   |  |   |  |   |     |     |
|----------|--------------|---|---|---|--|---|--|---|--|---|-----|-----|
| 関連資格     | レクリエーション概論 B | ○ |   |   |  | 2 |  | ○ |  |   | 69  |     |
|          | レクリエーション実技   |   | ○ |   |  | 1 |  |   |  | ○ | 70  |     |
|          | ニュースポーツ      |   |   | ○ |  | 1 |  |   |  | ○ | 23  |     |
|          | コミュニティスポーツ   |   |   | ○ |  | 1 |  | ○ |  | ○ | 101 |     |
| 学外活動     | 海外研修 A       |   |   | ○ |  | 2 |  | ○ |  |   | 4   | ※ 2 |
|          | 海外研修 B       |   |   | ○ |  | 1 |  | ○ |  |   | 14  | ※ 3 |
|          | ボランティア活動     |   |   | ○ |  | 1 |  | ○ |  |   | 1   | ※ 4 |
|          | 国際交流活動       |   |   | ○ |  | 1 |  | ○ |  |   | 0   |     |
| 学他大学認定科目 | (他学科開講科目群)   |   |   |   |  |   |  |   |  |   | 1   |     |
|          | (相互開放科目群)    |   |   |   |  |   |  |   |  |   | 6   |     |
|          | (他大学等履修科目群)  |   |   |   |  |   |  |   |  |   |     |     |

※前年度の履修人員が空欄の科目は、22 年度不開講であった科目である。

※ 1 「日本語表現Ⅲ」は検定試験合格に対応した科目である。

※ 2 履修人員は、22 年度の旧課程「海外文化研修 A」2 名を含む数値である。

※ 3 履修人員は、22 年度の旧課程「海外文化研修 B」2 名を含む数値である。

※ 4 履修人員は、22 年度の旧課程「ボランティア活動 A」の数値である。

## (2) 平成23年度 幼児教育科 専門教育科目 教育課程 (平成23年5月1日現在)

| 科目の種別    | 授業科目名    | 授業形態 |    |    | 単 位 |    |    | 教員配置 |    |    | 前年度の履修人員<br>(クラス数) | 備考  |
|----------|----------|------|----|----|-----|----|----|------|----|----|--------------------|-----|
|          |          | 講義   | 演習 | 実習 | 必修  | 選択 | 自由 | 専任   | 兼任 | 兼任 |                    |     |
| 保育の原理・目的 | 保育者セミナーⅠ | ○    |    |    | 2   |    |    | ○    |    |    | 119(10)            |     |
|          | 保育者セミナーⅡ |      | ○  |    | 1   |    |    |      |    |    | —                  |     |
|          | 教育基礎論    | ○    |    |    |     | 2  |    | ○    |    |    | 96                 |     |
|          | 保育原理     | ○    |    |    | 2   |    |    | ○    |    |    | 119                |     |
|          | 児童家庭福祉   | ○    |    |    | 2   |    |    | ○    |    |    | 121                | ※ 1 |
|          | 児童福祉Ⅱ    | ○    |    |    |     | 2  |    | ○    |    |    | 34                 |     |
|          | 社会的養護    | ○    |    |    |     | 2  |    | ○    |    |    | 119                | ※ 2 |
|          | 養護原理Ⅱ    | ○    |    |    |     | 2  |    | ○    |    |    | 32                 |     |
|          | 社会福祉     | ○    |    |    |     | 2  |    | ○    |    |    | 121                |     |
|          | 相談援助     |      | ○  |    |     | 1  |    | ○    |    |    | 96(4)              | ※ 3 |
|          | 地域福祉     | ○    |    |    |     | 2  |    |      |    | ○  | 30                 |     |
|          | 障害者福祉    | ○    |    |    |     | 2  |    |      |    | ○  | 24                 |     |
|          | 高齢者福祉    | ○    |    |    |     | 2  |    |      |    | ○  | 39                 |     |
| 対象の理解    | 発達心理学    | ○    |    |    | 2   |    |    | ○    |    |    | 121                |     |
|          | 発達心理学Ⅱ   |      | ○  |    |     | 2  |    | ○    |    |    | 54                 |     |
|          | 発達心理学Ⅲ   |      | ○  |    |     | 2  |    | ○    |    |    | 11                 |     |
|          | 教育心理学    | ○    |    |    |     | 1  |    | ○    |    |    | 96                 |     |
|          | 臨床心理学    |      | ○  |    |     | 2  |    | ○    |    |    | 20                 |     |
|          | 子どもの保健Ⅰ  | ○    |    |    | 4   |    |    | ○    |    |    | 119                | ※ 4 |
|          | 子どもの保健Ⅱ  |      | ○  |    |     | 1  |    | ○    |    |    | 96(4)              | ※ 5 |
|          | 小児保健Ⅱ    |      | ○  |    |     | 2  |    | ○    |    |    | 19                 |     |
|          | 子どもの食と栄養 |      | ○  |    |     | 2  |    |      |    | ○  | 96(2)              | ※ 6 |
|          | 保育相談概論   | ○    |    |    |     | 2  |    |      |    | ○  | 93                 |     |
|          | 家庭支援論    | ○    |    |    |     | 2  |    |      |    | ○  | 96(2)              | ※ 7 |

領域Ⅱ

|          |                |   |   |   |  |   |  |   |  |   |         |     |
|----------|----------------|---|---|---|--|---|--|---|--|---|---------|-----|
| 保育内容・方法  | 教育保育課程総論       | ○ |   |   |  | 2 |  | ○ |  |   | 119     | ※ 8 |
|          | 育ちとコミュニケーション   |   | ○ |   |  | 2 |  | ○ |  |   | 120(2)  |     |
|          | 遊びと環境          |   | ○ |   |  | 2 |  | ○ |  |   | 119(2)  |     |
|          | 個性と表現          |   | ○ |   |  | 2 |  | ○ |  |   | 119(2)  |     |
|          | 保育内容指導法        |   | ○ |   |  | 2 |  | ○ |  |   | 95(2)   |     |
|          | 指導計画の研究        |   | ○ |   |  | 2 |  | ○ |  |   | 33      |     |
|          | 保育観察の研究        |   | ○ |   |  | 2 |  | ○ |  |   | 34      |     |
|          | 保育教材の研究        |   | ○ |   |  | 2 |  | ○ |  |   | 29      |     |
|          | 保育方法の研究Ⅰ       |   | ○ |   |  | 2 |  |   |  | ○ | 17      |     |
|          | 保育方法の研究Ⅱ       |   | ○ |   |  | 2 |  | ○ |  |   | 18      |     |
|          | 保育方法の研究Ⅲ       |   | ○ |   |  | 2 |  | ○ |  |   | 7       |     |
|          | モンテッソーリ教育法     |   | ○ |   |  | 2 |  |   |  | ○ | 46      |     |
|          | 障害児保育          |   | ○ |   |  | 2 |  | ○ |  |   | 96(2)   |     |
|          | 保育内容総論         |   | ○ |   |  | 1 |  |   |  | ○ | 96(2)   |     |
|          | 乳児保育           |   | ○ |   |  | 2 |  |   |  | ○ | 120(2)  |     |
|          | 乳児保育Ⅱ          |   | ○ |   |  | 2 |  |   |  | ○ | 20      |     |
|          | 社会的養護内容        |   | ○ |   |  | 1 |  | ○ |  |   | 96(2)   | ※ 9 |
|          | 保育相談支援         |   | ○ |   |  | 1 |  | ○ |  |   | -       |     |
|          | 児童文化の研究Ⅰ       |   | ○ |   |  | 2 |  |   |  | ○ | 55      |     |
|          | 児童文化の研究Ⅱ       |   | ○ |   |  | 2 |  |   |  | ○ | 42      |     |
| 基礎的教養・技能 | 音楽             |   | ○ |   |  | 2 |  | ○ |  | ○ | 179(18) |     |
|          | 図画工作           |   | ○ |   |  | 2 |  | ○ |  | ○ | 119(4)  |     |
|          | 体育             |   | ○ |   |  | 2 |  | ○ |  |   | 119(4)  |     |
|          | 音楽Ⅱ            |   | ○ |   |  | 2 |  | ○ |  |   | 28      |     |
|          | 音楽Ⅲ            |   | ○ |   |  | 2 |  | ○ |  | ○ | 15      |     |
|          | 図画工作Ⅱ          |   | ○ |   |  | 2 |  | ○ |  |   | 33      |     |
|          | 体育Ⅱ            |   | ○ |   |  | 2 |  | ○ |  |   | 49      |     |
|          | 国語             | ○ |   |   |  | 2 |  |   |  | ○ | 20      |     |
|          | 生活             | ○ |   |   |  | 2 |  |   |  | ○ | 25      |     |
|          | 児童文化総論         | ○ |   |   |  | 2 |  |   |  | ○ | 52      |     |
|          | 教育情報処理演習       |   | ○ |   |  | 2 |  | ○ |  |   | 121(3)  |     |
| 演習台      | 保育・教職実践演習（幼稚園） |   | ○ |   |  | 2 |  | ○ |  |   | -       |     |
|          | 卒業研究セミナー       |   | ○ |   |  | 2 |  | ○ |  |   | 96(10)  |     |
| 実習       | 教育実習 1 年次      |   |   | ○ |  | 5 |  | ○ |  |   | 119     |     |
|          | 教育実習 2 年次      |   |   | ○ |  |   |  | ○ |  |   | 95      |     |
|          | 保育実習Ⅰ 1 年次     |   |   | ○ |  | 4 |  | ○ |  | ○ | 119(3)  |     |
|          | 保育実習Ⅰ 2 年次     |   |   | ○ |  |   |  | ○ |  |   | 96      |     |
|          | 保育実習Ⅰ ガイダンス    |   | ○ |   |  | 2 |  |   |  | ○ | -       |     |
|          | 保育実習Ⅱ          |   |   | ○ |  | 2 |  | ○ |  | ○ | 71(2)   |     |
|          | 保育実習Ⅱ ガイダンス    |   | ○ |   |  | 1 |  |   |  |   | -       |     |
|          | 保育実習Ⅲ          |   |   | ○ |  | 2 |  | ○ |  |   | 25      |     |
|          | 保育実習Ⅲ ガイダンス    |   | ○ |   |  | 1 |  |   |  |   | -       |     |
| 自主科目     | 保育特別講座Ⅰ        |   | ○ |   |  | 1 |  |   |  | ○ | 48      |     |
|          | 保育特別講座Ⅱ        |   | ○ |   |  | 1 |  |   |  | ○ | 8       |     |
|          | 児童の健全育成と福祉     | ○ |   |   |  | 1 |  | ○ |  | ○ | 30      |     |
|          | 児童館の機能と運営      | ○ |   |   |  | 2 |  |   |  | ○ | 30      |     |
|          | 児童館実習          |   |   | ○ |  | 2 |  | ○ |  |   | 30      |     |

※前年度の履修人員が空欄の科目は、22 年度不開講であった科目である

※ 1 履修人員は、22 年度の旧課程「児童福祉」の数値である。

## 領域Ⅱ

- ※2 履修人員は、22年度の旧課程「養護原理」の数値である。
- ※3 履修人員は、22年度の旧課程「社会福祉援助技術」2単位の数値である。
- ※4 履修人員は、22年度の旧課程「小児保健」の数値である。
- ※5 履修人員は、22年度の旧課程「小児保健実習」の数値である。
- ※6 履修人員は、22年度の旧課程「小児栄養」の数値である。
- ※7 履修人員は、22年度の旧課程「家族援助論」の数値である。
- ※8 履修人員は、22年度の旧課程「教育課程総論」の数値である。
- ※9 履修人員は、23年度の旧課程「養護内容」の数値である。

## (3) 平成23年度 国際コミュニケーション科 専門教育科目 教育課程

(平成23年5月1日現在)

| 科目の種別   | 授業科目名                  | 授業形態 |    |    | 単 位 |    |    | 教員配置 |    |    | 前年度の履修人員<br>(クラス数) | 備考 |
|---------|------------------------|------|----|----|-----|----|----|------|----|----|--------------------|----|
|         |                        | 講義   | 演習 | 実習 | 必修  | 選択 | 自由 | 専任   | 兼任 | 兼任 |                    |    |
| 学科基礎科目  | フレッシュマン・セミナー           |      | ○  |    | 2   |    |    | ○    |    |    | 86(8)              |    |
|         | 情報基礎演習                 |      | ○  |    | 2   |    |    | ○    |    | ○  | 86(6)              |    |
|         | 英語演習Ⅰ                  |      | ○  |    | 2   |    |    | ○    |    | ○  | 86(4)              |    |
|         | 英会話Ⅰ                   |      | ○  |    | 2   |    |    | ○    |    | ○  | 87(4)              |    |
|         | フィールドワーク               |      | ○  |    | 2   |    |    | ○    |    |    | 83(4)              |    |
|         | プレゼンテーション基礎            |      | ○  |    | 2   |    |    | ○    |    |    | 82(4)              |    |
|         | キャリア・デザイン              | ○    |    |    | 2   |    |    | ○    |    |    | 83                 |    |
|         | 卒業研究セミナーⅠ              |      | ○  |    | 2   |    |    | ○    |    |    | 98(8)              |    |
|         | 卒業研究セミナーⅡ              |      | ○  |    | 2   |    |    | ○    |    |    | 98(8)              |    |
|         | 英語演習Ⅱ                  |      | ○  |    |     | 2  |    | ○    |    | ○  | 31(2)              |    |
|         | 英会話Ⅱ                   |      | ○  |    |     | 2  |    | ○    |    | ○  | 30(4)              |    |
|         | ハングルⅠ                  |      | ○  |    |     | 2  |    |      |    | ○  | 32                 |    |
|         | ハングルⅡ                  |      | ○  |    |     | 2  |    |      |    | ○  | 29                 |    |
|         | 中国語Ⅰ                   |      | ○  |    |     | 2  |    |      |    | ○  | 18                 |    |
|         | 中国語Ⅱ                   |      | ○  |    |     | 2  |    |      |    | ○  | 16                 |    |
|         | スペイン語Ⅰ                 |      | ○  |    |     | 2  |    |      |    | ○  | 15                 |    |
|         | スペイン語Ⅱ                 |      | ○  |    |     | 2  |    |      |    | ○  | 13                 |    |
| コース専門科目 | 英語学概論                  | ○    |    |    |     | 2  |    | ○    |    |    | 21                 |    |
|         | 英語音声学                  |      | ○  |    |     | 2  |    | ○    |    |    | 20                 |    |
|         | English CommunicationⅠ |      | ○  |    |     | 2  |    | ○    |    | ○  | -                  |    |
|         | English CommunicationⅡ |      | ○  |    |     | 2  |    | ○    |    | ○  | 33(2)              |    |
|         | Essay Writing          |      | ○  |    |     | 2  |    | ○    |    |    | 31                 |    |
|         | TOEIC                  |      | ○  |    |     | 2  |    |      |    | ○  | 32                 | ※1 |
|         | Vocabulary Building    |      | ○  |    |     | 2  |    |      |    | ○  | 21                 |    |
|         | Speech & Discussion    |      | ○  |    |     | 2  |    |      |    | ○  | 31(2)              |    |
|         | Advanced Reading       |      | ○  |    |     | 2  |    | ○    |    |    | 32                 |    |
|         | English for ChildrenⅠ  |      | ○  |    |     | 2  |    | ○    |    |    | 0                  |    |
|         | English for ChildrenⅡ  |      | ○  |    |     | 2  |    | ○    |    |    | 0                  |    |
|         | English Pop Culture    |      | ○  |    |     | 2  |    | ○    |    |    | -                  |    |
|         | 英米の文学                  | ○    |    |    |     | 2  |    | ○    |    |    | 20                 |    |
|         | 言語学入門                  | ○    |    |    |     | 2  |    | ○    |    |    | 19                 |    |
|         | 英語教育法                  | ○    |    |    |     | 2  |    | ○    |    |    | 0                  |    |
|         | 教育心理学                  | ○    |    |    |     | 2  |    |      | ○  |    | 1                  |    |
|         | 教育工学                   |      | ○  |    |     | 2  |    | ○    |    |    | 3                  |    |
|         | 国際交流概論                 | ○    |    |    |     | 2  |    | ○    |    |    | 21                 |    |
|         | 国際ボランティア論              | ○    |    |    |     | 2  |    | ○    |    |    | 16                 |    |
|         | 日本文化研究                 | ○    |    |    |     | 2  |    | ○    |    |    | 35                 |    |
|         | 日本の伝統文化A               |      | ○  |    |     | 2  |    |      |    | ○  | 43(2)              |    |
|         | 日本の伝統文化B               |      | ○  |    |     | 2  |    |      |    | ○  | -                  |    |
|         | アジア地域研究                | ○    |    |    |     | 2  |    |      |    | ○  | 43                 | ※2 |
|         | アメリカ地域研究               | ○    |    |    |     | 2  |    |      |    | ○  | 50                 | ※3 |
|         | ヨーロッパ地域研究              | ○    |    |    |     | 2  |    | ○    |    |    | 55                 | ※4 |

領域Ⅱ

|         |                |   |   |   |  |   |  |   |  |   |       |     |
|---------|----------------|---|---|---|--|---|--|---|--|---|-------|-----|
| コース専門科目 | 異文化間コミュニケーション  | ○ |   |   |  | 2 |  |   |  | ○ | 21    |     |
|         | 国際協力           | ○ |   |   |  | 2 |  | ○ |  |   | 8     |     |
|         | 海外ボランティア演習     |   | ○ |   |  | 2 |  | ○ |  |   | 8     |     |
|         | 海外ボランティア実習     |   |   | ○ |  | 2 |  | ○ |  |   | 5(2)  |     |
|         | NGO・NPO論       | ○ |   |   |  | 2 |  | ○ |  |   | 11    |     |
|         | 日本語教育Ⅰ         | ○ |   |   |  | 2 |  |   |  | ○ | 8     |     |
|         | 日本語教育Ⅱ         | ○ |   |   |  | 2 |  |   |  | ○ | -     |     |
|         | 地域メディア論        | ○ |   |   |  | 2 |  | ○ |  |   | 21    |     |
|         | リサーチ演習         |   | ○ |   |  | 2 |  | ○ |  |   | -     |     |
|         | プレゼンテーション実践    |   | ○ |   |  | 2 |  | ○ |  |   | 39(2) | ※5  |
|         | ウェブデザイン概論      |   | ○ |   |  | 2 |  | ○ |  |   | 27    |     |
|         | 情報発信演習         |   | ○ |   |  | 2 |  |   |  | ○ | 58(2) |     |
|         | 情報科学           | ○ |   |   |  | 2 |  | ○ |  |   | 44    |     |
|         | ビジュアル表現演習      |   | ○ |   |  | 2 |  | ○ |  |   | 25    | ※6  |
|         | ウェブプログラミング演習   |   | ○ |   |  | 2 |  |   |  | ○ | 17    |     |
|         | メディア制作         |   | ○ |   |  | 2 |  |   |  | ○ | 29    |     |
|         | 画像処理演習         |   | ○ |   |  | 2 |  |   |  | ○ | 30(2) | ※7  |
|         | 情報科学演習Ⅰ        |   | ○ |   |  | 2 |  | ○ |  |   | 40    |     |
|         | 情報科学演習Ⅱ        |   | ○ |   |  | 2 |  |   |  | ○ | 17    |     |
|         | マスコミュニケーション    | ○ |   |   |  | 2 |  |   |  | ○ | 28    |     |
|         | 地域社会論          | ○ |   |   |  | 2 |  | ○ |  |   | 14    |     |
|         | オフィスワーク演習Ⅰ     |   | ○ |   |  | 2 |  | ○ |  |   | 60    | ※8  |
|         | オフィスワーク演習Ⅱ     |   | ○ |   |  | 2 |  | ○ |  |   | 40    |     |
|         | 現代企業論          | ○ |   |   |  | 2 |  | ○ |  |   | 85    |     |
|         | ビジネス思考法入門      |   | ○ |   |  | 2 |  | ○ |  |   | 34    |     |
|         | 国際経済と日本        | ○ |   |   |  | 2 |  |   |  | ○ | 54    |     |
|         | 日本語と情報処理       |   | ○ |   |  | 2 |  | ○ |  | ○ | 43    |     |
|         | 情報管理と活用        |   | ○ |   |  | 2 |  |   |  | ○ | 42(2) |     |
|         | オフィスワーク実務      |   | ○ |   |  | 2 |  | ○ |  |   | 59(2) |     |
|         | ビジネス・インターンシップⅠ |   |   | ○ |  | 2 |  | ○ |  |   | 43(2) | ※9  |
|         | ビジネス・インターンシップⅡ |   |   | ○ |  | 2 |  | ○ |  |   | -     |     |
|         | マーケティング        | ○ |   |   |  | 2 |  |   |  | ○ | 36    |     |
|         | 観光ビジネスとホスピタリティ | ○ |   |   |  | 2 |  |   |  | ○ | 54    | ※10 |
|         | 旅行業務の基礎        | ○ |   |   |  | 2 |  |   |  | ○ | -     |     |
|         | 起業と経営学入門       | ○ |   |   |  | 2 |  | ○ |  |   | 11    |     |
|         | 簿記会計演習Ⅰ        |   | ○ |   |  | 2 |  |   |  | ○ | 22    |     |
|         | 簿記会計演習Ⅱ        |   | ○ |   |  | 2 |  |   |  | ○ | 19    |     |
| 学科選択科目  | ハングル・セミナーⅠ     |   | ○ |   |  | 2 |  |   |  | ○ | 6     |     |
|         | ハングル・セミナーⅡ     |   | ○ |   |  | 2 |  |   |  | ○ | 6     |     |
|         | 中国語セミナーⅠ       |   | ○ |   |  | 2 |  |   |  | ○ | 12    |     |
|         | 中国語セミナーⅡ       |   | ○ |   |  | 2 |  |   |  | ○ | 11    |     |
|         | スペイン語セミナーⅠ     |   | ○ |   |  | 2 |  |   |  | ○ | 7     |     |
|         | スペイン語セミナーⅡ     |   | ○ |   |  | 2 |  |   |  | ○ | 6     |     |
|         | ボランティア活動論      | ○ |   |   |  | 2 |  | ○ |  |   | 5     | ※11 |
|         | ボランティア技術演習     |   | ○ |   |  | 2 |  |   |  | ○ | 16    |     |
|         | キリスト教芸術と音楽     | ○ |   |   |  | 2 |  |   |  | ○ | -     |     |
|         | 現代社会とキリスト教     | ○ |   |   |  | 2 |  | ○ |  |   | 98(2) | ※12 |
|         | 世界の歴史と文化       | ○ |   |   |  | 2 |  | ○ |  |   | 14    |     |
|         | ドラマ・ワークショップ    |   | ○ |   |  | 2 |  |   |  | ○ | 8     |     |
|         | 舞踊芸術A          |   | ○ |   |  | 2 |  |   |  | ○ | -     |     |
|         | 舞踊芸術B          |   | ○ |   |  | 2 |  |   |  | ○ | -     |     |

- ※前年度の履修人員が空欄の科目は、22年度不開講であった科目である。
- ※1 履修人員は、22年度の旧課程「TOEIC・TOEFL」の数値である。
- ※2 履修人員は、22年度の旧課程「アジア文化研究」の数値である。
- ※3 履修人員は、22年度の旧課程「アメリカ文化研究」の数値である。
- ※4 履修人員は、22年度の旧課程「ヨーロッパ文化研究」の数値である。
- ※5 履修人員は、22年度の旧課程「プレゼンテーション基礎演習」の数値である。
- ※6 履修人員は、22年度の旧課程「プレゼンテーション応用演習」の数値である。
- ※7 履修人員は、22年度の旧課程「情報処理演習」の数値である。
- ※8 履修人員は、22年度の旧課程「オフィスワーク概論・演習」の数値である。
- ※9 履修人員は、22年度の旧課程「ビジネス・インターンシップⅠ」の数値である。
- ※10 履修人員は、22年度の旧課程「観光ビジネス論」の数値である。
- ※11 履修人員は、22年度の旧課程「ボランティア概論」の数値である。
- ※12 履修人員は、22年度の旧課程「国際セミナー」の数値である。

#### (4) 平成23年度 国際コミュニケーション科 教職専門教育科目 教育課程

(平成23年5月1日現在)

| 科目の種別    | 授業科目名       | 授業形態 |    |    | 単 位 |    |    | 教員配置 |    |    | 前年度の履修人員<br>(クラス数) | 備考 |
|----------|-------------|------|----|----|-----|----|----|------|----|----|--------------------|----|
|          |             | 講義   | 演習 | 実習 | 必修  | 選択 | 自由 | 専任   | 兼任 | 兼任 |                    |    |
| 教職専門教育科目 | 教職論         | ○    |    |    | 2   |    |    |      | ○  |    | 7                  |    |
|          | 教育基礎論       | ○    |    |    | 2   |    |    |      | ○  |    | 7                  |    |
|          | 道德教育の研究     | ○    |    |    | 1   |    |    |      |    | ○  | 7                  |    |
|          | 特別活動        | ○    |    |    | 1   |    |    |      |    | ○  | 7                  |    |
|          | 生徒指導        | ○    |    |    | 2   |    |    |      | ○  |    | 7                  |    |
|          | カウンセリング基礎論  | ○    |    |    | 2   |    |    |      |    | ○  | 21                 |    |
|          | 教職実践演習(中学校) |      | ○  |    | 2   |    |    | ○    |    |    | 13                 | ※1 |
|          | 教育実習        |      |    | ○  | 5   |    |    | ○    |    |    | 7                  |    |
|          | 英語教育法       | ○    |    |    | 2   |    |    | ○    |    |    | 7                  |    |
|          | 教育心理学       | ○    |    |    | 2   |    |    | ○    |    |    | 11                 |    |
|          | 教育学         |      | ○  |    | 2   |    |    | ○    |    |    | 4                  |    |

※前年度の履修人員が空欄の科目は、22年度不開講であった科目である。

※1 履修人員は、22年度の旧課程「総合演習」の数値である。

(2) 教養教育の取組み、専門教育の内容、授業形態のバランス、必修・選択のバランス、専任教員の配置等について特に強調したいことがあれば記述して下さい。

#### 【現状・評価】

#### 共通教育科目

教養教育にあたる科目区分として「共通教育科目」を設けている。平成21年度に、併設大学の基礎教育科目との連携を含めた共通教育科目に関するカリキュラム改定を行い、平成22年度入学生から新たなカリキュラムによる履修となった。昨年度までとの相違点は「他学科教養科目」および「自由選択科目」を廃止したこと、さらに卒業必修として2単位分を上乗せしたこと等が主な改定点である。

「共通教育科目」は「建学の精神」に関する科目のほか、教養を学ぶ目的で38科目を開設し、平成22年度は26科目を開講した。不開講科目も隔年開講であり、在学中にすべての科目が選択可能である。生涯学習の基盤となるよう、現代的教養、各種のコミュニケーション・スキル科目、スポーツと健康科学等のバランスを配慮している。共通教育科目の取組みとして「課題図書および読書感想文」を別途設定しているが、教員間の共通認識は概ね図られたようだ。



## 領域Ⅱ

卒業必修の「人間学」「キリスト教概論」は、建学の精神に直結した科目であり、各学科クラス別で開講し、キリスト教の世界観や価値観を学ぶ機会である。

「日本語表現Ⅲ」および「英語」は各種検定試験合格によって単位認定を行っている。しかしこれらの科目は、より上級の合格を目指すべく継続的な学修を指導、奨励している。

平成 19 年度から本学は(財)日本レクリエーション協会公認指導者養成課程認定校となり、レクリエーション・インストラクターの養成カリキュラムが導入されている。なお、先述した通り今年度から「自由選択科目」の廃止に伴い、この資格養成講座は「共通資格関連科目」と名称を変更し、共通教育科目の枠組に入れることとなった。

学外活動認定科目の「海外研修 AB」「ボランティア活動」「国際交流活動」は、当該規程に従って担当委員会が単位認定を行っている。

「他大学等認定科目」という科目区分の目的は、学外での積極的な学習機会を促すところにある。「他学科開講科目群」（他学科の専門教育科目）や併設の清泉女学院大学の開講科目を履修する「相互履修科目群」は、科目担当者が履修を認めた場合に限られるが、柔軟な対応をとっている。

### 幼児教育科

保育者養成のねらいや内容に応じて、「保育の原理・目的に関する科目」、「対象の理解に関する科目」、「保育内容・方法に関する科目」、「基礎的教養・技能の科目」、「総合演習科目」、「実習科目」に区分して履修すると同時に、本学では3つのコース（幼児教育、社会福祉、児童文化）を設け、学生の希望により専門分野や興味・関心を深められるようコース内で選択科目を編成している。その他コース以外の選択科目として保育者に必要な広い視野と現代的専門性、実践力を学修する機会として自主科目の1単位授業で「保育特別講座」として＜ユーモア・コミュニケーション＞＜自然体験活動＞を開設した。

学科必修科目、実習科目などの基幹科目は、原則として専任教員を配置している。専任担当科目数は55（前年度49）、兼任担当科目数は18（前年度26）科目で専任の担当を充実させ、兼任に頼る率を少なくした。

### 国際コミュニケーション科

従来の英語コミュニケーション、国際文化、情報ビジネス、ヒューマンコミュニケーションの4コースから、平成22年度に英語、国際交流、地域情報、ビジネスの4コースに再編した。

卒業に要する学科必修単位数は変わらず50単位以上である。必修である学科基礎科目は、選択必修の外国語科目2科目4単位を含めて22単位である。加えてコース専門科目は、コース必修10単位、コース選択10単位以上のあわせて20単位以上である。残りの専門科目は学科選択科目としてまとめ、特に履修上の条件をつけていない。今回の改定で、必修以外の科目は多くを4コースに分配した形になったが、時間割の関係から、コース以外の科目も比較的履修しやすい状態になっている。全体として選択科目数は十分多く、多様な選択性を保証している。

専門教育科目は、平成22年度入学生のカリキュラムで、講義32科目、演習60科目、実

習3科目であり、少人数クラスを強調したよいバランスである。

学科必修科目などの基幹科目は、原則として専任教員を配置している。少人数クラスの必修科目では、一部兼任講師を依頼している場合もあるが、専任教員がチーフとなり兼任講師との調整や打ち合わせを十分実施している。

(3) 当該教育課程を履修することによって取得が可能な免許・資格を示して下さい。また教育課程に関係なく免許・資格等を取得する機会を設けている場合は、その免許・資格名とどのような履修方法であるかを記述して下さい。

#### 【現状・評価】

#### 幼児教育科

教育課程を履修することによって取得可能な免許・資格は、①幼稚園教諭二種免許状、②保育士資格である。設定されている3つのコース（幼児教育、社会福祉、児童文化）ともに、2つの免許と資格のいずれの取得も可能となっている。その他③レクリエーション・インストラクター資格(平成21年度4人)、④児童厚生二級指導員資格(平成22年度実施)。

#### 国際コミュニケーション科

教育課程を履修することによって取得可能な免許・資格は、①中学校教諭二種免許状(英語)、②情報処理士(全国大学実務教育協会)、③上級情報処理士(全国大学実務教育協会)、④プレゼンテーション実務士(全国大学実務教育協会)、⑤国際ボランティア実務士(全国大学実務教育協会)である。22年度より⑥ウェブデザイン実務士(全国大学実務教育協会)の取得も可能になった(21年度入学生も22年度卒業時に取得可能)。一方、ボランティア実務士(全国大学実務教育協会)は、22年度入学生より取得ができなくなっている(21年度入学生まで取得可能)。

受験合格のための内容を講座に取り込み、履修後など受験を推奨したり義務づけしたりしている資格・検定には以下のものがある。

- ① 秘書実務士(秘書サービス接遇教育学会):秘書技能検定(文科省後援、実務技能検定協会)2級に合格し、さらに英語、珠算、パソコン等の分野の検定試験で同学会の定める等級以上を取得している者、あるいは秘書技能検定2級の合格に加え準1級以上の一次(筆記)試験に合格している者が、本学秘書実務教育担当者の面接を受け資格認定が適当と認められることにより取得できる。
- ② 秘書技能検定:「オフィスワーク演習Ⅰ」において検定試験受験のための講座を行っている。検定試験は、3級、2級、準1級の筆記試験は、学内で実施している。
- ③ サービス接遇検定(文科省後援、実務技能検定協会):「オフィスワーク演習Ⅰ」において検定試験受験のための講座を行っている。3級、2級の検定試験は学内で実施している。
- ④ TOEIC(国際ビジネスコミュニケーション協会):「TOEIC」において受験を奨励している。TOEICのIPテストは授業内で実施している。
- ⑤ 実用英語技能検定(日本英語検定協会):「英語演習Ⅰ・Ⅱ」において受験を奨励している。準2級、2級の検定試験は学内で実施している。
- ⑥ 日商PC検定・文書作成およびデータ活用(日本商工会議所):「日本語と情報処理」

## 領域Ⅱ

および「情報管理と活用」において3級以上の取得を目標に指導している。検定試験は学内で実施している。

- ⑦ ファイリング・デザイナー検定（日本経営協会）：21 年度秋学期より長野地区初の会場校として試験を導入。「オフィスワーク演習Ⅱ」において受験を奨励している。授業外で特別対策講座を実施のうえ、12 月に受験。
- ⑧ 簿記検定（日本商工会議所）：「簿記会計演習Ⅰ・Ⅱ」において受験のための講座を行い、受験を奨励している。

（４）選択科目を学生が適切に判断して選択できるように、学生便覧やガイダンス等どのように指導しているか、また学生が希望する選択科目を履修しやすいように、時間割上どのような工夫を施しているか等について記述して下さい。

【現状・評価】 共通教育科目 16 単位以上のうち必修科目は 2 科目 4 単位であり、選択科目は 2 年間にわたる計画的履修を指導している（「学生便覧」を参照）。また、時間割上、春・秋学期ともに共通教育科目の開講時間帯を 3 ヶ所（水曜日Ⅰ、木曜日Ⅱ、金曜日Ⅳ）に固定し、学生の希望する科目が選択・履修できるよう配慮している。

幼児教育科の専門教育科目（48 単位以上履修）では、学科必修科目は平成 22 年度入学生 8 科目 20 単位、平成 21 年度入学生 9 科目 22 単位、コース必修および選択必修科目は 5 科目 10 単位であり、残りの 16 単位以上は選択履修である。コース選択必修科目は 4～8 単位分が充当されている。また、専門教育科目 67 科目のうち、卒業必修科目は 8 または 9 科目、コース必修科目は 7 科目、コース選択必修科目は 17 科目であり、自由選択科目は 35 科目である。ただし、これらの多くは幼稚園免許、保育士資格の選択科目となっている。時間割上、諸資格取得による制約が大きいが、選択科目の時間帯は 2 年次で春学期 5 コマ、秋学期 6 コマあり、また、学年共通の選択科目も 3 科目、2 コマの時間帯を設定している。

国際コミュニケーション科の科目選択性はかなり高く、学期始めには特に新生に対して、履修オリエンテーション、オリエンテーション・キャンプ、フレッシュマン・セミナーなどの中で、あるいはビッグシスターの手を借りて重点的に指導をしている。各コースに関わる科目であっても、時間割上可能であれば他コースの学生も自由に選択できる。時間割上も、1・2 年次、春・秋学期ともに 10 コマ前後の選択科目の時間帯があり、学年共通の選択科目も約 20 科目ある。学生の履修選択は一部時間割に大きく左右されるのが現実なので、時間割作成に当たっては、可能な限り学生の選択の幅を大きくできるような科目の組合せやコマの配置に努めている。

（５）卒業要件単位数及びその他の卒業要件（必修単位の修得、学生納付金の納付等）を示して下さい。また学生にはどのような方法で卒業要件を周知させているかを記述して下さい。

## 【現状・評価】

## 幼児教育科

| 区 分    | 科目区分              |         | 卒業要件単位  |
|--------|-------------------|---------|---------|
| 共通教育科目 | 必修科目（人間学・キリスト教概論） | 4 単位    | 14 単位以上 |
|        | 人類の遺産             |         |         |
|        | 現代社会を生きる          |         |         |
|        | コミュニケーション・スキルズ    |         |         |
|        | スポーツと健康           |         |         |
|        | 他学科教養科目           |         |         |
| 自由選択科目 |                   |         | 任意      |
| 専門教育科目 | 学科必修科目            | 22 単位   | 48 単位以上 |
|        | コース必修・コース選択必修科目   | 10 単位   |         |
|        | 選択科目              | 16 単位以上 |         |
| 計      |                   |         | 70 単位以上 |

## 国際コミュニケーション科（22 年度入学生）

| 区 分    | 科目区分                 |         | 卒業要件単位  |
|--------|----------------------|---------|---------|
| 共通教育科目 | 建学の精神科目（人間学・キリスト教概論） | 4 単位    | 16 単位以上 |
|        | 現代教養科目               |         |         |
|        | コミュニケーション・スキルズ       |         |         |
|        | スポーツと健康              |         |         |
|        | 共通資格関連科目             |         |         |
|        | 学外活動認定科目             |         |         |
|        | 他大学等認定科目             |         |         |
| 専門教育科目 | 学科基礎科目（必修）           | 22 単位   | 50 単位以上 |
|        | コース専門科目              | 20 単位以上 |         |
|        | 学科選択科目               | 任意      |         |
| 計      |                      |         | 70 単位以上 |

## 国際コミュニケーション科（21 年度入学生）

| 区 分    | 科目区分              |         | 卒業要件単位  |
|--------|-------------------|---------|---------|
| 共通教育科目 | 必修科目（人間学・キリスト教概論） | 4 単位    | 14 単位以上 |
|        | 人類の遺産             |         |         |
|        | 現代社会を生きる          |         |         |
|        | コミュニケーション・スキルズ    |         |         |
|        | スポーツと健康           |         |         |
|        | 他学科教養科目           |         |         |
| 自由選択科目 |                   |         | 任意      |
| 専門教育科目 | 学科基礎科目（必修）        | 26 単位   | 50 単位以上 |
|        | コース専門科目           | 14 単位以上 |         |
|        | 専門選択科目            | 10 単位以上 |         |
| 計      |                   |         | 70 単位以上 |

両学科共に卒業要件の周知方法は、年度当初の「教務・学科オリエンテーション」において説明している。特に2年生については、1年次の履修単位の確認、卒業までの履修計画を十分チェックするよう指導している。

(6) 教育課程の見直し、改善について、学科等の現状を記述して下さい。なおこの項はできれば学科等の責任者(学科長、学科主任等。以下「学科長等」という。)が記述して下さい。

### 幼児教育科

【現状・評価】 厚生労働省による保育士養成課程の改正により、本学科においても大幅なカリキュラム変更を行うこととなった。科目名称の変更(例えば「児童福祉」が「児童家庭福祉」に)、単位数・コマ数の減(「保育原理」4単位が2単位へ)、科目の廃止・分離・統合(例えば「社会福祉援助技術」が「相談援助」と「保育相談支援」へ)、また科目読み替え(例えば「発達心理学」を「保育の心理学Ⅰ」に読み替え)等である。今回の改定は特に、保育所保育指針の告示化に伴い、保育所における保育の質の向上を目指したものであり、その内容を踏まえた養成課程の見直しが必要となったためである。その上で以下も推進した。

- ① 「保育者セミナーⅠ」「保育者セミナーⅡ」を通年4単位に改訂し、「保育者セミナーⅠ」を「保育者論」の読み替え科目とした。また、教育課程表には入らないが、本学独自の「初年次教育プログラム」とリンクさせて学生の学習方法、学習意欲の改善やコミュニケーション能力の育成を総合的に図った。更に地域貢献と連携した学び、学習成果の発表機会を作り、現在の学生に不足しがちなコミュニケーション基礎力の育成へ結びついたと評価できる。
- ② 教育職員免許法施行規則の一部改正により、新設科目「保育・教育実践演習(幼稚園)」の担当者と内容を検討し、平成23年度より開設する。
- ③ 入学前講座『自分発見! スタートセミナー』を継続実施した。

以上、質の高い幼児教育者養成を目標に教育課程を毎年見直している。①②については学生から良い評価を得ている。

(「2010年度自分発見スタートセミナーアンケート集計結果報告書」「H22年度授業評価報告書春学期・秋学期報告書」「初年次教育プログラム2010報告書」「H22年度短大FD、SD報告書」参照)

【課題・改善策】 保育士養成課程の改訂に伴い本学もそれに備えたので授業内容を深めるよう研究する。同時に学生の学習意欲を高めるために専任・兼任共に各自の業改善策として、担当科目の問題点を絞り、それに対する具体的な改善項計画を定め授業を実施し、その評価結果を公開して意見交換したい。さらにそれを元に授業参観を活用して授業改善を発展させたい。

### 国際コミュニケーション科

【現状・評価】 平成15年度の「国際コミュニケーション科」への科名変更時を含めて3度目の、コース制を強めたかなり大幅なカリキュラム改定を2度行った。英語コースと国際交流コースはすでに見直しが進んでいて、今回は強調点が多少変わったものの本質的に継続する部分が多かった。一方、情報ビジネスコースは、より地域に密着した活動を想定した地域情報コースと、よりシンプルにビジネス思考法や受験型資格検定の取得を強調したビジネスコースに分離した。

コース必修5科目10単位、コース選択5科目10単位以上で、コースによって取得すべき単位数は20単位以上になり、コースが強調され学習すべき専門性が明瞭になった。ただ、コース以外の科目もかなり柔軟に履修できる時間割が組まれている。

1年秋の必修として「プレゼンテーション基礎」を新設し、在学2年間に学生の個別対応ができるセミナー科目をそろえた。単なるスキルではなく、自ら考え発信できる社会人基礎力の養成をねらいとする。

【課題・改善策】 平成20年度導入の「フィールドワーク」は、地域社会でのプロジェクト企画と実施を通じて企画力と行動力、異世代の人たちとの関わりを通じて社会性、コミュニケーション力を高めることをねらいとして3年間実施したが、その効果はまだ十分目に見えてはいない。フィールドワークや卒業研究での地域連携プロジェクトと本学科の授業改善は密接につながっており、さらに全力を挙げて取り組みたい。

コースを再編したが、特に新しい地域情報コースをいかに育てるかが重要である。地域連携と情報発信力を支えるスキル養成がうまく連動して、コースとして自立できるか。地域企業や団体との連携開拓、進路先の確保なども含め、総合的に地域密着型の地道な学科運営をめざしたい。

#### 【授業内容・教育方法について】

(1) シラバスあるいは講義要項を作成・配布する際に配慮していることや学生への周知方法等を記述して下さい。

【現状・評価】 シラバスの作成は、原則として科目担当者によるウェブ上での作業とし効率化を図っている。また、冊子で配布する他にホームページ上で公表し、高校生や一般の方々への情報提供の機会としている。シラバスの記載項目には、学習の到達目標、履修条件、参考文献などの項目を設けることによって、学生の履修の参考により役立つようにしている。

【課題・改善策】 原稿締切りから完成までの作業工程の見直しで平成19年度にシラバスの作成時期をある程度遅くしたが、それでも十分とはいえない。また、現在は記述内容を相互にチェックする体制がなく各科目担当教員に任されているが、改善が必要なシラバスも散見される。今後は原稿締切りから印刷までをより短期間で行い、記述内容の相互チェックも導入し、さらに内容の充実したシラバスを学生に提供できるようにしていきたい。

(2) 学生の履修態度、学業への意欲等について、学科長等はどのように把握し受け止めているか記述して下さい。

#### 幼児教育科

【現状・評価】 平成22年度の学生による授業評価結果は、設問1「あなたは、この授業にきちんと出席しましたか」は、春学期4.83(平成21年度の同期4.73、以下同じ)、秋学期4.47(4.62)で欠席する学生はきわめて少なく、授業に取り組む姿勢は積極的である。設問2「あなたは授業時間中、授業に集中し熱心に取り組みましたか」は、春学期4.43(4.38)、秋学期4.27(4.29)であった。設問3「あなたは、授業時間以外に、この科目に関する学習を行いましたか」では、春学期4.07(3.99)、秋学期4.01(3.90)であった。この項目は前年度からの改善項目であり結果が出た。全体的に平成21年度は、他の評価項目にお

## 領域Ⅱ

いても前年に類似している。専任教員授業評価報告会で学生の積極性を促す授業工夫を共有し合った成果と評価できる。

【課題・改善策】 授業改善は担当者毎の課題であると同時に、学科共通の課題である。兼任講師との懇談会を充実させて担当者の教授法を改善し、学生の勉学意欲を高めたい。

### 国際コミュニケーション科

【現状・評価】 自己評価と授業改善の浸透とともに、学生授業評価その他のデータから見られる学生の履修態度などは十分向上しており、上げ止まりの感もある。平成 22 年度秋学期の学生授業評価の各設問の数値は多くが前年度より微減であった。特に「授業への取り組み（設問 2）」は前年度の春 4.32、秋 4.35 から春 4.23、秋 4.15 へかなり下がった。ただ「授業時間以外の学習（設問 3）」は懸案の問題点であったが、少しずつ着実に改善してようやく春 3.94、秋 3.89 まで達した。設問 10「この授業全体を振り返り、満足できる内容であったと思いますか」の結果は、春で 4.37、秋学期 4.37 であり、4 年前の 18 年度（春 3.96、秋学期 4.08）以来ほぼ休むことなく改善している。

今後は授業満足度の数値と言うより、満足度の質の向上であり、授業評価に表れない手応えも正直に測って追い求めるべきと思われる。

【課題・改善策】 いずれの科目や活動も、シラバスなどを十分整備して個々の授業の目的、到達目標、受講ルールなどを学生に明確に示すことがもっとも重要と思われる。その上で学生の意欲や満足度を上げるために、23 年度は以下のような改善策を掲げたい。

- ① 初年次教育の基幹科目「フレッシュマン・セミナー」は 22 年度によりよく共通テキストを導入し、読み書き中心の基礎学力養成を第一のねらいとして改善されつつあるが、その教育方法の向上もさらに各専任に期待される。「プレゼンテーション基礎」との連動も高めたい。
- ② 学生本人の心構えや向上心を高めるために、目標設定や自己評価を学期ごとに行わせる冊子「ライフデザインノート」が 19 年度に導入されたが、23 年度は「学生ポートフォリオ」をいよいよ開始する予定。学生自らが学習成果や経験を目に見える形で保存、積み重ねることで、達成感を増し自覚を高めるとともに、一層綿密な計画や向上心を引き出せるものと考えている。

### 【教育改善への努力について】

（1）学生による授業評価を行っている場合はその概要を記述して下さい。行っていない場合にはその事由等を記述して下さい。

【現状・評価】 授業評価の実施の詳細は「平成 22 年度授業評価報告書 春学期編」および「平成 22 年度授業評価報告書 及び授業改善評価シート 秋学期編」を参照されたい。

授業評価は春学期、秋学期ごとに実施している。質問は、すべての科目に共通する設問全 10 問と、科目担当者が授業形態や授業内容に応じて任意に設定する設問（5 問以内）とに分け、自由記述もとっている。評価期間は、原則として各学期末の 2 週間前とし、科目担当者が配付・説明し、学生支援課へ袋に回収したままマークシート評価票を提出する。

集計・分析は、科目番号ごとに集計し、短期大学全体、2 学科の専門教育科目、共通教育科目の 4 つの区分にわけ、共通の設問（10 問）ごとの評価値と平均値をグラフ表示し、

5段階尺度での各割合（％）を表示した。

平成 19 年度から評価期間終了後約 2 週間で科目担当者へ科目ごとの集計結果を通知し、各担当者はその集計結果をもとに「自己評価票」を科目ごとに作成するようにしている。自己評価票には授業評価の担当者設定項目を記述するようにしたが、自由記述は従来どおり科目担当者が学生支援課で閲覧することとした。

作成した自己評価票は集計結果の各担当者への通知から約 1 週間で学生支援課を経由して各学科長（専門教育科目）、共通教育委員会委員長（共通教育科目）に提出し、それらをもとに自己評価委員会で「授業評価報告書」の形でまとめた。

授業評価集計結果と自己評価票をまとめた「授業評価報告書」を兼任講師との懇談会や各学科や共通教育科目の FD 活動に閲覧・活用され、授業評価活動は円滑に行われている。

【課題・改善策】 次年度以降、引きつづき次の点を改善したい。

- ① 今年度新たな取り組みとして行った「授業改善計画シート」のように、「学生による授業評価」から「自己評価票による担当者自己評価」への流れをさらに徹底させたい。
- ② 授業評価結果の公表の方法について検討したい。
- ③ 集中講義や半期終了科目の授業評価の実施を徹底したい。
- ④ 学期中間での授業評価の実施方法を検討したい。

（２）短期大学全体の授業改善（ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動等）への組織的な取り組み状況について記述して下さい。また短期大学の責任者（以下「学長等」という。）は授業改善の現状について、どのように受け止めているかを記述して下さい。

【現状と評価】すでに平成 19 年度に FD 活動を促進するために、学則第 41 条として新たに「教育内容等の改善」を規定し、これまで各組織で FD 活動が推進されてきた。

「共通教育科目」に関する FD 活動として、平成 22 年度も引き続き、教務委員会の下部組織の共通教育委員会において授業評価の分析や授業改善の情報交換、授業運営の検討などを行い、今年度も学生の読書活動を推進する課題を設定した。

両学科とも、年間を通じて FD 活動が計画・実施されている。その取組の詳細は「平成 22 年度 FD・SD 報告書」を参照されたい。入学前の準備教育や初年次教育の取り組み、兼任講師を含めた授業改善の取り組み、学生による授業評価も十分に活用されている。平成 23 年度に向けては、言語力（日本語活用能力）の組織的な改善の取組（幼児教育科）や、「キャリア育成」のための取組（国際コミュニケーション科）などが課題となっている。

なお、平成 22 年度の私立大学等経常費補助金特別補助のうち、「教育・学習方法等改善支援」として、「初年次教育プログラムの開発と FD 活動の展開」が継続して採択された。主に、①初年次教育 FD 活動、②学生の授業評価および学生との懇談による授業改善、③年度のまとめとしての「初年次教育報告書」の作成を実施している。

これまで実施していた「授業の相互参観」はマンネリ化の指摘もあり、平成 22 年度は一斉実施することをやめた。その代わりに各専任教員より、1～数科目を指定した「授業改善計画シート」を提出してもらった。それを受け必要に応じて相互参観やグループ討議を自主的に行い、学期末には「授業改善評価シート」を提出することとした。

例年学科ごとに実施されてきた兼任講師との懇談会を、今年度は短大全体で年度末に開催した。また、幼児教育科では、学年別に学生（学科委員）との授業改善に関する懇談会



## 領域Ⅱ

を実施し、国際コミュニケーション科では、学科全体のカリキュラムについて学生に意見や評価を求める「学生カリキュラムアンケート」を実施した。兼任教員も含め各教員は、切磋琢磨しながら授業改善に取り組んでおり、教員のFD活動への取り組みの意識は高く、年毎に成果を上げていると自負している。

【課題と改善策】 今後とも各学科、あるいはともに共通する課題に向けて連携したFD活動が求められる。とくに、アカデミック・スキルの向上や基礎学力の保証を含めた学習支援や学生個々の力量の向上に向けた個別支援の方法などを組織的に検討、実施していく必要がある。また、上記のような学科ごとの重点課題もあり、また、やはり組織的なFD活動の必要性も指摘されることから、平成23年度は各学科ごとのテーマを絞った授業改善と、その1つの方策としての組織的な「相互参観」という位置づけで試みたい。

### 【教育改善】

(3) 担当授業について教員間の意思疎通や協力体制、または兼任教員との意思疎通について、学科長等は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

### 幼児教育科

【現状・評価】 教員間の意思疎通は、①専任教員による「授業評価報告会」、②兼任講師との懇談会、③各学期発行の冊子「授業評価報告書」などを通じて行っている。

その他、「保育者セミナー」、「図画工作」、「音楽」、「体育」、「実習ガイダンス」などの複数担当者の科目は、事前打ち合わせをして協力体制を得ながら担当者間の意思疎通を取っている。「保育者セミナー」では年間を通して専任教員が協力体制を取って運得している。兼任講師との懇談会は、平成22年度は国際コミュニケーション科と幼児教育科関係講師と専任教員合同で行った。今年のテーマは「学生の学習意欲を高めるために～授業活性化への取り組み～」として学生の学びの意欲や言語能力向上について懇談した。担当科目を改善するための良い機会になったと評価できる。両学科間、短大兼任講師全体の意思疎通の機会となった。

(「平成22年度短大FD.SD報告書」参照)

【課題・改善】 授業の形態、「講義」「演習」「実技」ごとに到達目標やねらいを学生に明示し、授業終了時には振り返りを行い、何が出来るようになったかを学生が確認できるようにする。教員間で授業改善計画とその結果を共有し、更に踏み込んで互いの授業について授業方法など観点を決めて授業参観することを実施する。

### 国際コミュニケーション科

【現状・評価】 教員間の意思疎通は主に、①専任教員による「学科FD研究会」、②専任と兼任が参加する「兼任講師FD懇談会」、③教員間の自主的な授業参観などを通じて行っている。必修科目でチームを組んでいる科目「英語演習」「英会話」「情報基礎演習」などは、学期直前を含み定期的に、兼任講師も含めて授業運営や情報交換のために打合せを実施している。

各学期末に作成される「授業評価報告書」は兼任を含む全教員に配布されており、幅広く教員相互の交流に役立っている。

【課題・改善策】 教員の意思統一の観点から、兼任講師との懇談会はますます重要であ

るが、参加者が固定される傾向にあり、出席者も3～4割と特に多くはない。学科長を中心に専任全員が兼任講師とをもって頻繁に、授業や受講学生について情報交換し、学科のFDの動きを丁寧に伝えるように努めることが重要である。

#### 【特記事項について】

(1) この《Ⅱ教育の内容》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば、他の教育機関との単位互換制度、習熟度別授業、情報・メディア教育、国際理解教育、海外研修制度、インターンシップ、女子教育の伝統継承と発展への取組み等、学科等において努力していることがあれば記述して下さい。

### 習熟度別クラス編成

#### ① 幼児教育科

基礎技能科目の「音楽（器楽）」では、4月当初にプレイスメント・テストを実施し、弾き歌いの技能に応じて4段階にグレード別に分けて授業効果があがるようにしている。授業運営や進度に効果があった。学生の満足度は非常に高い。

（「平成22年度春学期・秋学期授業評価報告書」参照）

#### ② 国際コミュニケーション科

英語系科目（「英語演習Ⅰ・Ⅱ」「英会話Ⅰ・Ⅱ」と情報系科目（「情報基礎演習」）で習熟度別クラス編成を実施している。4月のオリエンテーションで実施するプレイスメント・テストで学科必修の「英語演習Ⅰ」は4クラスに、「英会話Ⅰ」は8クラスに分けている。選択になる秋学期の「英語演習Ⅱ」は2クラスに、「英会話Ⅱ」は4クラスに分けている。「情報基礎演習」もプレイスメント・テストにより、基本的操作の習熟に応じて6クラスに分けている。

### 他学科、大学等との単位互換制度

相互開放科目に基づく単位認定として、併設の清泉女学院大学との相互履修協定に基づき、授業科目を相互に履修できる。共通教育科目として単位を認定している。平成22年度は国際コミュニケーション科の4名が併設大学の6科目を履修した。

他学科開講科目では、学内の他学科の専門教育科目を履修することを認め、こちらも共通教育科目として単位を認定している。平成22年度は幼児教育科の学生1名（1科目）が履修した。

### 学外活動による単位認定（ボランティア活動は別記）

#### ① 海外文化研修・セメスター留学制度

夏季と春季の長期休暇を利用した海外文化研修プログラムを「学外活動単位認定規程」に基づき「海外文化研修A・B」としてそれぞれ2・1単位を認定している。平成22年度は「海外文化研修B」に14名（於：オーストラリア4名、韓国10名）が認定された。

セメスター留学制度は、平成22年度は秋学期に2名（於：韓国）が参加した。

#### ② 種検定試験の合格による単位認定

## 領域Ⅱ

「各種検定試験合格者の単位認定に関する規程」に基づき、共通教育科目の2科目、国際コミュニケーション科専門教育科目の17科目がこの対象となっている。科目の単位認定とする検定試験や合格級数、科目の成績評価との対応は、「学生便覧」に明記している。この制度を活用して単位認定された学生数は春学期でのべ28名、秋学期で10名であった。

### キリスト教教育プログラム

キリスト教精神、キリスト教的ヒューマニズムについて、人間学・キリスト教概論・現代とキリスト教等の授業以外に種々の行事や日常学園生活の実践活動を通して教育がなされている。

#### ① 静修会・卒業静修会

静修会は、キリスト教的精神を学ぶ機会であると同時に、小グループのディスカッションを通して、互いに人生観、世界観等について深め合うチャンスとなっている。平成22年度の幼児教育科は「招かれた私たちⅠ、Ⅱ」をテーマに、原 和夫(塩尻めぐみ幼稚園園長)先生の講話、また国際コミュニケーション科は、「これが私の生きる道・・・短大生活を後悔しないために、先輩からのアドバイス」をテーマに、トーマス先生および3名の卒業生の講話を伺った。幼児教育科は講話の後分かち合いの時間を、国際コミュニケーション科は質問の時間を持ち、生き甲斐、使命に生きるよろこびや人生設計について考える時間を持ち、いただいた光を分かち合った。

また、卒業式前日3月18日に両学科合同で卒業静修会を行った。平成22年度は「旅立ちを前にまどろむ」をテーマに、八重田事務局長の「贈ることば」の講演、岩村通康氏のギター演奏に耳を傾けた。贈ることばに込められた暖かい体験的人生観は、旅立ちを前にした学生にとって人生の良い区切りをつける助けとなったと感じた。そして2年間の学生生活を振り返り、1年後の自分に宛てた現在の気持ちと社会人になる決意「自分への手紙」を作成した。

#### ② メディテーション・アワー

各学期毎クラス単位で、キャンパス・アワー時にメディテーションを行っている。本年度は1年生を芝山先生・田村亮子先生・シスター窪寺、2年生をシスター宮澤が担当した。40分前後の短い時間であるが、静かに心を落ち着けることで、自分を見つめ、日々の生活を振り返り、また感謝を味わい、学園生活をより善きものへと育てる一助としている。

#### ③ 追悼ミサ

毎年10月最後の木曜日この1年間に亡くなられた本学関係者の故人のために祈る「追悼ミサ」を行っている。平成22年度は10月27日(木)に藤田銀順神父(フランシスコ会)司式で実施し、本学教職員と学生、及びその親族や友人など約60名が参加し共に祈りの時を持った。ミサ後の小さな茶話会で、故人を偲び和やかな時を持つことができた。

#### ④ 祈りの集い

毎週木曜日の昼休み、聖堂で「ロザリオの祈り」を実施している。学生や教員が祈りたい心を携えて任意に訪れる。本年は学生の参加が極めて少なかったことが残念である。

また例年通り希望者を対象に特別宗教クラス・聖書クラス等も開催されている。少人数ではあるが、積極的にキリスト教関連の学習を希望する学生のためにいつも門戸を開いている。

一昨年末に学内に世界の宗教的名画を掲示したが、これらが学内の宗教的雰囲気創りに一役かっている。

### 「学科セミナー」の開催

例年の通り、春学期前半に2日間の「学科セミナー」を実施している。特別講師による講話や野外活動プログラムなどを主に第2学年の学生と教員が共同で企画し、幼児教育科は学科全員で参加し、国際コミュニケーション科は1年生全員とビッグシスター等の2年生が参加する行事である。この行事は、学年およびクラス・セミナー相互の学生間のみならず、学生・教員間の親睦を深めることも目的である。

平成22年度は、幼児教育科は山ノ内町北志賀高原竜王において実施した。1・2年生が縦割りグループで薪焚きでのカレー作り、体育館での運動会など諸活動を通し、学年の枠を超えて協働する力や協調性を養い、生活体験を高める活動が行われた。また宿泊日の夜には親睦会が行われ、学生と教員による出し物が披露され、楽しさを共有しながら互いの良さを認め合う場面や、保育者としての仲間と打ち解け協力する力を高めることができた。1・2年生間の交流、学生と教員の交流などコミュニケーションが深まり、初年次プログラムの目的の一端を果たすものとなっている。なお、来年度も同じ場所での宿泊が予定されているが、自然体験や主体的な活動を通してグループで協働

国際コミュニケーション科は、平成20年度、21年度からの再編成を継続し、平成22年度も、1年生の合宿研修を4月に「オリエンテーションキャンプ」として、2年生の進路支援キックオフセミナーは1年次10月に前倒して実施した。5月は「静修会」と「スポーツフェスティバル」を行った。静修会では、本学の卒業生と教員による社会人生活に関する話を聞き、進路選択のヒントを得ることができた。スポーツフェスティバルでは、スポーツを通じた1・2年生、教員との交流を図り、お互いのコミュニケーションを深めることができた。

### 外部特別講師の招聘

専任教員が担当する科目で、必要に応じて学外の専門家やゲストスピーカーを招聘する制度である。平成22年度は、共通教育科目で2科目4名、幼児教育学科で8科目16名、国際コミュニケーション科で9科目18名の協力をいただいた。「手話通訳」「レクリエーション概論」「小児保健実習」「保育者セミナー」「児童館の機能と運営」「児童の健全育成と福祉」「キャリアデザイン」「国際協力」「日本の伝統文化」「フィールドワーク」といった科目で、授業内容に関連して実践的かつ体験的な学びを確保するよう活用している。また、フィールドワークなどの授業においては、地域の方々に講師をお願いし、連携を強めることを心がけている。

## 領域Ⅲ 教育の実施体制

### 【教員組織について】

(1) 現在の専任教員数を下表を例にして作成して下さい。

(平成 23 年 5 月 1 日現在)

| 学科等名         | 専任教員数 |     |    |    |    | 設置基準で定める教員数 |     | 助手 | 〔ハ〕 | 備考       |
|--------------|-------|-----|----|----|----|-------------|-----|----|-----|----------|
|              | 教授    | 准教授 | 講師 | 助教 | 計  | 〔イ〕         | 〔ロ〕 |    |     |          |
| 幼児教育科        | 5     | 4   | 1  | 0  | 10 | (8)         | —   | 1  |     | 教育学・保育関係 |
| 国際コミュニケーション科 | 2     | 5   | 1  | 0  | 8  | (5)         | —   | 1  |     | 文学関係     |
| (小計)         | 7     | 9   | 2  | 0  | 18 | (13)        | —   |    |     |          |
| 〔ロ〕          | 2     | 0   | 2  | 0  | 4  | —           | (4) |    |     |          |
| (合計)         | 9     | 9   | 4  | 0  | 22 | (13)        | (4) |    |     |          |

1. 上表の〔イ〕とは短期大学設置基準第22条別表第1のイに定める学科の種類に応じて定める教員数（昼間または夜間において授業を行う学科が通信教育をあわせて行う場合には、短期大学通信教育設置基準第9条第2項に定める教員数を含む）をいう。ただし、通信教育学科のみを置く短期大学の場合は、短期大学通信教育設置基準第9条第1項別表第1に定める教員数をいう。
2. 上表の〔ロ〕とは短期大学設置基準第22条別表第1のロに定める短期大学全体の入学定員に応じて定める教員数をいう。なお、昼間または夜間において授業を行う学科が通信教育をあわせ行う場合には、短期大学通信教育設置基準第9条第2項に定める教員数を加算してください。
3. 上表の〔イ〕および〔ロ〕の欄の（ ）には、短期大学設置基準第22条別表第1のイの備考第1号に定める教授数を記入して下さい。通信教育学科のみを置く短期大学の場合は、短期大学通信教育設置基準第9条第1項別表第1備考第2号に定める教授数を記入してください。
4. 上表の助手とは、助手として発令されている教職員をいう。
5. 上表の〔ハ〕とは、助手以外の者で短期大学全体もしくは学科等の教育研究活動に直接従事する教職員（事務職員を除く）をいう（例えば副手、補助職員、技術職員等）。
6. 備考欄には、当該学科の種類（短期大学設置基準第22条別表第1のイにいう「学科の属する分野の区分」）を記載してください。

(2) 短期大学の教員にふさわしい資格と資質の有無については、訪問調査の際に、教員の個人調書（①履歴書、②研究業績書、③担当授業科目名、④その他）を提示していただきます。したがって個人調書をこの報告書に添付する必要はありません。

『清泉女学院短期大学 履歴書・研究業績書』参照

(3) 教員の採用、昇任が適切に行われている状況を記述して下さい。その際、選考基準等を示した規程等があれば訪問調査の際にご準備をお願いいたします。

【現状・評価】 教員の採用および昇任については、「清泉女学院短期大学教員選考規程」に基づき構成された教員選考委員会が、同「教員資格審査基準」に基づき慎重に審査を行い、選考した者を教授会に付議し決定している。幼児教育科では、平成 22 年度中に任期付教員（准教授）1 名について任期付の解除を行い、1 名について専任講師から准教授への昇任を行った。国際コミュニケーション科では、平成 22 年度においては、任期付教員（准教授）1 名について任期付の解除を行い、2 名について専任講師から准教授への昇任を、また、平成 23 年度からの専任講師（任期付）の採用人事を行った。

【課題・改善策】 今後とも、各科の特性をふまえつつ、適正な選考・審査が求められる一方、短期大学の専任教員の年齢、経験年数等を考慮したバランスのとれた採用計画を維持する必要がある。

（４）教員の年齢構成について下表を例に現状を記載して下さい。

専任教員等の年齢構成表（短期大学全体で作成）

（平成 23 年 4 月 1 日現在）

| 区分             | 年齢ごとの専任教員数（助教以上） |       |       |       |       |      |      | 助手等の<br>平均年齢 | 備考 |
|----------------|------------------|-------|-------|-------|-------|------|------|--------------|----|
|                | 70以上             | 60～69 | 50～59 | 40～49 | 30～39 | 29以下 | 平均年齢 |              |    |
| 合計人数<br>(13 人) | 1                | 2     | 7     | 6     | 2     | 0    | 56 歳 | —            |    |
| 割合             | 6                | 11    | 39    | 33    | 11    | 0    |      |              |    |

1. 上表の助手等とは、助手に加えて助手以外の者で教育研究活動に直接従事する教職員（副手、補助職員、技術職員等）を含む。

（５）専任教員は、(a)授業、(b)研究、(c)学生指導、(d)その他教育研究上の業務に対して意欲的に取り組んでいるか。また上記 4 つの分野の業務取り組み状況にはどのような傾向があるかを短期大学の責任者（以下「学長等」という。）が記述して下さい。その際、過去 3 ヶ年（平成 20～22 年度）の教員の担当コマ数（担当コマ基準、平均担当コマ数等を含む）、教員の研究業績、教員が参画する学生指導の業務、教員が参画するその他の教育研究上の業務概要を示して下さい。

#### 【現状・評価】

##### （a）授業

本学では就業規則第 39 条（教員及び職員の勤務等の基準）及び教員勤務規程の定めにより、専任教員の担当授業時間数は原則として 1 週 12 時間（6 コマ）としている。平成 22 年度は、専任教員一人あたり年間 11.9 コマ（特任専任教員 1 名を除く）であり、ほぼ規程どおりの担当コマ数となっている。しかし、近年の学生に対する個別支援、あるいは実習指導や学外指導を含めると実質的には負担の増加傾向が続いている。授業科目の充実や緻密な FD 活動はもちろん必要であるが、その一方で授業の準備や学生への個別支援に振り向ける時間とエネルギーをいかに確保するかが課題であり、学内分掌組織や学科分掌の職務分担を見直し、効率的な運用がきわめて重要となる。

入学前オリエンテーションや初年次教育、個別指導、個別支援の効果的なつながりをつくるとともに、学生と作りあげる授業、学生が参加・参画する活動や行事などの視点も重要となってくる。

##### （b）研究

研究業績の状況は領域Ⅵの研究業績のデータを参照されたい。専任教員それぞれが授業と多様な学内職務のなかで、精一杯の努力をしている。短期大学ならではの実践的研究、キャリア支援や生涯学習関連の研究実践活動など、学外や地域社会との連携を一層強めていきたい。

##### （c）学生指導

現状の学生指導は制度上クラス担任制をとっているが、各科ともその活用、機能について違いがあるものの、セミナー制との併用が行われている。クラス担任による 2 年間の継続的な学生指導は課題が多く、より個別的に柔軟に全教員が指導に関わる必要もあり、また、学生個々の成長、向上を把握する意味でもセミナー制度（1 年生）や卒業研究セミナー（2 年生）などの演習科目に重心を移行していく課題がある。

##### （d）その他教育研究上の業務

短期大学を運営するための学内分掌に関する職務のほか、各科の教育活動に関する業

### 領域Ⅲ

務があり、各教員は意欲的に取組んでいる。

#### 過去3カ年の専任教員の担当コマ数一覧

※斜線は赴任前もしくは退職、国際コミュニケーション科の平均は特任教員を除く。

|       | 幼児教育科 |      |      |
|-------|-------|------|------|
|       | 20年度  | 21年度 | 22年度 |
| 安藤健一  | 13    | 12   | 12.5 |
| 碓井幸子  | 13    | 11.5 | 11.5 |
| 掛塚芳子  | 11    |      |      |
| 小林敏枝  | 13    | 13   | 12   |
| 小林房子  | 12    | 12.5 | 12.5 |
| 桜井 剛  | 9     | 11   | 12   |
| 田中秀明  | 11    | 11   | 12   |
| 高橋正道  | 10    | 12   | 11   |
| 西山 薫  | 12    | 11   | 12   |
| 丸山アヤ子 |       | 12   | 13   |
| 矢上克己  | 11.5  | 11.5 | 12   |
| 平均    | 11.6  | 11.8 | 12.1 |

|        | 国際コミュニケーション科 |      |      |
|--------|--------------|------|------|
|        | 20年度         | 21年度 | 22年度 |
| 飯野 厚   | 10.5         |      |      |
| 長田尚子   |              | 12   | 11.8 |
| 窪寺洋子   | 12           | 12   | 12   |
| 白砂洋志夫  | 11           |      |      |
| 鈴木峰生   | 11           | 12   | 4    |
| 武田るい子  | 12           | 12   | 13.5 |
| T.ジョエル | 12           | 13   | 9    |
| 中村洋一   |              | 13   | 12   |
| 村田信行   | 11           | 12   | 11   |
| 藤井静子   | 13           | 13.5 | 11.5 |
| 簗田由己子  | 11           | 12.5 | 12   |
| 平均     | 11.5         | 12   | 11.6 |

(6) 助手、副手、補助職員、技術職員等を十分に、あるいは可能な限り配置しているか。また助手等が教育研究活動等において適切に機能しているかを学長等が現状を記述して下さい。

【現状・評価】 平成19年度から幼児教育科に1名の助手（パート）を配置し、主として実習関係の業務を担当しているが、平成23年度には都合により退職となり、その職務については学生支援課の事務職員が代替を予定している。国際コミュニケーション科も平成20年度から助手（パート）1名を採用している。両科とも円滑な学科運営に資するよう助手等の整備を図っている。

(7) 2以上の校地（校地が隣接はしていないものの極めて近接しており、学生に対する日常的な学習相談、進路指導、厚生補導等が支障なく行うことができる体制にある場合など例外的な場合以外）において教育研究を行う場合においては、それぞれの校地の専任教員の配置状況について記述して下さい。

該当事項なし

## 【教育環境について】

(1) 校舎・校地一覧表を下の表を例に作成して下さい。

(基準面積：800人(大学400人、短大400人)×10m<sup>2</sup>=8,000m<sup>2</sup>) (平成23年5月1日現在)

|               | 収容<br>定員 | 校 舎                    |                                 |                        | 校 地                 |                                  |                         |
|---------------|----------|------------------------|---------------------------------|------------------------|---------------------|----------------------------------|-------------------------|
|               |          | 基準面積                   | 現有面積                            | 差異                     | 基準面積                | 現有面積                             | 差異                      |
| 清泉女学院<br>短期大学 | 400人     | 3,650.00m <sup>2</sup> | 大学と共用<br>8,804.21m <sup>2</sup> | 5,154.21m <sup>2</sup> | 4,000m <sup>2</sup> | 大学と共用<br>19,834.73m <sup>2</sup> | 11,834.73m <sup>2</sup> |
| 併設<br>清泉女学院大学 | 400人     | 3,305.00m <sup>2</sup> | 占有<br>628.22m <sup>2</sup>      | 2,676.78m <sup>2</sup> | 4,000m <sup>2</sup> |                                  |                         |
| 合計            | 800人     | 7,140.96m <sup>2</sup> | 9,432.43m <sup>2</sup>          | 2,291.47m <sup>2</sup> | 8,000m <sup>2</sup> | 19,834.73m <sup>2</sup>          | 11,834.73m <sup>2</sup> |
| 基準外           |          |                        | 1,781.14m <sup>2</sup>          | 1,781.14m <sup>2</sup> |                     |                                  |                         |
| 合計            | 800人     | 7,140.96m <sup>2</sup> | 11,213.57m <sup>2</sup>         | 4,072.61m <sup>2</sup> | 8,000m <sup>2</sup> | 19,834.73m <sup>2</sup>          | 11,834.73m <sup>2</sup> |

※基準面積とは設置基準で定める面積とします。

〔注意〕 1. この項には図面(全体図、校舎等の位置を示す配置図、校地間の距離・校地間の交通手段等を含む)を準備します。

2. 主要校地については訪問調査の際にご案内します。

(2) 校舎について、まず設置基準第31条の規定による短期大学全体の基準面積(基準面積を算出する計算式を含む)を示して下さい。また校舎を法人が設置する他の学校等と共用している場合は、他の学校の校舎の基準面積も記載して下さい。さらに校舎の配置図、用途(室名)を示した各階の図面を準備しておいて下さい。なお主要校舎については訪問調査の際にご案内いただきます。

【現状・評価】 校舎の基準面積の算出基準は、短期大学設置基準第31条の規定による。校地・校舎に関しては、平成19年度プレハブ校舎2棟の新設を行った。

① 清泉女学院短期大学の基準面積

ア. 幼児教育科の収容定員200名：この基準校舎面積2,350m<sup>2</sup>

イ. 国際コミュニケーション科の収容定員200名：この基準校舎面積1,300m<sup>2</sup>

以上から、本短期大学の校舎の基準面積は3,650m<sup>2</sup>となる。

② 短期大学に併設する清泉女学院大学の基準面積(大学設置基準第37条の規定による)

$[400(\text{大学収容定員}) - 400] \times 1,653 \div 400 + 3,305 = 3,305 \text{ m}^2$

(3) 教育研究に使用する情報機器を設置するパソコン室、マルチメディア室、学内LAN、LL教室及び学生自習室の整備状況(機種、台数等を含む)について記述して下さい。またその使用状況(使用頻度等)についても記述して下さい。なお、2以上の校地において教育研究を行う場合においては、校地ごとに記述して下さい。

【現状・評価】 本学における情報処理室の現状は以下の通りである。各部屋とも授業で使用していない時間は、学生が自習用に利用できる。その場合の利用時間は9:00～18:00を原則としている。また、閉室日は、土曜日、日曜日、国民の祝日、本学が定めた休日としているが、本学長期休暇中の利用日と利用時間についてはその都度定めて掲示し周知している。

平成22年度に開始された学内ICT基盤強化プロジェクトにより、バックボーンネットワークおよび無線LAN環境の整備が行われた。有線LAN環境では1Gbpsの配信容量が確保され、無線のアクセスポイントは43か所設置し、10年先を見越したネットワーク環境の整



### 領域Ⅲ

備とセキュリティ管理の強化が図られた。教室機器については F304 教室と P204 教室について機器が更新され授業での Windows 7 を用いた授業を開始した。

| 場所      | 教室名                   | 機種                 | OS            | 数  | 授業使用率 |
|---------|-----------------------|--------------------|---------------|----|-------|
| F 館 3 階 | F304 情報処理室            | EPSON MR4000       | Windows7 Pro  | 30 | 52%   |
| P 館 3 階 | P303 情報処理室            | NEC MY25X/L-F      | WindowsXP Pro | 44 | 44%   |
| P 館 2 階 | P203 CALL 教室          | Victor WELL system | WindowsXP Pro | 46 | 38%   |
| P 館 2 階 | P204 情報処理室<br>及び併設自習室 | NEC MY25X/L-F      | WindowsXP Pro | 18 | 31%   |
|         |                       | EPSON MR4000       | Windows7 Pro  | 14 |       |
|         |                       | iMac               | MacOS X       | 5  |       |

また、情報処理室以外にも図書館内の閲覧室、就職相談室などに、情報検索に利用できるパソコンが複数台設置されている。なお、マルチメディア室は単独の教室としてではなく、その機器を設置したエリアを設けることで対応している。視聴覚教材利用時に教職員および学生によって利用されている。

情報処理室では、幼児教育科および国際コミュニケーション科での必修となる情報系の基本的な演習を、習熟度別クラス編成によって実施している。また、国際コミュニケーション科の専門科目として、情報系の応用的な演習、Desk Top Publishing（以下 DTP）やホームページ作成などの実践的な演習も行われている。学生自身による利用も活発であり、実習時に収録したビデオの編集、紙芝居の映像化、DTP ソフトを用いたポスター制作など年々高度化している。

上記の表の「授業使用率」は、年間時間割における全体コマ数を分母とし、情報処理室あるいは CALL 教室にて定常的に実施される授業数の割合を算出したものである。実際にはこれ以外に、情報検索や情報機器利用の必要性に応じて随時利用されている。現在はその都度自由に利用されているために、正確な数字の把握は難しいが、実際の教室使用率は上表に示す数字よりも高くなっている。

平成 19 年夏より利用開始した CALL 教室には、語学用機器としてヘッドセットや音声の送受信の仕組み、充実した教材や学習用ソフトウェアが実装されている。国際コミュニケーション科では、そのコンテンツのうちひとつを『英語演習』の授業で取り上げ、自律的な学習（SALT: Self Access Learning Time）に取り組むよう要求している。SALT の課題を完遂するために、学生は、授業以外の時間にも、CALL 教室で学習を行っている。

【課題・改善策】 パソコンは、今後情報系の授業だけではなく、様々な分野の授業で利用されるようになっていくと考えられる。そのために、学内のどこでもいつでもさまざまな用途にパソコンなどの IT 機器を活用できるユビキタスな学習環境の実現が求められている。FD・SD 報告書や学生生活に関するアンケートにおいても、そのような学習環境の整備に関する指摘や要望が増えてきている。

以上のような背景を踏まえ、平成 17 年度より情報システム委員会が中心となり、様々な検討が繰り返されてきた。検討の中で明らかになっていた課題は以下の 3 つであった。今後に向けての課題を大きく以下の 3 点として捉えている。第一に、学内 LAN 環境の整備である。第二に、老朽化した機器の更新とともに、新規 OS、業界標準となっているアプリケーションソフトへの対応である。第三に、e ラーニング環境の整備とコンテンツの充実である。

平成 22 年度はこのような検討の成果として学内 ICT 基盤強化プロジェクトが開始され、平成 23 年度の完了を目指して、学内 LAN 環境の整備と老朽化した機器の更新が計画された。現在プロジェクトの途上ではあるが、学内の教育研究環境が情報ネットワークを基盤として一元的に運用管理できる体制が整い大きく改善されつつある。新環境の有効活用に向けて今後の課題として浮かび上がってきているものを以下にまとめておきたい。

第一に情報セキュリティに関する学内教職員および学生の意識の向上である。これについては平成 22 年度にセキュリティポリシーの検討が行われ、関連諸規程の整備と学内への啓蒙活動が始まっている。第二に情報ネットワークシステムの運用管理体制の強化である。システムの一元化によりそのメリットを享受するためには障害時の迅速な対応が不可欠となっている。平成 22 年度には情報システム室が設置されたが、最低でも 2 名の専任の技術スタッフの在籍が望まれる。第三に無線環境の活用による e ラーニング環境の拡充である。現在英語関連での自習が進められているが、他の教科へ展開が望まれる。第四に CALL 教室の利用形態の再検討である。従来の CALL システムは英語教育に特化した、その教室だけの閉じたシステムであったが、今後は他の情報ネットワークシステムと調和した環境構築を念頭に入れ、次世代の検討を進める必要がある。

(4) 授業用の機器・備品の整備状況及び整備システム（管理の状況、整備計画等を含む）について、その概要を記述して下さい。2 以上の校地において教育研究を行う場合においては、校地ごとに記述して下さい。なお機器・備品の整備状況については訪問調査の際に校舎等をご案内いただく際にご説明いただきます。

【現状・評価】 機器・備品の管理要領としては、購入後、資産管理システムに登録している。固定資産台帳又は備品台帳と備品ラベルを出力する。また、機器・備品にラベルを貼付する。

機器・備品の購入及び更新の要領として、特に投資の大きな情報関連設備については、教務委員会及び情報システム委員会が中心になり、有用な設備導入及び更新等を検討することになっている。

平成 15 年度に利用開始した F 館では、一般の教室にも OHC、DVD プレーヤーなどからプロジェクタに投影する機器が設置され利用されている。平成 18 年度には、F 館相当の教材提示機器にインターネットに接続されたパソコン、地上波デジタル放送チューナなどを組み込み、より多くのメディアプロジェクタ提示に対応した教材提示機器を J 館 301 大教室、P 館の一部教室にも設置した。平成 19 年度には、P 館の一部教室にも設置した。語学教育システムについても、文部科学省の助成を受けた。平成 20 年度には、R 館の 2 教室と音楽堂にも設置した。平成 21 年度・平成 22 年度とも特に新たな整備はなかった。

(5) 校地、校舎の安全性、障害者への対応、運動場、体育館、学生の休息場所等について記述して下さい。訪問調査の際にご案内いただき、ご説明願います。

【現状・評価】 平成 17 年度に耐震診断を実施し、安全が確認されている。またアスベストの使用状況の検査を行い、不使用が確認されている。

校地への侵入防止体制としては、外壁や防犯フェンス等の一部不十分な部分があるが、

### 領域Ⅲ

校舎の警備については、一次的な体制はできている。警備体制については、平成 19 年度に外注警備し、授業日及び土曜日の警備常駐体制を整えた。さらに、入退館システムに関しては、3 箇所システムを設置し IC カードによる機械警備方式を取っている。障害者への対応は、現状ではそうした学生の入学がないが、平成 22 年度には、前年度に引き続き前庭及び M 館 1 階入り口に車椅子用スロープを設置してバリアフリー化を進めている。

グラウンド、体育館及び駐輪場は、校地内に整備している。原動機付自転車で通学する学生が増加しており、平成 18 年度に駐輪場の増設を行った。

学生の休息場所及び憩いの場所等については、平成 20 年度からカフェテリア、マリアンホール、ソフィアホールを充てている。

#### 【図書館・学習資源センター等（以下「図書館等」という。）について】

（１）図書館等の概要について、全体の配置図、座席数、年間図書館予算、購入図書等選定システム、図書等廃棄システム、司書数、情報化の進捗状況等を含めて記述して下さい。なお図書館等には訪問調査の際にご案内いただきます。

#### 【現状・評価】

##### （１）施設

昭和 56 年 1 月、短期大学創設時に付設された図書室は、昭和 62 年 10 月に J 館が完成し、1 階に集密書庫、2 階に開架式書庫と閲覧室を備え、図書館として出発した。平成 7 年に S 館が完成し、教育文化センターに設けられたマルチ・メディア・ラーニング・センター（以下「MMLC」という。）に、視聴覚資料を移管し、その利用と資料収集の業務も移された。

平成 15 年 4 月、大学の併設に伴い、書庫と閲覧室を増設の上、清泉女学院大学及び清泉女学院短期大学図書館として開館し、現在に至っている。

平成 19 年度に 1 階閲覧室に LAN を敷設し、閲覧室の機能を拡充した。

平成 22 年度に 1・2 階閲覧室に無線 LAN を敷設し、環境の整備を図った。

##### ① 配置図・座席数について

##### （ア）館内面積・座席数

|      |     | 面積 (m <sup>2</sup> ) | 座席数(席) |
|------|-----|----------------------|--------|
| 図書館  | 1 階 | 270.9                | 60     |
|      | 2 階 | 390.0                | 56     |
| MMLC |     | 165.8                | 0      |
| 計    |     | 826.7                | 116    |

##### （イ）視聴覚機器台数

| VTR | LD | CD | CA | DVD |
|-----|----|----|----|-----|
| 26  | 1  | 1  | 2  | 13  |

## ② 年間図書予算

| 経常費    | 資料費   |       |       |       |
|--------|-------|-------|-------|-------|
|        | 図書    | 新聞・雑誌 | 視聴覚資料 | 計     |
| 14,534 | 2,643 | 3,325 | 831   | 6,799 |

(千円)

## ③ 購入図書等選定システム

図書委員の教員が中心となって、短大・大学ごとに教員、更には学生や職員からも購入希望を取り、図書の選定、取りまとめを行っている。また、図書館の基本的な資料の充実を図るために図書充実費として予算枠を設け、毎年教員にアンケートを募り、委員会で選定している。

## ④ 図書等廃棄システム

「図書館資料の購入・収集・整理及び保管等管理規程」に則り、館長、学長の承認を得て、廃棄処分を行っている。

## ⑤ 司書数

図書館は、MLLC を含め専任 2 名（内、司書資格 2 名）、非常勤 2 名で運営している。各人の業務分担を明確にするとともに、業務の効率化を図るために連絡の徹底や、業務内容の文書化を図り、共通理解を得るように努めている。

## ⑥ 情報化の進捗状況

平成 18 年度に Web 版の蔵書検索システム（ブレインテック社「Jopac」）を導入し、同時に図書館のホームページも開設した。平成 20 年度にホームページをリニューアルし、雑誌記事索引や新聞記事等のデータベースの機能を利用しやすいように整備した。

平成 19 年度に 1 階閲覧室に LAN を敷設し、パソコン 4 台を新たに設置した。平成 20 年度には、学生からの要望の多かったプリンターを 1 階に設置した。

平成 21 年度に OS の新しいパソコンを 1 台入替え、学生の利便性を図った。

平成 22 年度に学内 LAN 整備に伴い、1・2 階閲覧室に無線 LAN を敷設し、環境の整備を図った。

（２）図書館等に備えられている蔵書数（和書、洋書、学術雑誌数、AV 資料数等）を下表を例に作成して下さい。

(平成23年5月1日現在)

## 蔵書数

|      | 和書     | 洋書     | 学術雑誌 | AV 資料 |
|------|--------|--------|------|-------|
| 冊(種) | 63,273 | 13,153 | 203  | 6,212 |

※清泉女学院大学と共用

(3) 図書館等には学生が利用できる授業に関連する参考図書、その他学生用の一般図書等は整備されているか。また学生の図書館等の利用は活発かを、図書館等の責任者(図書館長等)が現状をどのように捉えているかを記述して下さい。

① 授業に関する図書の整備

共通教育科目、幼児教育科専門教育科目、国際コミュニケーション科専門教育科目、教職専門教育科目のそれぞれについて、授業担当教員にシラバス作成時に、「参考図書」も併せて指定していただき、このデータに基づいて図書館で購入している。2階入口に参考図書コーナーを設け、教員別に配架している。

② 一般図書の整備

各教員と学生からの購入希望を受け付けている。就職関係の図書、編入学のための参考図書などが主な対象である。上述以外にも授業中に紹介のあった図書の閲覧を希望する学生からの要望により、資料を揃えることもある。

また学生ボランティアサークルによるブックフェアを開催し、読書支援を行なった。

③ 図書館の利用について

図書館の利用方法については、入学直後、各科のセミナーで少人数グループによる利用ガイダンスを行っている。平成19年度から貸出冊数を、通常3冊から5冊、実習や長期休業中の貸出冊数も5冊から10冊に、それぞれ増やしたので、学生アンケートの結果から、概ね満足との回答を得られた。

その他、卒業年次生を対象に、ゼミ単位で文献検索ガイダンスを実施している。

貸出については、幼児教育科の実習用の紙芝居の貸出が大幅に減少したが、教員から利用を促してもらった結果回復しつつある。また、国際コミュニケーション科の利用が減少したが、課題を達成した後の利用が伸びないと思われる。学生に関心を持たせる取り組みが如何に大切であるかが窺える。

貸出数は減少しているが入館者数は増えている。これは図書館の利用の仕方が変化していることに起因していると思われる。

図書貸出冊数 (平成23年3月末現在) (冊)

|        | 幼児教育科<br>(うち紙芝居) | 国際コミュニケーション科 | 心理コミュニケーション学科 | その他 | 教職員   | 計      |
|--------|------------------|--------------|---------------|-----|-------|--------|
| 平成20年度 | 3,031(1,195)     | 3,583        | 3,081         | 335 | 2,008 | 12,038 |
| 平成21年度 | 2,207(600)       | 3,426        | 2,189         | 368 | 1,338 | 9,528  |
| 平成22年度 | 3,108(954)       | 2,132        | 1,878         | 195 | 879   | 8,192  |

\*その他は、聴講生・科目等履修生・研究生・学外利用者が対象となる。

図書館入館者数 (平成 23 年 3 月末現在) (人)

|          | 1 階閲覧室 | 2 階閲覧室 | 合計     |
|----------|--------|--------|--------|
| 平成 20 年度 | 14,422 | 34,302 | 48,724 |
| 平成 21 年度 | 12,326 | 31,396 | 43,722 |
| 平成 22 年度 | 13,914 | 32,178 | 46,092 |

MLLC の利用者の減少が著しいことの一因は、学生の視聴覚資料閲覧の方法がWEB利用にシフトしていることにあると思われる。電子資料等の問題とも合わせ、情報システム関係部署と連携をとりつつ、抜本的な検討を進める必要があるとの認識をもっている。

視聴覚資料利用者数 (平成 23 年 3 月末現在) (人)

|          | 幼児教育科 | 国際コミュニケーション科 | 心理コミュニケーション学科 |
|----------|-------|--------------|---------------|
| 平成 20 年度 | 548   | 977          | 1,472         |
| 平成 21 年度 | 490   | 317          | 615           |
| 平成 22 年度 | 418   | 153          | 282           |

(4) 図書館等からの学内外への情報発信、他の図書館等との連携等、現在の図書館活動について、図書館長等がどのように受け止めているかを記述して下さい。

① 学内外への情報発信

図書館における情報発信の手段として、ホームページをリニューアルした。館内案内、蔵書検索、研究紀要などのメニューが設定されている。

また、図書館のPRのために平成19年度から学生ボランティアを募り、図書館便りの作成や、学園祭などでイベントを実施しているが、活動内容を新聞に紹介され、小布施町立図書館で開催された「Waの会-本と図書館の未来を語ろう」で事例報告をした。

また、平成20年度から始めた国立国会図書館と国際子ども図書館の見学ツアーは、事前ガイダンスを実施し、実際に図書館を利用することで、参加者から好評を得られた。

地域社会等への開放は「清泉女学院大学及び清泉女学院短期大学図書館一般市民利用要綱」に則り、利用されている。平成22年度には、マザーテレサ生誕百年を記念して写真家沖守弘氏を講師に迎えての講演会や沖氏の写真展を開催し、多くの一般の方が参加した。

学外者の利用状況 \*平成 23 年 3 月末現在

|          |      | 卒業生 | 開放講座受講者 | その他 |
|----------|------|-----|---------|-----|
| 平成 20 年度 | 利用者数 | 6   | 17      | 2   |
|          | 貸出冊数 | 23  | 144     | 0   |
| 平成 21 年度 | 利用者数 | 27  | 97      | 10  |
|          | 貸出冊数 | 48  | 160     | 19  |
| 平成 22 年度 | 利用者数 | 12  | 67      | 0   |
|          | 貸出冊数 | 23  | 115     | 0   |

\*「その他」に該当する学外者は本来閲覧のみであるが、職員からの紹介があり館長が貸出を認めたので実施。

### 領域Ⅲ

#### ② 他の図書館等との連携

本学図書館の地域との連携として、長野県図書館協会大学専門部会大会と研究会への参加が挙げられる。また、平成 18 年度の私立短期大学図書館協議会の加盟に続き、平成 19 年度はカトリック大学連盟図書館協議会に加盟し、業務上の問題点について意見交換を行っている。

また、NACSIS-CAT/ILL（国立情報学研究所目録所在情報サービス）に加盟し、平成 18 年度に本学所蔵の雑誌情報を整理し載せたところ、他の図書館からの依頼件数が増えた。

依頼件数の減少は国立情報学研究所論文情報ナビゲータシステム(CiNii)の利用が増加したことも一因と思われる。

平成 22 年度に県内大学が連携した「信州共同リポジトリ」に参加することを決定した。

相互貸借等の状況 (件)

|          | 文献複写 |     | 相互貸借 |    | 一人当たり<br>の依頼 |
|----------|------|-----|------|----|--------------|
|          | 依頼   | 受付  | 依頼   | 受付 |              |
| 平成 20 年度 | 250  | 115 | 77   | 5  | 0.40         |
| 平成 21 年度 | 127  | 89  | 75   | 7  | 0.27         |
| 平成 22 年度 | 83   | 74  | 36   | 7  | 0.18         |

#### ③ 図書館の活動について

開館時間は、学生の要望に応ずるように考慮し、平成 18 年度から長期休暇中を除き、8:45～18:00 に開館時間を定めた。

また、昨年に引き続き、集中講義などのある土曜日の開館を実施した。学生アンケートの結果をみると、土曜開館は概ね周知されてきている。実習中や試験前など開館を希望する声は多いが、その範囲での要望には対応できている。

## 領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

### 【単位認定について】

（１）次の「単位認定の状況表」を例に、単位認定の方法と評価の実態を記載してください。なお、この表は平成 22 年度卒業生が入学時より卒業までに履修した科目について作成してください。

各教育課程の平成 22 年度卒業生の平成 22 年度、平成 21 年度における単位認定状況は以下の通りである。学年共通科目等は、両年度ともに示した。

共通教育科目の単位認定の状況表（平成 21 年）

| 種別     | 授業科目名      | 授業形態 | 履修人員 | 主な単位認定の方法 | 単位取得状況 % |      |        | 最終の評価 % |       |       |       |      |
|--------|------------|------|------|-----------|----------|------|--------|---------|-------|-------|-------|------|
|        |            |      |      |           | 本試       | 再試等  | 計      | 優       | 良     | 可     | 不可    | 合    |
| 必修     | 人間学        | 講義   | 200  | 筆記試験      | 98.00    | 0.00 | 98.00  | 82.50   | 12.50 | 3.00  | 2.00  | 0.00 |
|        | キリスト教概論    | 講義   | 185  | 筆記試験      | 96.76    | 0.00 | 96.76  | 57.83   | 32.43 | 6.49  | 3.24  | 0.00 |
| 共通選択科目 | 文学の世界      | 講義   | 112  | レポート・筆記試験 | 99.11    | 0.00 | 99.11  | 58.04   | 33.04 | 8.04  | 0.89  | 0.00 |
|        | 歴史の中の日本    | 講義   | 6    | 筆記試験      | 66.67    | 0.00 | 66.67  | 50.00   | 16.67 | 0.00  | 33.33 | 0.00 |
|        | 音楽の世界Ⅰ     | 講義   | 32   | レポート・筆記試験 | 90.63    | 0.00 | 90.63  | 62.50   | 15.63 | 12.50 | 9.38  | 0.00 |
|        | 美術の世界Ⅰ     | 講義   | 31   | 作品・レポート   | 100.00   | 0.00 | 100.00 | 58.06   | 32.26 | 9.68  | 0.00  | 0.00 |
|        | キリスト教と現代   | 講義   | 41   | レポート      | 100.00   | 0.00 | 100.00 | 85.36   | 14.63 | 0.00  | 0.00  | 0.00 |
|        | 日本国憲法      | 講義   | 106  | 筆記試験      | 100.00   | 0.00 | 100.00 | 59.43   | 37.74 | 2.83  | 0.00  | 0.00 |
|        | 経済と生活      | 講義   | 46   | 筆記試験      | 93.48    | 0.00 | 93.48  | 52.17   | 21.74 | 19.57 | 6.52  | 0.00 |
|        | 社会福祉の諸問題   | 講義   | 75   | レポート      | 98.67    | 0.00 | 98.67  | 93.33   | 5.33  | 0.00  | 1.33  | 0.00 |
|        | メディアの世界（秋） | 講義   | 23   | 課題・筆記試験   | 100.00   | 0.00 | 100.00 | 47.83   | 34.78 | 17.39 | 0.00  | 0.00 |
|        | 心の科学Ⅰ      | 講義   | 108  | レポート・筆記試験 | 98.15    | 0.00 | 98.15  | 87.96   | 5.56  | 4.63  | 1.85  | 0.00 |
|        | 心の科学Ⅱ      | 講義   | 91   | レポート・筆記試験 | 94.51    | 0.00 | 94.51  | 74.73   | 16.48 | 3.30  | 5.49  | 0.00 |
|        | 日本語表現Ⅰ     | 講義   | 53   | 課題        | 96.23    | 0.00 | 96.23  | 39.62   | 47.17 | 9.43  | 3.77  | 0.00 |
|        | 日本語表現Ⅱ     | 講義   | 93   | レポート      | 98.92    | 0.00 | 98.92  | 76.34   | 21.51 | 1.08  | 1.08  | 0.00 |
|        | 教養としての数学   | 講義   | 28   | 課題提出・筆記試験 | 100.00   | 0.00 | 100.00 | 71.43   | 28.57 | 0.00  | 0.00  | 0.00 |
|        | 英語         | 演習   | 65   | 発表        | 100.00   | 0.00 | 100.00 | 64.62   | 30.77 | 4.62  | 0.00  | 0.00 |
|        | 中国語（共通）    | 演習   | 28   | 課題・筆記試験   | 96.43    | 3.57 | 100.00 | 53.57   | 21.43 | 25.00 | 0.00  | 0.00 |
|        | 保健体育講義     | 講義   | 116  | 課題提出・筆記試験 | 99.14    | 0.00 | 99.14  | 36.21   | 61.21 | 1.72  | 0.86  | 0.00 |
|        | 体育実技       | 実習   | 141  | 実技        | 99.29    | 0.00 | 99.29  | 81.56   | 12.06 | 5.67  | 0.71  | 0.00 |



# 領域Ⅳ

共通教育科目の単位認定の状況表（平成22年）

| 種別     | 授業科目名    | 授業形態 | 履修人員 | 主な単位認定の方法 | 単位取得状況 % |       |       | 最終の評価 % |       |       |       |      |
|--------|----------|------|------|-----------|----------|-------|-------|---------|-------|-------|-------|------|
|        |          |      |      |           | 本試       | 再試等   | 計     | 優       | 良     | 可     | 不可    | 合    |
| 必修     | 初学教概論    | 講義   | 36   | レポート      | 94.44    | 0.00  | 94.44 | 55.56   | 36.11 | 2.78  | 5.56  | 0.00 |
| 共通選択科目 | 歴史と人間    | 講義   | 53   | 筆記試験      | 58.49    | 26.42 | 84.91 | 32.08   | 5.66  | 47.17 | 15.09 | 0.00 |
|        | 音楽の世界    | 講義   | 56   | 筆記試験      | 91.07    | 0.00  | 91.07 | 37.50   | 21.43 | 32.14 | 8.93  | 0.00 |
|        | 美術の世界    | 講義   | 23   | 課題提出・レポート | 95.65    | 0.00  | 95.65 | 78.26   | 8.70  | 8.70  | 4.35  | 0.00 |
|        | 初学教と現代   | 講義   | 70   | レポート      | 97.10    | 0.00  | 97.10 | 68.60   | 22.90 | 5.70  | 2.90  | 0.00 |
|        | 日本国憲法    | 講義   | 134  | 筆記試験      | 98.50    | 0.00  | 98.50 | 61.94   | 33.58 | 2.99  | 1.49  | 0.00 |
|        | 経済と生活    | 講義   | 52   | レポート      | 88.46    | 5.77  | 94.23 | 40.38   | 44.23 | 9.62  | 5.77  | 0.00 |
|        | 子どもと学校   | 講義   | 105  | レポート      | 97.14    | 0.00  | 97.14 | 60.95   | 29.52 | 6.67  | 2.86  | 0.00 |
|        | 社会福祉の諸問題 | 講義   | 63   | レポート      | 98.41    | 0.00  | 98.41 | 92.06   | 6.35  | 0.00  | 1.59  | 0.00 |
|        | メディアの世界  | 講義   | 43   | 筆記試験      | 95.35    | 0.00  | 95.35 | 20.93   | 27.91 | 46.51 | 4.65  | 0.00 |
|        | 心の科学     | 講義   | 88   | 課題提出・筆記試験 | 97.73    | 0.00  | 97.73 | 94.32   | 1.14  | 2.27  | 2.27  | 0.00 |
|        | 日本語表現Ⅰ   | 講義   | 79   | 課題提出      | 93.67    | 0.00  | 93.67 | 37.97   | 50.63 | 5.06  | 6.33  | 0.00 |
|        | 日本語表現Ⅱ   | 講義   | 94   | 課題提出      | 98.94    | 0.00  | 98.94 | 13.83   | 29.79 | 55.32 | 1.06  | 0.00 |
|        | 教養としての数学 | 講義   | 63   | 課題提出・筆記試験 | 98.41    | 0.00  | 98.41 | 68.25   | 28.57 | 1.59  | 1.59  | 0.00 |
|        | 英語       | 演習   | 98   | 課題提出      | 96.93    | 0.00  | 96.93 | 50.00   | 41.83 | 5.01  | 3.06  | 0.00 |
|        | 中国語      | 演習   | 23   | 期末試験      | 95.65    | 0.00  | 95.65 | 82.61   | 0.00  | 13.04 | 4.35  | 0.00 |
|        | 保健体育講義   | 講義   | 135  | 課題提出・筆記試験 | 99.26    | 0.00  | 99.26 | 52.59   | 43.70 | 2.96  | 0.74  | 0.00 |
|        | 体育実技     | 実習   | 121  | 実技試験      | 99.17    | 0.00  | 99.17 | 85.95   | 13.23 | 0.83  | 0.00  | 0.00 |

自由選択科目の単位認定の状況表（平成21年）

| 種別     | 授業科目名      | 授業形態 | 履修人員 | 主な単位認定の方法 | 単位取得状況 % |      |        | 最終の評価 % |      |      |       |        |
|--------|------------|------|------|-----------|----------|------|--------|---------|------|------|-------|--------|
|        |            |      |      |           | 本試       | 再試等  | 計      | 優       | 良    | 可    | 不可    | 合      |
| 自由選択科目 | レクリエーション概論 | 講義   | 48   | 筆記試験      | 100.00   | 0.00 | 100.00 | 100.00  | 0.00 | 0.00 | 0.00  | 0.00   |
|        | レクリエーション実技 | 演習   | 34   | 発表        | 100.00   | 0.00 | 100.00 | 100.00  | 0.00 | 0.00 | 0.00  | 0.00   |
|        | ニュースポーツ    | 演習   | 21   | 実技        | 100.00   | 0.00 | 100.00 | 100.00  | 0.00 | 0.00 | 0.00  | 0.00   |
|        | コミュニティスポーツ | 実習   | 51   | 実技        | 33.33    | 0.00 | 33.33  | 33.33   | 0.00 | 0.00 | 66.67 | 0.00   |
|        | 海外文化研修A    | 実習   | 29   | レポート      | 100.00   | 0.00 | 100.00 | 0.00    | 0.00 | 0.00 | 0.00  | 100.00 |
|        | ボランティア活動A  | 実習   | 3    | レポート      | 100.00   | 0.00 | 100.00 | 0.00    | 0.00 | 0.00 | 0.00  | 100.00 |

自由選択科目の単位認定の状況表（平成22年）

| 種別     | 授業科目名      | 授業形態 | 履修人員 | 主な単位認定の方法 | 単位取得状況 % |      |        | 最終の評価 % |      |      |       |        |
|--------|------------|------|------|-----------|----------|------|--------|---------|------|------|-------|--------|
|        |            |      |      |           | 本試       | 再試等  | 計      | 優       | 良    | 可    | 不可    | 合      |
| 自由選択科目 | レクリエーション概論 | 講義   | 94   | レポート      | 97.87    | 0.00 | 97.87  | 96.81   | 1.06 | 0.00 | 2.13  | 0.00   |
|        | レクリエーション実技 | 演習   | 70   | 実技試験      | 100.00   | 0.00 | 100.00 | 100.00  | 0.00 | 0.00 | 0.00  | 0.00   |
|        | ニュースポーツ    | 演習   | 23   | 実技試験      | 91.30    | 0.00 | 91.30  | 86.96   | 4.35 | 0.00 | 8.70  | 0.00   |
|        | コミュニティスポーツ | 実習   | 101  | 実技試験      | 82.18    | 0.00 | 82.18  | 82.18   | 0.00 | 0.00 | 17.82 | 0.00   |
|        | 海外文化研修A    | 実習   | 4    | レポート      | 100.00   | 0.00 | 100.00 | 0.00    | 0.00 | 0.00 | 0.00  | 100.00 |
|        | 海外文化研修B    | 実習   | 14   | レポート      | 100.00   | 0.00 | 100.00 | 0.00    | 0.00 | 0.00 | 0.00  | 100.00 |
|        | ボランティア活動   | 実習   | 1    | レポート      | 100.00   | 0.00 | 100.00 | 0.00    | 0.00 | 0.00 | 0.00  | 100.00 |

幼児教育科専門科目の単位認定の状況表（平成 21 年）

| 種別      | 授業科目名        | 授業形態 | 履修人員 | 主な単位認定の方法 | 単位取得状況 % |      |        | 最終の評価 % |       |       |       |       |
|---------|--------------|------|------|-----------|----------|------|--------|---------|-------|-------|-------|-------|
|         |              |      |      |           | 本試       | 再試等  | 計      | 優       | 良     | 可     | 不可    | 合     |
| 保育の原理目的 | 保育者セミナー      | 演習   | 97   | 課題提出・レポート | 98.97    | 0.00 | 98.97  | 0.00    | 0.00  | 0.00  | 1.03  | 98.97 |
|         | 保育原理         | 講義   | 96   | 筆記試験      | 100.00   | 0.00 | 100.00 | 82.29   | 12.50 | 5.21  | 0.00  | 0.00  |
|         | 児童福祉         | 講義   | 97   | 筆記試験・課題提出 | 98.97    | 0.00 | 98.97  | 94.85   | 4.12  | 0.00  | 1.03  | 0.00  |
|         | 児童福祉Ⅱ        | 講義   | 81   | 筆記試験・課題提出 | 98.77    | 0.00 | 98.77  | 83.95   | 14.81 | 0.00  | 1.23  | 0.00  |
|         | 養護原理         | 講義   | 96   | 筆記試験・課題提出 | 100.00   | 0.00 | 100.00 | 90.63   | 9.38  | 0.00  | 0.00  | 0.00  |
|         | 社会福祉         | 講義   | 97   | 筆記試験      | 98.97    | 0.00 | 98.97  | 42.27   | 37.11 | 19.59 | 1.03  | 0.00  |
|         | 障害者福祉        | 講義   | 38   | レポート      | 100.00   | 0.00 | 100.00 | 31.58   | 57.89 | 10.53 | 0.00  | 0.00  |
|         | 高齢者福祉        | 講義   | 19   | レポート      | 89.47    | 0.00 | 89.47  | 26.32   | 63.16 | 0.00  | 10.53 | 0.00  |
| 理解      | 発達心理学        | 講義   | 97   | 筆記試験・レポート | 98.97    | 0.00 | 98.97  | 49.48   | 49.48 | 0.00  | 1.03  | 0.00  |
|         | 小児保健         | 講義   | 96   | 筆記試験      | 100.00   | 0.00 | 100.00 | 26.04   | 72.92 | 1.04  | 0.00  | 0.00  |
| 保育内容・方法 | 教育課程総論       | 講義   | 96   | 筆記試験      | 100.00   | 0.00 | 100.00 | 60.42   | 33.33 | 6.25  | 0.00  | 0.00  |
|         | 育ちとコミュニケーション | 演習   | 97   | 筆記試験      | 90.72    | 8.25 | 98.87  | 21.65   | 67.01 | 10.31 | 1.03  | 0.00  |
|         | 遊びと環境        | 演習   | 96   | 課題提出・筆記試験 | 100.00   | 0.00 | 100.00 | 57.29   | 32.29 | 10.42 | 0.00  | 0.00  |
|         | 個性と表現        | 演習   | 96   | 作品発表      | 100.00   | 0.00 | 100.00 | 98.96   | 1.04  | 0.00  | 0.00  | 0.00  |
|         | モンテッソーリ教育法   | 演習   | 49   | 課題提出・筆記試験 | 100.00   | 0.00 | 100.00 | 61.22   | 38.78 | 0.00  | 0.00  | 0.00  |
|         | 乳児保育         | 演習   | 97   | 課題提出      | 98.97    | 0.00 | 98.97  | 88.66   | 10.30 | 0.00  | 1.03  | 0.00  |
|         | 児童文化の研究Ⅰ     | 演習   | 50   | 作品発表・レポート | 100.00   | 0.00 | 100.00 | 42.00   | 52.00 | 6.00  | 0.00  | 0.00  |
| 基礎的教養   | 音楽           | 演習   | 96   | 実技試験      | 37.50    | 0.00 | 37.50  | 37.50   | 0.00  | 0.00  | 62.50 | 0.00  |
|         | 図画工作         | 演習   | 96   | 作品        | 100.00   | 0.00 | 100.00 | 71.88   | 28.13 | 0.00  | 0.00  | 0.00  |
|         | 体育           | 演習   | 96   | 実技試験      | 100.00   | 0.00 | 100.00 | 97.92   | 2.08  | 0.00  | 0.00  | 0.00  |
|         | 教育情報処理演習     | 演習   | 96   | 課題提出      | 100.00   | 0.00 | 100.00 | 100.00  | 0.00  | 0.00  | 0.00  | 0.00  |
| 総合      | 総合演習         | 演習   | 96   | ※各担当の指示   | 100.00   | 0.00 | 100.00 | 100.00  | 0.00  | 0.00  | 0.00  | 0.00  |
| 自主      | 保育特別講座Ⅰ A    | 演習   | 8    | レポート      | 100.00   | 0.00 | 100.00 | 100.00  | 0.00  | 0.00  | 0.00  | 0.00  |
|         | 保育特別講座Ⅰ B    | 演習   | 49   | 発表・レポート   | 93.88    | 0.00 | 93.88  | 93.88   | 0.00  | 0.00  | 6.12  | 0.00  |

幼児教育科専門科目の単位認定の状況表（平成22年）

| 種別      | 授業科目名    | 授業形態 | 履修人員 | 主な単位認定の方法 | 単位取得状況 % |      |        | 最終の評価 % |       |       |      |      |
|---------|----------|------|------|-----------|----------|------|--------|---------|-------|-------|------|------|
|         |          |      |      |           | 本試       | 再試等  | 計      | 優       | 良     | 可     | 不可   | 合    |
| 保育の原理目的 | 教育基礎論    | 講義   | 96   | 筆記試験      | 100.00   | 0.00 | 100.00 | 58.33   | 32.29 | 9.38  | 0.00 | 0.00 |
|         | 児童福祉Ⅱ    | 講義   | 34   | 課題提出      | 100.00   | 0.00 | 100.00 | 79.41   | 20.59 | 0.00  | 0.00 | 0.00 |
|         | 養護原理Ⅱ    | 講義   | 32   | レポート      | 100.00   | 0.00 | 100.00 | 90.63   | 9.38  | 0.00  | 0.00 | 0.00 |
|         | 社会福祉援助技術 | 演習   | 96   | 筆記試験      | 100.00   | 0.00 | 100.00 | 94.79   | 4.17  | 1.04  | 0.00 | 0.00 |
|         | 地域福祉     | 講義   | 30   | 課題提出      | 100.00   | 0.00 | 100.00 | 100.00  | 0.00  | 0.00  | 0.00 | 0.00 |
|         | 障害者福祉    | 講義   | 24   | レポート      | 100.00   | 0.00 | 100.00 | 50.00   | 45.83 | 4.17  | 0.00 | 0.00 |
|         | 高齢者福祉    | 講義   | 39   | レポート      | 100.00   | 0.00 | 100.00 | 35.90   | 53.85 | 10.26 | 0.00 | 0.00 |

# 領域Ⅳ

|          |            |    |    |           |        |      |        |        |       |       |       |        |
|----------|------------|----|----|-----------|--------|------|--------|--------|-------|-------|-------|--------|
| 対象の理解    | 発達心理学Ⅱ     | 演習 | 54 | レポート・筆記試験 | 100.00 | 0.00 | 100.00 | 88.89  | 11.11 | 0.00  | 0.00  | 0.00   |
|          | 発達心理学Ⅲ     | 演習 | 11 | レポート      | 100.00 | 0.00 | 100.00 | 81.82  | 18.18 | 0.00  | 0.00  | 0.00   |
|          | 教育心理学      | 講義 | 96 | レポート・筆記試験 | 100.00 | 0.00 | 100.00 | 87.50  | 12.50 | 0.00  | 0.00  | 0.00   |
|          | 臨床心理学      | 演習 | 20 | レポート・課題提出 | 100.00 | 0.00 | 100.00 | 100.00 | 0.00  | 0.00  | 0.00  | 0.00   |
|          | 小児保健実習     | 実習 | 96 | 実技試験・筆記試験 | 100.00 | 0.00 | 100.00 | 41.67  | 50.00 | 8.33  | 0.00  | 0.00   |
|          | 小児保健Ⅱ      | 演習 | 19 | レポート      | 100.00 | 0.00 | 100.00 | 100.00 | 0.00  | 0.00  | 0.00  | 0.00   |
|          | 小児栄養       | 演習 | 96 | レポート      | 100.00 | 0.00 | 100.00 | 51.04  | 41.67 | 7.29  | 0.00  | 0.00   |
|          | 精神保健       | 講義 | 96 | 筆記試験      | 100.00 | 0.00 | 100.00 | 42.71  | 44.79 | 12.50 | 0.00  | 0.00   |
|          | 保育相談概論     | 講義 | 93 | 課題提出      | 100.00 | 0.00 | 100.00 | 100.00 | 0.00  | 0.00  | 0.00  | 0.00   |
| 保育内容・方法  | 家族援助論      | 講義 | 96 | 課題提出      | 100.00 | 0.00 | 100.00 | 100.00 | 0.00  | 0.00  | 0.00  | 0.00   |
|          | 保育内容指導法    | 講義 | 95 | レポート・筆記試験 | 95.79  | 4.21 | 100.00 | 70.53  | 16.84 | 12.63 | 0.00  | 0.00   |
|          | 保育教材論      | 講義 | 94 | レポート      | 96.81  | 3.19 | 100.00 | 79.79  | 10.64 | 9.57  | 0.00  | 0.00   |
|          | 指導計画の研究    | 演習 | 33 | レポート・筆記試験 | 100.00 | 0.00 | 100.00 | 72.73  | 21.21 | 6.06  | 0.00  | 0.00   |
|          | 保育観察の研究    | 演習 | 34 | レポート・筆記試験 | 100.00 | 0.00 | 100.00 | 100.00 | 0.00  | 0.00  | 0.00  | 0.00   |
|          | 保育教材の研究    | 演習 | 29 | 課題提出      | 100.00 | 0.00 | 100.00 | 51.72  | 34.48 | 13.79 | 0.00  | 0.00   |
|          | 保育方法の研究Ⅰ   | 演習 | 17 | 成果発表      | 100.00 | 0.00 | 100.00 | 64.71  | 35.29 | 0.00  | 0.00  | 0.00   |
|          | 保育方法の研究Ⅱ   | 演習 | 18 | レポート      | 100.00 | 0.00 | 100.00 | 83.33  | 16.67 | 0.00  | 0.00  | 0.00   |
|          | 保育方法の研究Ⅲ   | 演習 | 7  | 作品        | 100.00 | 0.00 | 100.00 | 100.00 | 0.00  | 0.00  | 0.00  | 0.00   |
|          | モンテッソーリ教育法 | 演習 | 46 | 課題提出・筆記試験 | 100.00 | 0.00 | 100.00 | 82.61  | 17.39 | 0.00  | 0.00  | 0.00   |
|          | 障害児保育      | 演習 | 96 | レポート・筆記試験 | 100.00 | 0.00 | 100.00 | 79.17  | 20.83 | 0.00  | 0.00  | 0.00   |
|          | 保育内容総論     | 演習 | 96 | 課題提出      | 100.00 | 0.00 | 100.00 | 100.00 | 0.00  | 0.00  | 0.00  | 0.00   |
|          | 乳児保育Ⅱ      | 演習 | 20 | レポート      | 100.00 | 0.00 | 100.00 | 85.00  | 15.00 | 0.00  | 0.00  | 0.00   |
|          | 養護内容       | 演習 | 96 | レポート・課題提出 | 100.00 | 0.00 | 100.00 | 68.75  | 31.25 | 0.00  | 0.00  | 0.00   |
|          | 児童文化の研究Ⅰ   | 演習 | 55 | 発表・レポート   | 100.00 | 0.00 | 100.00 | 47.27  | 52.73 | 0.00  | 0.00  | 0.00   |
|          | 児童文化の研究Ⅱ   | 演習 | 42 | 作品・レポート   | 100.00 | 0.00 | 100.00 | 73.81  | 26.19 | 0.00  | 0.00  | 0.00   |
| 基礎的教養・技能 | 音楽         | 演習 | 60 | 実技試験      | 100.00 | 0.00 | 100.00 | 8.33   | 76.67 | 15.00 | 0.00  | 0.00   |
|          | 音楽Ⅱ        | 演習 | 28 | 実技試験      | 100.00 | 0.00 | 100.00 | 85.71  | 14.29 | 0.00  | 0.00  | 0.00   |
|          | 音楽Ⅲ        | 演習 | 15 | 実技試験      | 100.00 | 0.00 | 100.00 | 100.00 | 0.00  | 0.00  | 0.00  | 0.00   |
|          | 図画工作Ⅱ      | 演習 | 33 | 作品        | 100.00 | 0.00 | 100.00 | 69.70  | 30.30 | 0.00  | 0.00  | 0.00   |
|          | 体育Ⅱ        | 演習 | 49 | 実技試験      | 100.00 | 0.00 | 100.00 | 97.96  | 2.04  | 0.00  | 0.00  | 0.00   |
|          | 国語         | 講義 | 20 | 課題提出・筆記試験 | 100.00 | 0.00 | 100.00 | 45.00  | 35.00 | 20.00 | 0.00  | 0.00   |
|          | 生活         | 講義 | 25 | レポート      | 100.00 | 0.00 | 100.00 | 52.00  | 48.00 | 0.00  | 0.00  | 0.00   |
|          | 児童文化総論     | 講義 | 52 | レポート      | 100.00 | 0.00 | 100.00 | 69.23  | 25.00 | 5.77  | 0.00  | 0.00   |
| 総合       | 卒業研究セミナー   | 演習 | 96 | ※各担当の指示   | 100.00 | 0.00 | 100.00 | 92.71  | 7.29  | 0.00  | 0.00  | 0.00   |
| 実習       | 教育実習       | 実習 | 95 | 実習成果      | 95.79  | 0.00 | 95.79  | 0.00   | 0.00  | 0.00  | 4.21  | 95.79  |
|          | 保育実習       | 実習 | 96 | 実習成果      | 100.00 | 0.00 | 100.00 | 0.00   | 0.00  | 0.00  | 0.00  | 100.00 |
|          | 保育実習Ⅱ      | 実習 | 71 | 実習成果      | 98.59  | 0.00 | 98.59  | 0.00   | 0.00  | 0.00  | 1.43  | 98.59  |
|          | 保育実習Ⅲ      | 実習 | 25 | 実習成果      | 100.00 | 0.00 | 100.00 | 0.00   | 0.00  | 0.00  | 0.00  | 100.00 |
| 自主科目     | 保育特別講座Ⅱ    | 演習 | 8  | レポート      | 75.00  | 0.00 | 75.00  | 75.00  | 0.00  | 0.00  | 25.00 | 0.00   |
|          | 児童館の機能と運営  | 講義 | 30 | 課題提出      | 100.00 | 0.00 | 100.00 | 100.00 | 0.00  | 0.00  | 0.00  | 0.00   |
|          | 児童の健全育成と福祉 | 講義 | 30 | レポート・課題提出 | 100.00 | 0.00 | 100.00 | 96.67  | 3.33  | 0.00  | 0.00  | 0.00   |
|          | 児童館実習      | 実習 | 30 | 実習成果      | 100.00 | 0.00 | 100.00 | 0.00   | 0.00  | 0.00  | 0.00  | 100.00 |

国際コミュニケーション科専門科目の単位認定の状況表（平成 21 年）

| 種別      | 授業科目名                  | 授業形態 | 履修人員 | 主な単位認定の方法 | 単位取得状況 % |       |        | 最終の評価 % |       |       |       |      |
|---------|------------------------|------|------|-----------|----------|-------|--------|---------|-------|-------|-------|------|
|         |                        |      |      |           | 本試       | 再試等   | 計      | 優       | 良     | 可     | 不可    | 合    |
| 学科基礎科目  | フレッシュマン・セミナー           | 演習   | 104  | 課題提出・レポート | 97.12    | 0.00  | 97.12  | 65.38   | 22.12 | 9.61  | 2.88  | 0.00 |
|         | コミュニケーション演習            | 演習   | 104  | 発表・レポート   | 97.12    | 0.00  | 97.12  | 82.69   | 9.62  | 4.81  | 2.88  | 0.00 |
|         | 国際社会と日本                | 講義   | 104  | 発表・レポート   | 97.12    | 0.00  | 97.12  | 68.27   | 26.92 | 1.92  | 2.88  | 0.00 |
|         | フィールドワーク               | 演習   | 101  | 発表・レポート   | 95.05    | 0.00  | 95.05  | 90.09   | 3.96  | 0.99  | 4.95  | 0.00 |
|         | キャリア・デザイン              | 講義   | 101  | レポート      | 93.07    | 0.99  | 94.06  | 81.19   | 4.95  | 7.92  | 5.94  | 0.00 |
|         | 英語演習Ⅰ                  | 演習   | 104  | 筆記試験      | 96.15    | 0.00  | 96.15  | 76.92   | 16.35 | 2.88  | 3.85  | 0.00 |
|         | 英語演習Ⅱ                  | 演習   | 101  | 筆記試験      | 94.06    | 0.00  | 94.06  | 68.32   | 23.76 | 1.98  | 5.94  | 0.00 |
|         | 英会話Ⅰ                   | 演習   | 104  | 筆記試験      | 94.23    | 1.92  | 96.15  | 35.58   | 41.34 | 19.23 | 3.85  | 0.00 |
|         | 英会話Ⅱ                   | 演習   | 101  | 筆記試験      | 94.06    | 0.00  | 94.06  | 47.52   | 25.74 | 20.79 | 5.94  | 0.00 |
|         | 情報基礎演習                 | 演習   | 104  | 筆記試験      | 97.12    | 0.00  | 97.12  | 57.69   | 30.77 | 8.65  | 2.88  | 0.00 |
|         | Vocabulary Building    | 演習   | 48   | 課題・筆記試験   | 100.00   | 0.00  | 100.00 | 64.58   | 29.17 | 6.25  | 0.00  | 0.00 |
|         | English CommunicationⅠ | 演習   | 52   | 発表・筆記試験   | 94.23    | 0.00  | 94.23  | 40.38   | 42.31 | 11.54 | 5.77  | 0.00 |
|         | ハンゲルⅠ                  | 演習   | 32   | 筆記試験      | 87.50    | 9.38  | 96.88  | 34.38   | 25.00 | 37.50 | 3.13  | 0.00 |
|         | ハンゲルⅡ                  | 演習   | 27   | 筆記試験      | 88.89    | 7.41  | 96.30  | 25.93   | 18.52 | 51.85 | 3.70  | 0.00 |
|         | 中国語Ⅰ                   | 演習   | 32   | 筆記試験      | 84.38    | 12.50 | 96.88  | 56.25   | 15.63 | 25.00 | 3.13  | 0.00 |
|         | 中国語Ⅱ                   | 演習   | 27   | 筆記試験      | 81.48    | 7.41  | 88.89  | 55.56   | 22.22 | 11.11 | 11.11 | 0.00 |
|         | スペイン語Ⅰ                 | 演習   | 8    | 筆記試験      | 100.00   | 0.00  | 100.00 | 37.50   | 25.00 | 37.50 | 0.00  | 0.00 |
|         | スペイン語Ⅱ                 | 演習   | 8    | 筆記試験      | 100.00   | 0.00  | 100.00 | 37.50   | 25.00 | 37.50 | 0.00  | 0.00 |
| コース専門科目 | 英語音声学                  | 講義   | 39   | 筆記試験      | 100.00   | 0.00  | 100.00 | 33.33   | 51.28 | 15.38 | 0.00  | 0.00 |
|         | CALL                   | 演習   | 30   | 課題        | 93.33    | 0.00  | 93.33  | 80.00   | 13.33 | 0.00  | 6.67  | 0.00 |
|         | 英語学入門                  | 講義   | 34   | 実技・レポート   | 91.18    | 0.00  | 91.18  | 67.65   | 20.59 | 2.94  | 8.82  | 0.00 |
|         | 国際交流概論                 | 講義   | 51   | レポート      | 100.00   | 0.00  | 100.00 | 86.27   | 13.73 | 0.00  | 0.00  | 0.00 |
|         | 日本文化研究                 | 講義   | 6    | レポート・筆記試験 | 100.00   | 0.00  | 100.00 | 66.67   | 16.67 | 16.67 | 0.00  | 0.00 |
|         | 比較文化研究                 | 講義   | 21   | 筆記試験      | 85.71    | 0.00  | 85.71  | 19.05   | 23.81 | 42.86 | 14.29 | 0.00 |
|         | 国際ボランティア論              | 講義   | 24   | レポート      | 95.83    | 0.00  | 95.83  | 45.83   | 33.33 | 16.67 | 4.17  | 0.00 |
|         | 国際経済と日本                | 講義   | 43   | 筆記試験      | 97.67    | 0.00  | 97.67  | 69.77   | 25.58 | 2.33  | 2.33  | 0.00 |
|         | 国際関係論                  | 講義   | 22   | 発表        | 95.45    | 0.00  | 95.45  | 54.55   | 18.18 | 22.73 | 4.55  | 0.00 |
|         | オフィスワーク概論              | 講義   | 65   | レポート・筆記試験 | 93.85    | 4.62  | 98.46  | 44.62   | 26.15 | 27.69 | 1.54  | 0.00 |
|         | オフィスワーク演習              | 演習   | 66   | 筆記試験      | 96.97    | 0.00  | 96.97  | 25.76   | 27.27 | 43.94 | 3.03  | 0.00 |
|         | オフィスワーク実務              | 演習   | 65   | 発表        | 95.38    | 0.00  | 95.38  | 44.62   | 47.69 | 3.08  | 4.62  | 0.00 |
|         | 情報科学                   | 演習   | 56   | 課題提出・筆記試験 | 98.21    | 0.00  | 98.21  | 64.28   | 30.36 | 3.57  | 1.79  | 0.00 |
|         | IT社会論                  | 講義   | 51   | レポート・筆記試験 | 92.16    | 0.00  | 92.16  | 25.49   | 37.25 | 29.41 | 7.84  | 0.00 |
|         | インターシップ入門              | 演習   | 51   | 発表・レポート   | 98.04    | 0.00  | 98.04  | 49.02   | 47.06 | 1.96  | 1.96  | 0.00 |
|         | ボランティア概論               | 講義   | 14   | レポート      | 57.14    | 0.00  | 57.14  | 14.29   | 28.57 | 14.29 | 42.86 | 0.00 |
|         | ボランティア実習Ⅰ              | 実習   | 3    | レポート      | 66.67    | 0.00  | 66.67  | 66.67   | 0.00  | 0.00  | 33.33 | 0.00 |
|         | 海外ボランティア演習             | 演習   | 2    | レポート      | 100.00   | 0.00  | 100.00 | 50.00   | 0.00  | 50.00 | 0.00  | 0.00 |

# 領域Ⅳ

|        |                    |    |    |           |        |       |        |        |        |       |       |        |
|--------|--------------------|----|----|-----------|--------|-------|--------|--------|--------|-------|-------|--------|
| 専門選択科目 | 初級教養術と音楽           | 講義 | 17 | 筆記試験      | 100.00 | 0.00  | 100.00 | 41.18  | 41.18  | 17.65 | 0.00  | 0.00   |
|        | 情報科学演習Ⅰ            | 演習 | 30 | 筆記試験      | 73.33  | 0.00  | 73.33  | 26.67  | 23.33  | 23.33 | 26.67 | 0.00   |
|        | 情報科学演習Ⅱ            | 演習 | 15 | 課題提出・筆記試験 | 86.67  | 0.00  | 86.67  | 46.67  | 33.33  | 6.67  | 13.33 | 0.00   |
|        | 情報処理演習             | 演習 | 42 | 課題提出・筆記試験 | 97.62  | 0.00  | 97.62  | 54.76  | 42.86  | 0.00  | 2.38  | 0.00   |
|        | プレゼンテーション概論        | 講義 | 15 | 課題提出・筆記試験 | 86.67  | 0.00  | 86.67  | 33.33  | 53.33  | 0.00  | 13.33 | 0.00   |
|        | プレゼンテーション基礎演習      | 演習 | 4  | 発表        | 75.00  | 0.00  | 75.00  | 75.00  | 0.00   | 0.00  | 25.00 | 0.00   |
|        | 簿記会計演習Ⅰ            | 演習 | 35 | 筆記試験      | 65.71  | 14.29 | 80.00  | 34.29  | 11.43  | 34.29 | 20.00 | 0.00   |
|        | 簿記会計演習Ⅱ            | 演習 | 19 | 筆記試験      | 78.95  | 0.00  | 78.95  | 52.63  | 10.53  | 15.79 | 21.05 | 0.00   |
|        | 日本語と情報処理           | 演習 | 25 | 筆記試験      | 92.00  | 0.00  | 92.00  | 72.00  | 20.00  | 0.00  | 8.00  | 0.00   |
|        | ビジネス文書作成演習         | 演習 | 52 | 課題提出      | 98.08  | 0.00  | 98.08  | 65.38  | 19.23  | 13.46 | 1.92  | 0.00   |
|        | ビジネス・インターシップ       | 実習 | 46 | 発表・レポート   | 100.00 | 0.00  | 100.00 | 0.00   | 0.00   | 0.00  | 0.00  | 100.00 |
|        | ボランティア技術演習         | 演習 | 32 | 実技        | 96.88  | 0.00  | 96.88  | 59.38  | 37.50  | 0.00  | 3.13  | 0.00   |
|        | TOEIC・TOEFL        | 演習 | 6  | 課題提出      | 100.00 | 0.00  | 100.00 | 33.33  | 66.67  | 0.00  | 0.00  | 0.00   |
|        | English for ChildⅠ | 演習 | 28 | 発表・筆記試験   | 92.86  | 0.00  | 92.86  | 92.86  | 0.00   | 0.00  | 7.14  | 0.00   |
|        | English for ChildⅡ | 演習 | 11 | 発表・筆記試験   | 100.00 | 0.00  | 100.00 | 100.00 | 0.00   | 0.00  | 0.00  | 0.00   |
|        | 英語教育法（専門）          | 講義 | 1  | 筆記試験      | 100.00 | 0.00  | 100.00 | 0.00   | 100.00 | 0.00  | 0.00  | 0.00   |
|        | 日本の伝統文化            | 演習 | 41 | 実技・レポート   | 87.80  | 0.00  | 87.80  | 39.02  | 46.34  | 2.43  | 12.20 | 0.00   |
|        | ドラマ・ワークショップ        | 演習 | 5  | 発表        | 100.00 | 0.00  | 100.00 | 100.00 | 0.00   | 0.00  | 0.00  | 0.00   |

国際コミュニケーション科専門科目の単位認定の状況表（平成22年）

| 種別      | 授業科目名                  | 授業形態 | 履修人員 | 主な単位認定の方法 | 単位取得状況 % |      |        | 最終の評価 % |       |       |       |      |
|---------|------------------------|------|------|-----------|----------|------|--------|---------|-------|-------|-------|------|
|         |                        |      |      |           | 本試       | 再試等  | 計      | 優       | 良     | 可     | 不可    | 合    |
| 学科基礎科目  | キャリア・デザイン              | 講義   | 83   | レポート      | 93.98    | 0.00 | 93.98  | 77.11   | 9.64  | 7.23  | 6.02  | 0.00 |
|         | 英語演習Ⅱ                  | 演習   | 16   | 筆記試験      | 87.50    | 0.00 | 87.50  | 68.75   | 18.75 | 0.00  | 12.50 | 0.00 |
|         | 英会話Ⅰ                   | 演習   | 12   | 課題提出・筆記試験 | 83.33    | 8.33 | 91.67  | 8.33    | 41.67 | 41.67 | 8.33  | 0.00 |
|         | 英会話Ⅱ                   | 演習   | 7    | 課題提出・筆記試験 | 85.71    | 0.00 | 85.71  | 71.43   | 14.29 | 0.00  | 14.29 | 0.00 |
|         | 卒業研究セミナーⅠ              | 演習   | 98   | レポート・成果発表 | 100.00   | 0.00 | 100.00 | 83.67   | 14.29 | 1.02  | 1.02  | 0.00 |
|         | 卒業研究セミナーⅡ              | 演習   | 98   | レポート・成果発表 | 100.00   | 0.00 | 100.00 | 74.49   | 21.43 | 3.06  | 1.02  | 0.00 |
|         | 国際セミナー                 | 講義   | 98   | レポート      | 98.98    | 0.00 | 98.98  | 51.02   | 41.84 | 6.12  | 1.02  | 0.00 |
| コース専門科目 | Speech & Discussion    | 演習   | 31   | 成果発表      | 100.00   | 0.00 | 100.00 | 45.16   | 32.26 | 22.58 | 0.00  | 0.00 |
|         | Advanced Reading       | 演習   | 32   | 課題提出・筆記試験 | 100.00   | 0.00 | 100.00 | 46.88   | 40.63 | 12.50 | 0.00  | 0.00 |
|         | Essay Writing          | 演習   | 31   | 課題提出      | 96.77    | 0.00 | 96.77  | 87.10   | 0.00  | 9.68  | 3.23  | 0.00 |
|         | English CommunicationⅡ | 演習   | 33   | 成果発表      | 96.97    | 0.00 | 96.97  | 36.36   | 30.30 | 30.30 | 3.03  | 0.00 |
|         | 日本文化研究                 | 講義   | 35   | レポート・筆記試験 | 88.57    | 0.00 | 88.57  | 25.71   | 31.43 | 31.43 | 11.43 | 0.00 |
|         | 国際ボランティア論              | 講義   | 16   | レポート      | 93.75    | 0.00 | 93.75  | 62.50   | 31.25 | 0.00  | 6.25  | 0.00 |
|         | アジア文化研究                | 講義   | 43   | レポート・筆記試験 | 97.67    | 0.00 | 97.67  | 88.37   | 9.30  | 0.00  | 2.33  | 0.00 |
|         | アメリカ文化研究               | 講義   | 50   | レポート      | 96.00    | 0.00 | 96.00  | 12.00   | 70.00 | 14.00 | 4.00  | 0.00 |
|         | ヨーロッパ文化研究              | 講義   | 55   | レポート      | 94.55    | 1.82 | 96.36  | 43.64   | 36.36 | 16.36 | 3.64  | 0.00 |
|         | 国際経済と日本                | 講義   | 54   | 筆記試験      | 94.44    | 0.00 | 94.44  | 48.15   | 35.19 | 11.11 | 5.56  | 0.00 |
|         | 国際協力                   | 講義   | 8    | レポート      | 62.50    | 0.00 | 62.50  | 25.00   | 25.00 | 12.50 | 37.50 | 0.00 |
|         | オフィスワーク概論・演習           | 講・演  | 58   | 筆記試験      | 93.10    | 0.00 | 93.10  | 32.76   | 53.45 | 8.62  | 6.90  | 0.00 |

# 領域Ⅳ

|        |               |    |    |           |        |       |        |        |        |       |       |        |
|--------|---------------|----|----|-----------|--------|-------|--------|--------|--------|-------|-------|--------|
| 専門選択科目 | 現代企業論         | 講義 | 85 | 筆記試験      | 96.47  | 0.00  | 96.47  | 36.47  | 38.82  | 21.18 | 3.53  | 0.00   |
|        | ボランティア活動論     | 講義 | 5  | レポート      | 100.00 | 0.00  | 100.00 | 0.00   | 100.00 | 0.00  | 0.00  | 0.00   |
|        | ボランティア実務Ⅰ     | 演習 | 10 | レポート      | 90.00  | 0.00  | 90.00  | 70.00  | 20.00  | 0.00  | 10.00 | 0.00   |
|        | ボランティア演習      | 演習 | 4  | レポート      | 50.00  | 0.00  | 50.00  | 50.00  | 0.00   | 0.00  | 50.00 | 0.00   |
|        | ボランティア実習Ⅰ     | 実習 | 1  | レポート      | 100.00 | 0.00  | 100.00 | 0.00   | 0.00   | 0.00  | 0.00  | 100.00 |
|        | 海外ボランティア実習    | 実習 | 2  | レポート      | 100.00 | 0.00  | 100.00 | 100.00 | 0.00   | 0.00  | 0.00  | 0.00   |
|        | 地域社会論         | 講義 | 14 | レポート      | 85.71  | 0.00  | 85.71  | 28.57  | 50.00  | 7.14  | 14.29 | 0.00   |
|        | ボランティア・マネジメント | 講義 | 1  | レポート      | 100.00 | 0.00  | 100.00 | 100.00 | 0.00   | 0.00  | 0.00  | 0.00   |
|        | NGO・NPO 論     | 講義 | 11 | 発表・レポート   | 100.00 | 0.00  | 100.00 | 18.18  | 81.82  | 0.00  | 0.00  | 0.00   |
|        | 異文化間コミュニケーション | 講義 | 20 | 筆記試験      | 95.00  | 0.00  | 95.00  | 85.00  | 10.00  | 0.00  | 5.00  | 0.00   |
|        | マスコミュニケーション   | 講義 | 28 | 筆記試験      | 100.00 | 0.00  | 100.00 | 64.29  | 21.43  | 14.29 | 0.00  | 0.00   |
|        | 情報発信演習        | 演習 | 58 | 課題提出・筆記試験 | 98.28  | 0.00  | 98.28  | 65.52  | 31.03  | 1.72  | 1.72  | 0.00   |
|        | 情報科学演習Ⅰ       | 演習 | 40 | 筆記試験      | 72.50  | 0.00  | 72.50  | 15.00  | 17.50  | 40.00 | 27.50 | 0.00   |
|        | 情報科学演習Ⅱ       | 演習 | 17 | 筆記試験      | 100.00 | 0.00  | 100.00 | 88.24  | 11.76  | 0.00  | 0.00  | 0.00   |
|        | 情報処理演習        | 演習 | 30 | 課題提出・筆記試験 | 100.00 | 0.00  | 100.00 | 46.67  | 23.33  | 30.00 | 0.00  | 0.00   |
|        | プレゼンテーション概論   | 講義 | 29 | 課題提出・筆記試験 | 100.00 | 0.00  | 100.00 | 68.97  | 31.03  | 0.00  | 0.00  | 0.00   |
|        | プレゼンテーション基礎演習 | 演習 | 39 | 発表・筆記試験   | 89.74  | 0.00  | 89.74  | 58.97  | 23.07  | 7.69  | 10.26 | 0.00   |
|        | プレゼン応用演習      | 演習 | 25 | 発表        | 92.00  | 0.00  | 92.00  | 56.00  | 36.00  | 0.00  | 8.00  | 0.00   |
|        | ウェブプロダクティング演習 | 演習 | 17 | 発表・筆記試験   | 100.00 | 0.00  | 100.00 | 76.47  | 23.53  | 0.00  | 0.00  | 0.00   |
|        | 簿記会計演習Ⅰ       | 演習 | 22 | 筆記試験      | 59.09  | 18.18 | 77.27  | 31.82  | 9.09   | 36.36 | 22.73 | 0.00   |
|        | 簿記会計演習Ⅱ       | 演習 | 19 | 筆記試験      | 63.16  | 10.53 | 73.68  | 26.32  | 10.53  | 36.84 | 26.32 | 0.00   |
|        | マーケティング       | 講義 | 36 | レポート      | 97.22  | 0.00  | 97.22  | 36.11  | 55.56  | 5.56  | 2.78  | 0.00   |
|        | 観光ビジネス論       | 講義 | 53 | レポート      | 92.45  | 0.00  | 92.45  | 22.64  | 37.74  | 32.08 | 7.55  | 0.00   |
|        | 日本語と情報処理      | 演習 | 43 | 筆記試験      | 95.35  | 0.00  | 95.35  | 74.42  | 13.95  | 6.98  | 4.65  | 0.00   |
|        | 情報管理と活用       | 演習 | 42 | 課題提出・筆記試験 | 97.62  | 0.00  | 97.62  | 80.95  | 16.67  | 0.00  | 2.38  | 0.00   |
|        | 起業と経営学入門      | 講義 | 11 | 発表・筆記試験   | 90.91  | 0.00  | 90.91  | 18.18  | 63.64  | 9.09  | 9.09  | 0.00   |
|        | ビジネス思考法入門     | 講義 | 34 | 発表        | 97.06  | 0.00  | 97.06  | 44.12  | 50.00  | 2.94  | 2.94  | 0.00   |
|        | ボランティア実習Ⅱ     | 実習 | 1  | 発表・レポート   | 100.00 | 0.00  | 100.00 | 100.00 | 0.00   | 0.00  | 0.00  | 0.00   |
|        | ボランティア技術演習    | 演習 | 16 | レポート      | 100.00 | 0.00  | 100.00 | 81.25  | 18.75  | 0.00  | 0.00  | 0.00   |
|        | 手話通訳          | 演習 | 28 | 実技・レポート   | 100.00 | 0.00  | 100.00 | 57.14  | 32.14  | 10.71 | 0.00  | 0.00   |
|        | 日本語教育Ⅰ        | 講義 | 8  | 課題提出・筆記試験 | 62.50  | 25.00 | 87.50  | 62.50  | 12.50  | 12.50 | 12.50 | 0.00   |
|        | ハングルセミナーⅠ     | 演習 | 6  | レポート      | 100.00 | 0.00  | 100.00 | 66.67  | 16.67  | 16.67 | 0.00  | 0.00   |
|        | ハングルセミナーⅡ     | 演習 | 6  | レポート      | 83.33  | 0.00  | 83.33  | 83.33  | 0.00   | 0.00  | 16.67 | 0.00   |
|        | 中国語セミナーⅠ      | 演習 | 12 | 筆記試験      | 100.00 | 0.00  | 100.00 | 91.67  | 8.33   | 0.00  | 0.00  | 0.00   |
|        | 中国語セミナーⅡ      | 演習 | 11 | 筆記試験      | 100.00 | 0.00  | 100.00 | 90.91  | 0.00   | 9.09  | 0.00  | 0.00   |
|        | スペイン語セミナーⅠ    | 演習 | 7  | 筆記試験      | 85.71  | 0.00  | 85.71  | 42.86  | 42.86  | 0.00  | 14.29 | 0.00   |
|        | スペイン語セミナーⅡ    | 演習 | 6  | 筆記試験      | 100.00 | 0.00  | 100.00 | 83.33  | 16.67  | 0.00  | 0.00  | 0.00   |
|        | 英米の文学         | 講義 | 20 | レポート      | 90.00  | 0.00  | 90.00  | 50.00  | 25.00  | 15.00 | 10.00 | 0.00   |
|        | TOEIC・TOEFL   | 演習 | 32 | 課題提出・筆記試験 | 96.88  | 0.00  | 96.88  | 78.13  | 12.50  | 6.25  | 3.13  | 0.00   |
|        | 言語学入門         | 講義 | 19 | 課題提出・筆記試験 | 89.47  | 0.00  | 89.47  | 52.63  | 31.58  | 5.26  | 10.53 | 0.00   |
|        | 教育心理学（専門）     | 講義 | 1  | 課題提出・筆記試験 | 100.00 | 0.00  | 100.00 | 100.00 | 0.00   | 0.00  | 0.00  | 0.00   |
|        | 日本の伝統文化       | 演習 | 43 | 実技・レポート   | 97.67  | 0.00  | 97.67  | 37.21  | 53.49  | 6.98  | 2.33  | 0.00   |
|        | ドラマ・ワークショップ   | 演習 | 4  | 発表        | 100.00 | 0.00  | 100.00 | 100.00 | 0.00   | 0.00  | 0.00  | 0.00   |
|        | メディア制作        | 演習 | 29 | 作品        | 96.55  | 0.00  | 96.55  | 93.10  | 3.45   | 0.00  | 3.45  | 0.00   |

## 領域Ⅳ

国際コミュニケーション科教職科目の単位認定の状況表（平成 21 年）

| 種別     | 授業科目名     | 授業形態 | 履修人員 | 主な単位認定の方法 | 単位取得状況 % |       |        | 最終の評価 % |       |       |       |      |
|--------|-----------|------|------|-----------|----------|-------|--------|---------|-------|-------|-------|------|
|        |           |      |      |           | 本試       | 再試等   | 計      | 優       | 良     | 可     | 不可    | 合    |
| 教職専門科目 | 教職論       | 講義   | 14   | 課題・レポート   | 85.71    | 14.29 | 100.00 | 57.14   | 21.43 | 21.43 | 0.00  | 0.00 |
|        | 教育基礎論     | 講義   | 14   | 課題・レポート   | 85.71    | 0.00  | 85.71  | 71.43   | 14.29 | 0.00  | 14.29 | 0.00 |
|        | 道德教育の研究   | 講義   | 14   | 課題・筆記試験   | 85.71    | 0.00  | 85.71  | 85.71   | 0.00  | 0.00  | 14.29 | 0.00 |
|        | 特別活動      | 講義   | 13   | レポート      | 92.31    | 0.00  | 92.31  | 92.31   | 0.00  | 0.00  | 7.69  | 0.00 |
|        | 英語教育法（教職） | 講義   | 14   | 筆記試験      | 85.71    | 0.00  | 85.71  | 85.71   | 0.00  | 0.00  | 14.29 | 0.00 |
|        | 教育心理学（教職） | 講義   | 9    | レポート・筆記試験 | 77.78    | 0.00  | 77.78  | 55.56   | 22.22 | 0.00  | 22.22 | 0.00 |
|        | 教育工学（教職）  | 演習   | 14   | 発表・課題     | 85.71    | 0.00  | 85.71  | 71.43   | 14.29 | 0.00  | 14.29 | 0.00 |

国際コミュニケーション科教職科目の単位認定の状況表（平成 22 年）

| 種別     | 授業科目名      | 授業形態 | 履修人員 | 主な単位認定の方法 | 単位取得状況 % |      |        | 最終の評価 % |       |       |       |      |
|--------|------------|------|------|-----------|----------|------|--------|---------|-------|-------|-------|------|
|        |            |      |      |           | 本試       | 再試等  | 計      | 優       | 良     | 可     | 不可    | 合    |
| 教職専門科目 | 生徒指導       | 講義   | 13   | 課題提出・筆記試験 | 100.00   | 0.00 | 100.00 | 69.23   | 23.08 | 7.69  | 0.00  | 0.00 |
|        | カウンセリング基礎論 | 講義   | 21   | 筆記試験      | 76.19    | 0.00 | 76.19  | 42.86   | 9.52  | 23.81 | 23.81 | 0.00 |
|        | 教育実習       | 実習   | 13   | レポート・課題提出 | 100.00   | 0.00 | 100.00 | 100.00  | 0.00  | 0.00  | 0.00  | 0.00 |
|        | 英語教育法（教職）  | 講義   | 7    | レポート      | 100.00   | 0.00 | 100.00 | 100.00  | 0.00  | 0.00  | 0.00  | 0.00 |
|        | 総合演習（教職）   | 講義   | 13   | レポート      | 100.00   | 0.00 | 100.00 | 84.62   | 15.38 | 0.00  | 0.00  | 0.00 |
|        | 教育心理学（教職）  | 講義   | 11   | レポート・筆記試験 | 100.00   | 0.00 | 100.00 | 72.73   | 27.27 | 0.00  | 0.00  | 0.00 |
|        | 教育工学（教職）   | 演習   | 4    | 発表・レポート   | 100.00   | 0.00 | 100.00 | 100.00  | 0.00  | 0.00  | 0.00  | 0.00 |

（２）学科長等がそれぞれの学科について、単位認定の方法、単位の取得状況及び担当教員による評価の現状についてどのように受け止めているかを記述してください。

### 幼児教育科

#### 【現状・評価】

##### ① 単位認定の方法

短期大学共通の評価基準にもとづき単位認定を行っている。科目の性質によって例えば、「教育実習」「保育実習」「保育者セミナー」などの科目は「合格」「不合格」として評価を行い、合格を認定している（以下合／否科目と呼ぶ）。

##### ② 単位の取得状況

本学卒業要件は 70 単位以上であるが、学生は幼稚園教諭二種免許状と保育士資格の両方取得する事を基本にしている。更に学生によっては児童厚生二級資格やレクリエーションインストラクター資格も希望するので専門科目を多く履修することになる。平成 22 年度の場合では、最大履修単位 125 単位（前年度 119）、最小履修単位 96 単位（前年度 91）、平均履修単位でも 112 単位（前年度 109）でかなり多い。2 年間でこれだけの単位を履修するので学業が忙しい。同時に時間割が過密かつ複雑になっている。15 週確保や実習の期間の確保とあいまって、学生も教員も忙しい現状が存在している。

##### ③ 担当教員による評価の現状

免許・資格取得に直結する科目の重要性に鑑み担当教員は、慎重に評価している。全専門科目の評価結果は、A=69.0%（前年 A=65.71%）、B=17.7%（前年 B=21.12%）、C=3.8%（前年 C=3.85%）、D=0.3%（前年 D=0.42%）、「合／否」評価=7.7%（前年 9.33%）であった。

#### ④ 担当教員による評価の現状に対する学科長の認識

評価配分率に留意する事は合意されているが、前年比で見るとAがやや多い。しかし、教員は授業改善に努力しているので評価姿勢と学生の実力、努力、目的意識などが加味された適切な評価である。

【課題・改善策】 評価結果は「新・ファエラマリアスカラシップ」採択条件に、また児童厚生二級指導員資格の選考にも成績が加味される。全科目の評価結果一覧を活用して一層適正、厳格な評価に努める必要がある。学生にとって評価は大きな励みになるものであるから、学生に「担当教員が（自分につけた）評価の妥当性について」を何らかの方法で聞く必要がある。もう一点、現在合／否科目としている「保育者セミナー」は「Ⅰ・Ⅱ」としたので評価方法を見直す必要がある。

### 国際コミュニケーション科

#### 【現状・評価】

##### ① 単位の認定方法

短期大学共通の評価基準にもとづき、単位認定を行っている。欠席が全授業数の3分の1を超えた学生は原則としてその科目の受験資格を失うが、退学者・休学者がその前段階として出席不良にて不認定を受けるケースはやはり多い。

##### ② 単位の取得状況

情報処理士、プレゼンテーション実務士などの認定資格をめざす学生の割合はまだ高く、卒業要件の70を大きく越える単位数を取得する学生は多い。平成21年度入学で22年度卒業生の総取得単位数は全学生の平均で81.8単位であった。教職課程履修者は、免許法上85単位が最低ラインだが、平均95.1単位で、100単位を越える学生も珍しくない。教職以外の英語コースの学生の平均は80.9単位、国際文化コースは77.3単位、情報ビジネスコースは80.8単位であった。複数の免許資格や進学編入をめざす学生が100単位を超える例もある一方、70ないし72単位で卒業した学生は、国際文化コースで6名、情報ビジネスコースで3名いた。

##### ③ 担当教員による評価の現状

担当教員による評価は、各科目、各教員に任されている。「合／否」科目を含めた平成22年度全専門科目全体の評価結果は、A=55.52%（21年度57.89%）、B=28.90%（25.62%）、C=10.54%（10.76%）、D=5.05%（5.24%）で、21年度と傾向はほとんど変わらなかった。総合的に見て、現時点ではおおむね適切な評価が下されていると判断している。

##### ④ 担当教員による評価の現状に対する学科長の認識

評価される学生の側から、各教員、各科目についてその評価の格差、不公平（厳しい、甘い、など）を指摘する声はあまり聞かれなくなった。各学期末にすべての授業について「自己評価票」の提出が義務づけられ、互いの授業の様子が見えるようになって



## 領域Ⅳ

たおかげで、教員間の意識の統一はかなり進んでいると言える。

【課題・改善策】 レベルの多様化する学生に対応するにはある程度厳しい評価基準が必要で、かつその基準がぶれないことが重要である。まだ若干甘いかもしれないとの認識が残るので、専任、兼任を問わず学期開始前に繰り返し注意を喚起し、教員側の意識統一を図りたい。

（３）学長等は、単位の取得状況及び担当教員による評価の現状について、短期大学全体状況をどのように受け止めているかを記述してください。

【現状・評価】 成績評価ならびに単位の取得に関しては、高等教育の質を落とさないためにも、教員は学生に迎合せずしっかりと正當に評価しようとしている。Aの割合が高いのは、80点以上をAとする絶対評価であるためであり、評価はおおむね妥当であると思われる。しかし、中には、評価が甘いのではないかとと思われる教員もいる。

2年間を取る単位数としては、特に幼児教育科では多すぎるきらいがある。教員免許と保育者資格の二つを取得するのが通常であり、その上に他の資格を取ろうとすれば、どうしても単位数は増加してしまう。国際コミュニケーション科では、最低卒業必要単位数の近くで卒業していくものもあるが、大部分は、教員免許や種々の資格取得を目指しているので、その数は少ない。しかし、両科の平均取得総単位数には、30単位の差がある。忙しすぎるのはよくないかもしれないが、それでつぶれる学生はほとんど見られず、かえって生きがいややる気が増加し、幼児教育科には活き活きとした活気がみられる。将来に向けて目的意識を持つこと、社会に向かって目を開くことが、やる気に大きな影響を与えていることがわかる。

【課題・改善策】 評価の甘さ、辛さに関する教員間の不均衡については、学生の授業評価やそれに対する教員の自己評価を公にしたり、懇談会（FD活動）等を兼任講師をも巻き込んで実施したりする中で、かなり是正されてきたと思われるが、それらの活動を引き続き継続していくことでさらに改善していきたい。幼児教育科の修業年限に関しては、大きな不都合を感じていないとはいえ検討していくべき課題であろう。

欠席の多い学生については、一人ひとりに対するきめ細かな対応により、不合格や退学という結果が出る前に指導する必要がある。

【授業に対する学生の満足度について】

（１）各授業について、終了後に「学生の満足度」の調査をしていればその調査の概要を記述してください。また、調査票の様式等を訪問調査の際にご準備ください。

【現状・評価】 領域Ⅱで述べた授業評価の共通設問のうち、第10問に「この授業全体を振り返り、満足できる内容であったと思いますか。」を設け、その満足度を問うている（「平成22年度授業評価報告書および授業相互参観記録」を参照）。授業評価項目の一部に「満足度」を取り込み、全学、各学科等の平均値によって「満足度」の傾向を考察している。

また授業評価とは別に、学園生活全般への満足度を調査した（「平成22年度学生生活調査報告書」を参照）。この中にも「学科の教育」に対する満足度を問う設問が用意されている。

(2) 担当教員が授業終了後の学生の満足度に配慮しているかについて、学科長等が現状をどのように受け止めているかを記述してください。

### 幼児教育科

【現状・評価】 平成 22 年度の専門科目における満足度は、五段階の平均値で春学期 4.49（前年度 4.50）、秋学期 4.47（前年度 4.43）であった。秋学期にやや下がっているが、昨年度秋学期よりやや上昇した。定期的に行う授業評価は、お互いに「どのように学生の満足と授業内容の充実を確保するか」について意見交換し、自分の授業を客観的に見る機会となって意義深いと認識している。平成 22 年度は自分の担当科目から選んだ特定科目について改善内容を予め示しておき、その目標が果たせたかを報告会で公開するという一歩踏み込んだ授業改善を行った。

（平成 22 年度授業評価報告書及び授業改善評価シート・秋学期編）参照）

【課題・改善策】 改善策として以下 4 点について努力したい。

- ① 授業の相互参加、授業評価報告会での授業改善の取り組み状況を共有する
- ② 科目担当者が行う学生の評価（成績）の妥当性について、学生自身がどのように受けとめているかについて調査して分析する必要がある。
- ③ 兼任講師との懇談会においても担当科目の（成績）評価について意見交換する。
- ④ 国語力を向上させる工夫を教員の総力をあげて行う。

### 国際コミュニケーション科

【現状・評価】 学期ごとに行う「学生授業評価」で、平成 22 年度の専門教育科目の満足度平均値は、春学期 4.37、秋学期 4.37 であった。平成 21 年度の春 4.32、秋 4.40 とほぼ変わりなく、上昇傾向もようやく頭打ちと見られる。

学科 FD 研究会では、学科長に提出された自己評価票をもとに各授業の反省や総括をしつつ、授業改善の土台としている。学生の満足度を真摯にとらえ、教員一人ひとりが改善のサイクルを自覚的に作り出せるようになってきたと思われる。兼任講師 FD 懇談会も含め、授業をめぐる教員相互の情報交換は大変有益で、定期的に続けたい。

【課題・改善策】 国際コム学生の満足度が低い傾向は、20 年度秋学期の総合満足度が幼児教育科を越えた(4.26 と 4.19)ことである部分解消されたが、18 年度リクルート社ブランド力調査などの学生生活満足度データによるショックを乗り越えたとは言えない。FD 活動への取り組みを一層強め、じっくりと着実に授業満足度の維持向上をはかる必要がある。そのために 23 年度の改善策として、①シラバスや授業計画による目標やねらいの受講生への徹底、②各教員間の授業方法や工夫の情報交換、などに取り組むことにした。

(3) 学長等は短期大学全体の現状をどのように受け止めているかを記述してください。

【現状・評価】 専門教育科目の授業に対する満足度の平均は、幼児教育科では、春期、秋期ともに 5 段階評定で 4.5 であり、国際コミュニケーション科も同 4.4 である。共通教育科目においても、春期 4.4、秋期 4.3 であり、本学全体の平均値でも春秋ともに 4.4 となっている。この値は平均であるから多くの科目がこの周辺にあるわけだが、中には全員が満足度 5 という科目もあり、驚異的であると判断する。学生の判断が甘いのかと疑って授業を参観してみると確かに工夫された授業が展開されているのである。

## 領域Ⅳ

教員は、科目毎に学生の授業評価に基づいて自己評価を行い、それらは一冊の冊子としてまとめられ公にされる。また、専門科目については、科毎に教員間で報告しあい、共通教育科目についても同様の報告が行われる。さらに専任教員においては、2010年度からは、一科目以上について授業改善計画シートの作成が求められ、その結果がどうであったかについて自己評価する授業改善評価シートの作成も求められた。また、授業の相互参観も行われコメントを交わしあうなど熱心なFD活動を通してお互いに切磋琢磨している結果であろう。

【課題・改善策】 授業の良し悪しと学生の満足度が必ずしも一致するわけではない。学生の我儘な要求に迎合することなく真の意味で満足できる授業が展開されるようにと望む。本学における学生の満足度は、真の意味で高い満足度を示していると思うが、中には、授業評価の結果を恐れて表面的な満足を与えてしまうケースもあるかもしれないと想像する。

### 【退学、休学、留年等の状況について】

(1) 過去3ヶ年（平成20年度～平成22年度）の退学、休学、留年の数を、次の表を例にして学科等ごとに記載し、学科の状況を明らかにしてください。

幼児教育科の退学者等一覧表

(平成23年3月31日)

|                       | 20年度入学 | 21年度入学 | 22年度入学 | 備考 |
|-----------------------|--------|--------|--------|----|
| 入学者数                  | 101    | 97     | 121    |    |
| うち退学者数                | 1      | 1      | 2      |    |
| うち休学者数                |        |        |        |    |
| 休学者のうち復学者数            |        |        |        |    |
| うち留年者数（通常の学年進行によらない者） |        |        |        |    |
| 卒業者数                  | 100    | 96     |        |    |

国際コミュニケーション科の退学者等一覧表

(平成23年3月31日)

|                       | 20年度入学 | 21年度入学 | 22年度入学 | 備考 |
|-----------------------|--------|--------|--------|----|
| 入学者数                  | 89     | 105    | 88     |    |
| うち退学者数                | 3      | 8      | 8      |    |
| うち休学者数                | 1      |        |        |    |
| 休学者のうち復学者数            |        |        |        |    |
| うち留年者数（通常の学年進行によらない者） | 2      |        |        |    |
| 卒業者数                  | 84     | 97     |        |    |

(2) 退学者の退学理由割合、退学理由の最近の傾向及び退学者、休学者（復学者を含む）及び留年者に対する指導（ケア）の現状について学科等ごとに記述してください。

【現状・評価】 幼児教育科では、入学者に対する退学者の割合は、平成20年度入学1.0%、平成21年度入学1.0%、平成22年度入学1.6%である。退学理由は進路変更、健康上の理由が挙げられる。

国際コミュニケーション科では、入学者に対する退学者の割合は、平成20年度入学3.4%、平成21年度入学7.6%、平成22年度入学9.0%である。国際コミュニケーション科の方が退学者の比率が高い状況である。退学理由は進路変更、健康上の理由が挙げられる。休学

者は復学をせず退学に至っている。また近年は授業料未納による除籍者が目立つようになってきている。

退学者、休学者及び留年者についての指導は学生本人及び保護者に対しそれぞれのクラス担任が行っている。

【課題・改善策】 退学、休学に至る学生は授業の出席状況が悪い学生に多く、その早期発見のために各科での学生情報交換が重要である。出席しなくなってしまった学生の支援について今後、保健室、学生相談室の活用を勧めるなど支援の方法を検討していきたい。

(3) 退学、休学、留年等の現状を、学科長等がどのように受け止めているかを学科等ごとに記述してください。

### 幼児教育科

【現状・評価】 担任は学生の学習上、生活上の問題に指導助言を行っている。また、毎月の科会では「学生動向」の部分で情報交換を行い、専任教員が担当科目で注意深く配慮して指導助言を行っている。H22 年度は「保育者セミナー」通年化にともなって学生との関わりが深くなり、個別面談を複数回行った。退学、休学者は少ないと認識している。平成 22 年度は、進路変更と健康上の理由で退学者 2 名であった。(前年度 1 名)

【課題・改善策】 免許・資格取得のために編成されたカリキュラムであって、学生はその目標に向かってひた走らねばならない。その勢いは幼児教育科の元気の良さ、バイタリティーとしてプラス面に見える。しかし、過密な時間割の中で、それに適応できない学生が出ないように、きめ細かな支援が必要となる。全教員が関わるセミナー科目を中心に学生への個別対応により、信頼関係に根ざした学生支援を一層はかりたい。

### 国際コミュニケーション科

【現状・評価】 休学・退学の学生数は 20 年度入学生は 3 名(入学生数の 3.4%)と少なかったが、21 年度入学生は 8 名(7.6%)、22 年度入学生も 1 年次終了時ですでに 8 名(9.0%)と再び高い傾向を続けている。入学後の学生生活や人間関係へのスムーズな適応をいち早く図るために 20 年度から実施しているオリエンテーション・キャンプ、ビッグシスターとの関係、フィールドワークなどチームやグループでの活動の増加がよい方向に働いているのかどうか判断は難しいが、休退学などの問題を抱える学生の割合はやはり確実に上昇していると思われる。

オリエンテーション・キャンプ時の細心の注意に始まり、担任制とセミナー制を活かしつつ、週 1 回のキャンパス・アワーを中心とするホームルーム、個別の面談指導、家庭・保護者との連絡などにあたり、科会における学生の情報交換、学科教員のオフィス・アワー設置など、きめ細かい行き届いた体制を続けたい。

【課題・改善策】 近年やはり心身の不調や友人関係などの原因からケアを必要とする学生や、入学以前に家庭や進路の問題で学習の態勢にない学生がふえ、対応に苦慮するケースは多い。学生相談室、保健室との連携など、学生支援課、担任、学科長の連絡をさらに密に取るよう努めているが、それら地道な対応以外の有効な手立ては見当たらず、多少手詰まり感は感じられる。

(4) 学長等が、短期大学全体の現状をどのように受け止めているかを記述してください。

【現状・評価】 幼児教育科では、退学する学生は極めて少ない。はじめから進路選定が誤っていたもの、健康上の理由でやめざるを得ないものに限られる。幼児教育科では、将来の目的もはっきりしており、日常の忙しさにもかかわらず、いや、忙しさのゆえに却って生きがい感が生まれ、周囲の友に支えられながら悩みつつも乗り越えていく学生が多い。社会の荒波にもまれる実習等に際しては、危機に陥る学生も稀ではないが、教員も必死で学生たちを支えている。

国際コミュニケーション科では、中途退学する学生の数が増加する傾向にある。過去の不適応を引きずって、入学早々登校できなくなる学生もいるが、中には、2年間在学しながら卒業時単位修得できなかったために退学してしまうケースもあり、実に残念である。国際コミュニケーション科では、多様なニーズに応ずる4コースがあり、将来の目標が一つの方向に集約されておらず、同じ専門職を目指して進む幼児教育科の場合とは異なる。

両科ともに、合格者が入学前から学校になじむように入学前教育を実施し、国際コミュニケーション科では、入学早々オリエンテーション合宿を行い学生の早期適応を促し、ビッグシスター制度を用いて、2年生が1年生の面倒を見ている。学生生活委員会と学生支援課では、年に何回か、ひとり暮らしの生活支援の集いを開き、親元を離れて生活する学生のための支援を行っている。こうした取組みは確かに功を奏していると思われるが、まだ力の及ばぬ面もあるのは否めない。

精神的な問題を抱え、保健室や相談室を利用する学生もいるが、どちらの担当者も温かく相談に応じている。

学生の甘えには迎合しないという態度で臨んでいるので、1科目のために卒業できない学生もいる。厳しいようではあるが、その学生の一生を思えばその対処は妥当であろう。毅然とした態度で接し、その後のあたたかい指導によって見違えるように変わった学生を何人も知っている。このような教育愛を実践する教員には、頭が下がる。

【課題・改善策】 一人ひとりが大切にされていると感ずることができるように、教職員が学生と接することが大切である。不適応のバロメーターともいえる出欠状況への目配りと早めの対処も欠かせない。自立のためには、まず正しい依存の対象が必要であり、精神的な拠り所が必要である。担任には、居場所のない学生たちの取り付く島としての存在になってもらいたい。また、キャンパスアワーなどを活用して、仲間のきずなを強めるようなチャンスをつくり、生涯続くような友人づくりと居心地のよいホームルームをつくるよう努力してもらいたい。セミナー担当者についても同様の努力をお願いしたい。将来再び会いたい友だち、教員、また戻ってきたい学校、そんな愛着心、愛校心ができれば退学者も減ずるのではないかと思う。

## 【資格取得の取組みについて】

(1)《Ⅱ教育の内容》の【教育課程について】(3)(7ページ)で報告いただいた取得が可能な免許・資格、また教育課程とは別に取得の機会を設けている免許・資格の取得状況(取得をめざした学生数、取得者数、取得割合等)を学科等ごとに示してください。

【現状・評価】 各学科の教育課程を通じて取得可能な免許・資格や教育課程の履修後受験を推奨・義務付けている免許・資格等について、平成22年度の取得状況を表に記す。

## 幼児教育科

## 教育課程の履修による免許・資格等の取得状況

| 免許・資格の名称         | 卒業者数 | 取得希望者数 | 取得者数 | 取得率(%) |
|------------------|------|--------|------|--------|
| 幼稚園教諭二種免許状       | 96   |        | 91   | 94.8   |
| 保育士資格            | 96   |        | 95   | 98.9   |
| レクリエーションインストラクター | 96   | 31     | 31   | 100    |
| 児童厚生二級指導員        | 96   | 30     | 30   | 100    |

注) レクリエーションインストラクターの取得希望者および取得者は、本年度に取得申請を行ったもので、翌年取得申請を予定する者を含まない。

また、児童厚生二級指導員に関しては、30名の人数制限があるため、希望者すべてが資格を取得している。

## 国際コミュニケーション科

## 教育課程の履修による免許・資格等の取得状況 他の資格追加?

| 免許・資格の名称                 | 取得希望者数 | 取得者数 | 取得率(%) |
|--------------------------|--------|------|--------|
| 中学校教諭二種免許状(英語)           | 13     | 13   | 100.0  |
| 情報処理士(全国大学実務教育協会)        | 37     | 37   | 100.0  |
| 上級情報処理士(全国大学実務教育協会)      | 14     | 14   | 100.0  |
| プレゼンテーション実務士(全国大学実務教育協会) | 19     | 19   | 100.0  |
| ボランティア実務士(全国大学実務教育協会)    | 1      | 1    | 100.0  |
| 国際ボランティア実務士(全国大学実務教育協会)  | 1      | 1    | 100.0  |
| レクリエーションインストラクター         | 31     | 31   | 100.0  |
| ウェブデザイン実務士               | 13     | 13   | 100.0  |

注) 中学校教諭二種免許状(英語)の取得希望者数は、教育実習参加者の数であり、全国実務教育協会の認定する資格の取得希望者の数は、受験者数である。レクリエーションインストラクターの取得希望者数は、資格取得のための必修科目である「レクリエーション概論」の単位を修得した人数であり、取得者数は本年に取得申請を行ったもので翌年取得申請を予定する者を含まない。

## 領域Ⅳ

### 教育課程の履修後受験を推奨・義務付けている免許・資格等の取得状況

| 免許・資格の名称            |    | 受験者数 | 取得者数 | 取得率<br>(%) |
|---------------------|----|------|------|------------|
| 秘書実務士（秘書サービス接遇教育学会） |    | 27   | 27   | 100.0      |
| 秘書技能検定（実務技能検定協会）    | 2級 | 57   | 25   | 43.9       |
| 〃                   | 3級 | 33   | 19   | 57.6       |
| サービス接遇検定            | 2級 | 9    | 8    | 88.8       |
| 〃                   | 3級 | 2    | 2    | 100.0      |
| 日商PC検定（文書作成）        | 2級 | 8    | 2    | 25.0       |
| 〃                   | 3級 | 26   | 15   | 75.0       |
| 日商PC検定（データ活用）       | 2級 | 1    | 1    | 100.0      |
| 〃                   | 3級 | 32   | 17   | 53.1       |
| ファイリングデザイナー検定       | 2級 | 6    | 2    | 33.3       |
| 〃                   | 3級 | 27   | 5    | 18.5       |
| 日商簿記検定              | 3級 | 18   | 3    | 16.7       |

### （２）今後導入を検討している資格・免許があれば記述してください。

【現状・評価】 幼児教育科では、新たな資格等の導入について具体的な検討はされていない。国際コミュニケーション科では、23年度より、受験を推奨する資格として、ITパスポート試験の受験を推進する予定である。今年度関連の授業を履修し、自主的に受験した学生が1名合格している。

### 【学生による卒業後の評価、卒業生に対する評価について】

（１）学科等ごとに専門就職（当該学科等で学修した分野に関連する就職）の状況（専門就職者数、割合等）について記述してください。また学科等ごとに専門就職先からの卒業生に対する評価について何か文書や資料があれば参考資料として準備してください。

【現状・評価】 幼児教育科は専門職希望者 90 人に対し全員就職先が決定し、専門職の就職率は 100%となっている。就職希望者 94 人に対し専門職希望者の占める割合は 95.7%である。幼児教育科卒業生 96 人に対し専門職希望者の占める割合は 93.8%である。

国際コミュニケーション科は学科の特性上専門職は少なく、一般職（公務を含む）を希望する学生がほとんどであるが、その中で専門職として英語教員（非常勤）2人が決定した。就職希望者 73 人に対し 70 人就職先が決定し就職率は 95.9%である。就職先の内訳は建設不動産業 1.4%、製造業 22.9%、卸小売業 28.6%、金融保険業 8.6%、運輸通信電気ガス業 4.3%、サービス業等 27.1%、公務教職 7.1%となっている。

キャリア支援センターとして就職先企業等への訪問において、卒業生の評価等について調査をおこない、個人情報の観点から求める人材や本学に要望する事項についてのみ学内にフィードバックをおこなった。

## 就職率の推移（平成 20 年度～平成 22 年度）

平成 23 年 5 月 1 日現在

|              |             | 平成 20 年度 |       | 平成 21 年度 |       | 平成 22 年度 |       |      |
|--------------|-------------|----------|-------|----------|-------|----------|-------|------|
|              |             | 実数       | 比率    | 実数       | 比率    | 実数       | 比率    |      |
| 幼児教育科        | ① 就職希望者数④＋⑤ | 102      | 100.0 | 94       | 100.0 | 94       | 100.0 |      |
|              | ④就職者数       | 102      | 100.0 | 94       | 100.0 | 94       | 100.0 |      |
|              | 内訳          | 幼稚園      | 36    | 35.3     | 35    | 37.2     | 37    | 39.4 |
|              |             | 保育園      | 49    | 48.0     | 38    | 40.4     | 44    | 46.8 |
|              |             | 施設       | 3     | 2.9      | 4     | 4.3      | 3     | 3.2  |
|              |             | 一般企業     | 6     | 5.9      | 8     | 8.5      | 3     | 3.2  |
|              |             | 公務その他    | 8     | 7.8      | 9     | 9.6      | 7     | 7.4  |
|              | ⑤就職未定者数     | 0        | 0.0   | 0        | 0     | 0        | 0     |      |
|              | ② 進学        | 5        | －     | 6        | －     | 2        | －     |      |
|              | ③ その他       | 0        | －     | 1        | －     | 0        | －     |      |
| 卒業者数①＋②＋③    | 107         | －        | 101   | －        | 96    | －        |       |      |
| 国際コミュニケーション科 | ① 就職希望者数④＋⑤ | 94       | 100.0 | 68       | 100.0 | 73       | 100.0 |      |
|              | ④就職者数       | 85       | 90.4  | 62       | 91.2  | 70       | 95.9  |      |
|              | 内訳          | 建設不動産    | 4     | 4.7      | 9     | 14.5     | 1     | 1.4  |
|              |             | 製造       | 13    | 15.3     | 8     | 12.9     | 16    | 22.9 |
|              |             | 卸小売      | 26    | 30.6     | 17    | 27.4     | 20    | 28.6 |
|              |             | 金融保険     | 9     | 10.6     | 3     | 4.9      | 6     | 8.6  |
|              |             | 運輸通信電気ガス | 9     | 10.6     | 2     | 3.2      | 3     | 4.3  |
|              |             | サービス等    | 24    | 28.2     | 23    | 37.1     | 19    | 27.1 |
|              |             | 公務教職その他  | 0     | 0.0      | 0     | 0.0      | 5     | 7.1  |
|              | ⑤就職未定者数     | 9        | 9.6   | 6        | 8.8   | 3        | 4.1   |      |
|              | ② 進学        | 11       | －     | 8        | －     | 9        | －     |      |
|              | ③ その他       | 10       | －     | 8        | －     | 15       | －     |      |
| 卒業者数①＋②＋③    | 115         | －        | 84    | －        | 97    | －        |       |      |
| 合計           | ① 就職希望者数④＋⑤ | 196      | 100.0 | 162      | 100.0 | 167      | 100.0 |      |
|              | ④就職者数       | 187      | 95.4  | 156      | 96.3  | 164      | 98.2  |      |
|              | ⑤就職未定者数     | 9        | 4.6   | 6        | 3.7   | 3        | 1.8   |      |
|              | ② 進学        | 16       | －     | 14       | －     | 11       | －     |      |
|              | ③ その他       | 10       | －     | 9        | －     | 15       | －     |      |
|              | 卒業者数①＋②＋③   | 222      | －     | 185      | －     | 193      | －     |      |

【課題・改善策】 就職先からの卒業生評価が本学の教育効果となっていることは言うまでもない。それらの情報は今後の学生支援・指導に有効ではあるが、個人情報関係から就職先へのアンケート調査は難しいのが実態であり、引き続き就職先への訪問等において、聞き取り調査を実施していく。また、より有益なものとするために調査の内容や学内へのフィードバックの仕方について工夫を加える必要がある。



(2) 卒業生に対する就職先（専門就職に限らない）及びその他の進路先（編入先等）からの評価をどのように受け止めているのかについて、短期大学全体では学長等が、学科等については学科長等が記述してください。

### 短期大学全体

【現状・評価】 アンケート調査のような客観的データはないが、概してよい評価を得ている。たまたま社会で出会うと意外に良くやっている姿に感心することも多く、思わぬ企業の上司から大変よくやっているというほめ言葉に写真を添えた礼状をもらったこともある。幼児教育科でここ数年来 100%の就職率を維持できているのも先輩方の実績のお蔭であろう。人間としての良識や他者に対する細やかな配慮等、年々低下していく現象が見られる。我々の世代では当たり前であった良識が、現代の若者たちには通用しないことも多く、昔は、清泉の卒業生には新人研修は必要ないとまでいわれていたが、現在ではおぼつかない状況にあると感じている。しかし、外からの声は、入って来にくいのが現状である。今年は不況の影響で、就職についてはかなり心配したが、年度末になって急に進展し昨年の就職率を上回ることができた。教職員の努力と清泉なら安心という先輩たちの築いてくれた信頼のお蔭と感じている。

【課題・改善策】 就職先や進学先からのフィードバックを確実に入手する方法を考えて定期的に実施していく必要がある。しかし、本音を聞くことができるように、先方との密な連絡を折に触れて実施し、接触を深め、信頼を強めていくことが大切である。就活そのものも大切であるが、学生自身のあらゆる意味での実力、学力の面からも社会人としての基本的能力の面からも、信頼に値する能力をつけることが先決である。

### 幼児教育科

【現状・評価】 実習巡回指導に訪れた時、本学卒業の現職員と話す機会を作っている。また、学園祭に参加する卒業生には専任教員が積極的に勤務状況や実習学生などについて話す機会を作っている。進学者（編入者）には例年アンケートによって評価を実施している。本年度も例年通りに実施したが、6名からの回答が得られなかった。

【課題・改善策】 平成 22 年度は「卒業生との懇談会」の開催を予定していたが出来なかった。現職の課題や本学への要望などを直接聞く等の重要性から次年度実施したい。懇談会を通して成長した卒業生の姿を確認出来る。また教員との交流の機会にもなる。もう一点、進学者（編入者）に対する評価方法を見直す必要がある。

### 国際コミュニケーション科

【現状・評価】 総合的に見て、これまでは就職先や進学先からは基本的に好印象をもたれていると言えた。しかしながら現在は、企業の採用側も学校名のみで判断することなく各社採用基準をもち、実力本位で臨む動きが一層強まっている。多くの組織で求められる社会常識・マナー、積極性や自主性などについて本学学生が十分応えられているかどうか。特に 19 年度卒業生以来、早期離職者の増大が目立っており、キャリア教育やキャリア支援のあり方に一石を投じている。22 年度の外部評価でも本学卒業生への見方は確実に変化しており、在学中の教育が十分地域の期待に応えられていない感がある。

22 年度は学科共同研究のテーマとしてキャリア教育を取上げ、初めての本格的アンケー

ト調査を実施した。細かい分析はこれからであるが、在学中のキャリア教育や支援の改革に資するデータを得られるものと予想している。

【課題・改善策】 23年度も学科共同研究を進めて、本学における教育活動、キャリア形成・支援などが学生に対してどれほど有効であったのか、就職先及び進学先に対する聞き取りやアンケートなども含めて、できるだけ客観的な研究にしたいと考えている。

(3) 卒業生に対して「学生時代についてのアンケート（卒業後評価等）」等を実施している場合はその概要と結果を記述してください。また、教育の実績や効果を確認するための卒業生との接触、同窓会等との連携等を行っている場合もその取組みの概要と結果について記述してください。

【現状・評価】 キャリア支援センターでは、21年3月、過去3年（平成18年3月卒業～20年3月卒業）の卒業生約600名を対象にアンケート調査を実施したため、今年度は卒業生に対するアンケートは実施しなかった。次回は過去3年（平成21年3月卒業～23年3月卒業）の卒業生を対象に平成24年3月にアンケートを実施する予定である。その内容は早期離職および学生時代についての自己評価と満足度に関する調査を予定している。

卒業生との接触については、企業訪問等によって人事等担当者や本人から情報を収集し、その状況を確認している。ほかに、卒業生の協力により、就職活動についての体験活動報告や就職先での仕事について在学生に情報提供しており、学生にとっても貴重な情報源となっている。

早期離職防止を目的とした同期会を、7月に開催。平成21年度卒業生約250名に案内し、約24%の出席があった。社会に出て3ヶ月、久しぶりに教員や同期生と会い、色々な思いを語り合い、分かち合い、情報交換することで、リフレッシュして、明日への活力となったようである。

【課題・改善策】 卒業生が就職先で定着することだけが教育の実績や効果とは言い難いが、ある程度の目安になっている。卒業生の早期離職の実態を把握するとともに、企業や卒業生から得た情報をもとに求められる人材を理解し、その適性を養成できるよう教育の中に還元していく必要を感じる。併せて、就職だけに特化することなく、それぞれの学生が固有の生き方の多様性を知り選択ができるよう支援し、将来幸せに人生を歩むことへのきっかけを支えることが求められている。

(4) 卒業生が社会からどのように評価されているか、学科長等、学長等はどのように受け止めているかを記述してください。

【現状・評価】 清泉の卒業生といえば、一般には、短期大学よりも姉妹校である長野清泉女学院高等学校の卒業生をイメージする人が多い。高校の方が歴史も長く卒業生の数も多いからである。短期大学の知名度は、東北信地区に強く、中信・南信地区ではあまり知られていない。したがって社会からの短期大学の卒業生に対する評価は、高校の卒業生への評価に重ねて見られるのが一般的である。それは、ミッションスクールを卒業した人で、礼儀正しく上品で信頼できる人というものであろう。「神の尊前に清く正しく愛深く」というモットーのもと、厳しいしつけを受けた高校、短期大学の先輩たちの社会の中で示してきた誠実な生き方があってこそ、この地域社会に清泉の評価が浸透してきたと考えられる。

## 領域Ⅳ

しかし、近年の学生たちの育ちや気質・感覚が以前とはかなり違ってきており、このような評価を維持していくことの難しさを感じている。成熟した学生を育成するために、現代の学生に対する教育方法が問われている。各学科については、(2)の評価を参照されたい。

### 【特記事項について】

(1) この《Ⅳ教育目標の達成度と教育の効果》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、教育目標の達成度と教育の効果について努力していることがあれば記述してください。

### 秘書技能検定

秘書実務士資格取得に必要な秘書技能検定試験は学内で実施している。これにより教育課程を受講した学生に「検定試験合格」と言う最終目標を位置づけるとともに、授業への取組み意識が高まることを期待している。

本学では平成 16 年度の秘書実務検定合格率に関して「平成 16 年度 秘書技能検定 文部科学大臣奨励賞」を授与された。これは全国の団体受験校および事業所数 1,939 の中より 5 校（団体）が選ばれたもので、本学は短大部門トップとして受賞した。また平成 18 年度には、全国の団体受験校および事業所数 2,024 の中より 65 校が選ばれ、本学もその 1 校として「平成 18 年度文部科学大臣団体優秀賞」を授与されたが、残念ながら 19～22 年度については合格率が低下傾向にあり、受賞を逃している。

## 領域V 学生支援

### 【入学に関する支援について】

（１）入学志願者に対し、短期大学は建学の精神・教育理念や設置学科等の教育目的・教育目標、求める学生像をどのような方法、手段で明示しているかを記述して下さい。なおそれらが記載されている短期大学案内等の印刷物を添付して下さい。

【現状・評価】 入学志願者に対して「大学案内」を５月に発行している（「平成 23 年度清泉女学院短期大学案内」を参照）。このなかで、本学の教育の基本方針、教育目標、アドミッション・ポリシーを明示している（ホームページ上でも同様）。また、学科紹介のなかで「教育方針」を明示している。キリスト教に基づいた全人教育と本学の専門教育内容が理解でき、在学生や卒業生の写真や体験談を通して本学の内容・資格取得また卒業生の進路について理解を深める内容となっている。また、学内の諸行事や学長のメッセージなどを、「清泉女学院カレッジ通信」として発行、配布している。また、「SJC NEWS」を発行し教育活動や学生の姿を伝えている。さらに、オープンキャンパス・進路ガイダンス・高校訪問等を通して説明して理解を深めてもらう機会を増やしている。

（２）入学志願者に対し、入学者選抜の方針、選抜方法（推薦、一般、AO 入試等）をどのような方法、手段で明示しているかその概要を簡潔に記述して下さい。なおそれらが記載されている募集要項等の印刷物を参考資料としてご準備下さい。

【現状・評価】 「学生募集要項」を５月に発行し、入学試験区分・募集人員・試験日等を記している。前年の入試データも記載し、本学ホームページ上でも同様の情報提供を行っている（「平成 23 年度清泉女学院短期大学募集要項」を参照）。また、オープンキャンパス・進路ガイダンス・高校訪問等で説明し、質問に対しては丁寧に答えている。

（３）広報及び入試事務についての体制（組織等）の概要を記述して下さい。また入学志願者、受験生等からの問い合わせにはどのような体制で応じているかを記述して下さい。

【現状・評価】 各科の教員と入試広報室をメンバーとした「入試・広報企画委員会」を組織し、出願が始まる時期まで概ね月 2 回開催、広報活動全体の企画・運営を行っている。入試広報室は専任職員 3 名と非常勤職員 1 名で担当している。非常勤職員は主に高校訪問を中心に活動し、概ね週 1 回大学に出勤し活動内容を報告、入試広報企画委員会にも出席している。入学志願者、受験生からの問い合わせはメールおよび電話が主であるが、直接来学するケースもあり、学内案内も含めて丁寧に対応している。

（４）願書受付から合否通知にいたる入学試験の流れについて、選抜方法ごとにその概要を記述して下さい。また多様な選抜を公正かつ正確に実施しているかどうか、入試事務の責任者は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。入学願書等を参考資料としてご準備下さい。

【現状・評価】 平成22年度は「特別推薦入試」「推薦入試」「自己推薦入試」「一般入試A日程」「一般入試B日程」、「センター入試」及び国際コミュニケーション科のみ「A0入試Ⅰ期・Ⅱ期」を実施した。「入試・広報企画委員会」が入試スケジュールと受験科目等の募集要項を定め、実際の入試運営は専任教員と事務職員による「入試実施委員会」が担当する。試験日直前に専任教員全員が出席する「入試実施直前委員会」が各入試形態ごとに開催され、細やかな実施詳細についてミスの無いように関係者全員で再確認を行っている。入試実施後には、各学科ごとに予備審査を行い、その後に入試実施委員及び学長による判定会議が開催される。以下が、平成22年度に実施した各入試の概要である。以下のような多様な選抜について、本学ではアドミッション・ポリシーに則り公正かつ正確に入試業務を実施している。特に国際コミュニケーション科のA0入試については事前の課題レポートや2回に渡る面談を綿密に行い、受験生の合否判定には慎重かつ公正に入試業務を遂行していると言える。

① 特別推薦入試（専願）

各学科が指定する評定平均値以上の現役高校生を対象に、個人面接によってのみ審査される。入試事務局による入学願書の開封後、推薦書、志願票、調査書などの出願書類をチェックし、受験番号を付番した段階で受付とする。受付後、受験票を志願者宛に郵送する。試験終了後個人面接の結果をコンピュータへ入力し、審査資料を作成する。最終的には判定会議で合否を決定し、合否通知を発送する。この入試では合格者の中から各科若干名の特典受給者も選抜される。

② 推薦入試（専願）

公募型と指定校型があり、各科が指定する評定平均値等の応募資格がある。幼児教育科は実技試験（「音楽」「美術」「朗読」から選択）と個人面接、国際コミュニケーション科は個人面接によって審査される。入試業務は特別推薦入試に準ずる。

③ 自己推薦入試

12月に実施。所定の自己推薦基準に基づき募集する。高校卒業後2年以上の過年度生については、健康診断書が必要となる。幼児教育科は個人面接および表現力テスト（「歌」「朗読」から選択）、国際コミュニケーション科は個人面接のみによる審査である。入試業務は、特別推薦入試に準ずるが、主に「自己推薦書」を参考に他の出願書類と併せて総合的に合否判定する。

④ 一般入試

A日程とB日程がある。幼児教育科は今回、B日程を初めて導入した。高校卒業後2年以上の過年度生については、健康診断書が必要となる。A日程は両科ともに1科目の選択科目による筆記試験（幼児教育科では音楽実技を選択科目に含む）と個人面接により審査される。「国語総合・現代文」か「英語Ⅰ・Ⅱ・オーラルコミュニケーション」を選択することによって2つの学科を併願受験できる。B日程は両科とも小論文と個人面接の入試科目となっている。入試業務は推薦入試に準ずるが、推薦書を必要としない。

⑤ センター入試

平成21年度および平成22年度大学入試センター試験の成績が利用できる入試である。A日程とB日程とC日程があり、入試業務は一般入試に準ずるが、大学入試センター試験の結果および高校の調査書をあわせて総合的に合否判定を行っており、どちらも本学

独自の筆記試験・個人面接等を課してはいない。

⑥ A0 入試（国際コミュニケーション科のみ）

I 期と II 期の 2 つの時期があり、出願前に所定の課題レポートを提出、2 回の面談を実施する。修了証明書の通知によって正式な出願手続きに入る。実際の出願は 10 月以降となる。

⑦ 特別選抜入試

社会人や帰国生に対して特別に門戸を開くため、小論文と個人面接のみによる特別選抜入試を両学科とも一般入試 A 日程と同日に実施している。入試業務は一般入試に準ずる。

（５）合格者もしくは入学手続き者に対し、入学までの間、授業や学生生活についてどのような方法、手段で情報の提供を行っているかを記述して下さい。なおそのための印刷物等があれば参考資料としてご準備下さい。

【現状・評価】 2 つの科とも以下の要領にて合格通知に入学に向けた準備学習を記した情報を提供している。毎年 1 月の「清泉フェスティバル」に入学予定者（12 月までの入試合格者）を招待し、各科の詳しい紹介や入学準備、入学後の選択事項などの情報提供の機会を設けている。

## 幼児教育科

幼児教育科では、保育者への意欲の向上と期待感を高める目的で、次の 2 つの取組みを実施している。

① 合格者への課題

「入学前から幼児教育科の学習内容に触れ、問題意識を持ち学ぶ姿勢を持ってほしい」という願いから、「合格者への課題」を提示している。平成 22 年度は、⑦音楽の基礎練習、④保育関係図書の講読とレポートの作成、⑤保育に関する新聞記事の収集の 3 つを設定し、入学後に提出させた。このうち④と⑤の課題は、必修科目の「保育者セミナー」の中で活用し、指導後に返却している。

② 入学前オリエンテーション他

本学の雰囲気慣れることや、幼児教育科で学ぶ内容を知り期待感を持つことを目的に特別推薦・推薦入試合格者に対して、1 月に学生の発表会「清泉フェスティバル」に招待して学生の雰囲気に接してもらった。また、平成 22 年度は「入学前オリエンテーション」を実施して 4 月からのスタートに備えた。内容は、「合格者への課題説明」「100 の体験説明」「音楽課題と授業の説明」を行った。

③ 入学前講座

平成 22 年度入学予定者全員を対象として「自分発見！スタートセミナー」を入学前に開催した。合格者全員が出席した。「自分とのコミュニケーション」「他者とのコミュニケーション」「グループで協力して成し遂げる力」「一歩踏み出す力」など保育者としての基礎的な力を養成することを目的として実施した。入学後の「保育者セミナー」や学校行事で更に自分を深め、他者との関係づくりなどへと結びついたと思われる。

（「2010 年度 自分発見スタートセミナーアンケート集計結果報告書」参照）

次年度はこれを発展させて「リーダー養成プログラム」を目指した新企画を実施する。  
先輩から後輩へ保育者養成に関した学生間の深い交流を図ることを目標にしたい。

### 国際コミュニケーション科

入学までの期間を有効に利用し、入学後の多種多様な学習や活動に備えさせるために、そして社会人基礎力養成への意識付けのために、以下の取り組みをしている。

平成 22 年度中には、23 年度入学予定者に対して、入学までの間に学習し心がけてほしいことを 5 項目（コースの選択、外国語の選択、英語学習、情報処理・コンピュータスキル、書籍・新聞・ニュースなどに対する知的・社会的関心と国語力）にまとめた「合格者への手紙」を従来通り送付した。

さらに、入学前オリエンテーションと題して、12 月、1 月、2 月の 3 回土曜の午前に登校してもらい、以下のことを実施した。①入学までの生活および短大生活での留意点を説明。②知的・社会的関心に関連して新聞記事スクラップを課し、入学後「フレッシュマン・セミナー」の中で発表して意見交換を行うなどを予定。③「清泉フェスティバル」で卒業研究（2 年生）とフィールドワーク（1 年生）の発表会も聴講してもらい、入学後の学修のイメージを喚起する。④入学後の習熟度クラス編成に備えて英語プレイスメントテストと、キャリア基礎力力試しと称する基礎学力テスト（特に算数と思考力を測るテスト）、そして日本語基礎学力テストを実施し、就活への意識付けを開始する。⑤それらの実力をつけるために入学後の必修科目で使用する指定テキスト『文系の算数力アップ 300 問』を配布し、一部を課題とする。

（6）入学後（入学直前を含む）、入学者に対して行っている学業や学生生活のためのオリエンテーション等の概要を示して下さい。

【現状・評価】 入学後のオリエンテーションは、「学科・教務オリエンテーション」と「学生生活オリエンテーション」に健康診断を含めて実施している。「学生便覧」と「シラバス」を主に利用し、また各科ごとに準備した補助資料を活用して、学生支援課と各科教員が協力しながら学生の理解を助けるよう工夫している。定められたオリエンテーション期間のほかに、海外研修や情報教育など必要に応じて別途説明会を開催している。また、履修登録に関する個別相談の時間帯を設定し、教員と事務職員が一体となって学生に対してきめ細かなアドバイスを心がけている。特に平成 21 年度から Web 履修登録システムが稼働したので、学生がいつでも PC から履修登録できるようになり、学生支援課員も情報処理室等で学生の履修相談に対応しながら学生の履修登録を支援した。また、「キャンパス・ガイドブック」を別途、学生支援課で作成し、オリエンテーションで全学生へ配付した。これにはセクシャル・ハラスメント相談員も明記されており、学生生活がスムーズに始められるようなツールとして学生の好評を得た。

他に、入学前の 1 月末に「清泉フェスティバル」という在校生による学習発表会を行い、これに対して入学予定者全員を招待し、入学前事前準備として一日でも早く短大に馴染んでもらえるような企画を実施した。

## 【学習支援について】

(1) 入学時もしくは学期ごとに行っている学習や科目選択のためのガイダンス等の概要を示して下さい。

## 【現状・評価】

2年生は、平成22年度の学科・教務オリエンテーションを4月1日（木）に行った。また、通常授業開始が6日（火）であり、短時間で効率の良いオリエンテーションになるよう実施している。

1年生は、4月3日（土）が入学式であったが、その前日の2日（金）に学科・教務オリエンテーション①～③を3コマにわたって実施し、4月5日（月）には学科・教務オリエンテーション④を実施した。免許・資格、履修方法、履修登録の方法、時間割など本学の学生として必要な事項とともに、清泉女学院短期大学の建学の精神や学生としての心得など学生生活全般についてのガイダンスも行っている。科目履修にあたっては、資格・免許に必要な実習を含めて2年間で何を学ぶのかを具体的にイメージしながら、履修計画が立てられるよう指導した。また、集中講義となる「保育特別講座」や共通教育科目の履修について説明し、社会人となるべく未来を見つめ、教養・学問分野を広く学ぶことが大切であることを伝えている。

オリエンテーションの概要は次のとおりである。

## &lt;2年生オリエンテーション&gt;

| 月日     | 時間          | 2年生                                                                                                                |
|--------|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4/1（木） | 9:00～10:30  | <学科・教務オリエンテーション><br>・資料配布（学生便覧、時間割、その他）<br>・1年次履修単位の確認<br>・2年次単位登録について（卒業・免許・資格と選択科目）<br>・実習について（幼稚園実習、保育所実習、施設実習） |
|        | 10:40～12:10 | <学生支援部オリエンテーション><br>・学生支援部オリエンテーション<br>・国際交流プログラムについて<br>・ボランティアガイドブック配布・活用について                                    |

## &lt;1年生オリエンテーション&gt;

| 月日     | 時間          | 1年生                                                                      |
|--------|-------------|--------------------------------------------------------------------------|
| 4/2（金） | 9:00～10:30  | 学科・教務オリエンテーション①<br>・保育者へのルートについて<br>・学生支援課からの連絡                          |
|        | 10:40～12:10 | 学科・教務オリエンテーション②<br>・コースと履修の方法について<br>・履修ガイダンス①<br>・「合格者への課題」の提出          |
|        | 12:55～      | 学科・教務オリエンテーション③<br>・履修ガイダンス②<br>・音楽履修ガイダンス<br>・レクリエーションおよび児童厚生員資格履修ガイダンス |



## 領域V

|         |            |                                                            |
|---------|------------|------------------------------------------------------------|
| 4/5 (月) | 9:00~10:30 | 学科・教務オリエンテーション④<br>・履修ガイダンス③<br>・図画工作教材販売について<br>・学科セミナー案内 |
|---------|------------|------------------------------------------------------------|

### 国際コミュニケーション科

1年生は、3月29日と30日に入学前のオリエンテーションを実施した。個々の学生の履修相談に対応できるように、全体会は比較的余裕のある時間設定とした。また、日程の関係で平成22年度はオリエンテーション・キャンプを入学式前に実施した。2年生は、4月2日と5日の2日間オリエンテーションを実施した。オリエンテーションの概略は次のとおりである。

| 月日       | 時間            | 2年                                      | 1年                                                 |
|----------|---------------|-----------------------------------------|----------------------------------------------------|
| 3/29 (月) | 9:00~12:00    |                                         | 履修オリエンテーション ①<br>プレースメント・テスト                       |
| 3/30 (火) | 9:00~12:00    |                                         | 履修オリエンテーション ②                                      |
| 4/1 (木)  | 終 日           | オリエンテーション・キャンプ<br>(Big Sisters のみ)      | オリエンテーション・キャンプ                                     |
| 4/2 (金)  | 終 日           | 身体計測・進路ガイダンス                            | オリエンテーション・キャンプ                                     |
| 4/3 (土)  | 9:20 ~ 12:00  |                                         | 入学式<br>新入生→各 HR: (書類配布・担任の話等)<br>保護者→ (学科・スタッフ紹介等) |
| 4/5 (月)  | 9:00 ~ 10:30  | 学科オリエンテーション ①                           | HR 出席確認<br>学生証、ロッカーキー配布<br>個人カード、奨学金候補者書類等提出       |
|          | 10:40 ~ 12:10 | 学科オリエンテーション ②                           | 学生生活オリエンテーション                                      |
|          | 12:55 ~ 16:00 | 学生生活オリエンテーション<br>地域連携センターからのお知らせ<br>尿検査 | 身体測定・尿検査・視力検査・内科検診<br>学生会規約説明                      |

(2) 学習や科目選択のための印刷物（学生便覧等を除く）があれば参考資料としてご準備下さい。

【現状・評価】 オリエンテーション時の配布資料として「時間割表」「Web 履修登録操作マニュアル」「テキスト一覧」などを全員に配布している。このほか、各科ごとに履修登録に直接関係する資料をそれぞれ作成し活用している。幼児教育科では「専門科目時間割表」を、国際コミュニケーション科では「オリエンテーションー2010」を作成して使用している。

(3) 基礎学力不足の学生に対し補習授業等の取組みを行っている場合は、その概要を記述して下さい。

【現状と評価】 両科ともに現在、基礎学力不足の学生に対する補習授業などは組織的には行っていない。しかし、各科ごとに補充すべき力量に焦点をあてて改善の試みが行われている。

幼児教育科では、「保育者養成のための初年次教育プログラムの展開」の中で「日本語力育成プログラム」としてプレースメントテストとドリルを自学自習で複数回実施し、判

定された国語力をセミナー担当者も共有した。継続して実施することで目標に向かうという自己実現に貢献した。しかし、全般的に国語力不足が強化担当者から指摘されているので、対策を考えたい。

国際コミュニケーション科では、組織的・計画的な補習は行っていない。各授業、特に必修科目などでは、毎回小テストを実施するなど理解度を十分把握しているが、その結果が学期後半に至っても著しく悪い学生には、授業以外に適宜補習を集中的に実施することがある。

【課題・改善策】 専任教員のオフィス・アワーを活用した個別指導のほか、「基礎学力不足」の学生に対する学習支援を今後とも検討していきたい。また、「基礎学力不足」への具体的な対応方法などをFD活動として企画したり、個々の学生のニーズに応じた個別相談が可能な学習支援組織などの事例研究も必要であるとする。

(4) 学生の学習上の問題、悩み等に対し指導助言のための取組みや体制があれば記述して下さい。

【現状・評価】 まず学生支援課において学生生活上の相談を行い、学習上の問題や悩み等があればクラス担任、学生支援課あるいは学生相談室への相談先の振り分けを行っている。各科での取組みは以下の通りである。

### 幼児教育科

専門職への適性や資質について不安や戸惑いを感じている学生がいないか、クラス担任および「保育者セミナー」担当者で面接を行う。2年生でもクラス担任および「卒業研究セミナー」担当者、各実習担当者、更にキャリア支援センターの就職担当者による面談も行っている。毎月の科会では「学生動向」で情報を共有しきめ細かな指導を目指している。情報は慎重に扱われながらも共有されており、細やかな配慮のもとで学生と話している。

### 国際コミュニケーション科

クラス担任およびセミナー担当者は、学生のさまざまな悩みの相談・指導助言のために機能している。卒業後や将来に対する目的意識に欠ける学生も多く、本学への適応についても早めの助言が有効である場合が多い。特に1年生は、早い段階にフレッシュマン・セミナー担当者が全員に対して個人面談を行い、学習問題を中心に入学早々の問題に対応している。クラス担任も適宜面談を行っている。2年生には、クラス担任および卒業研究セミナー担当者が、就職をはじめ各種の問題について常時学生が相談できる体制をとっている。科会における「学生動向」のなかで、学生の持つ学習および生活上の悩みなども教員間で常に情報交換している。

【課題・改善策】 悩み等の発見解決が遅れることがないように、担任、学生支援課等との学生情報の共有化、各部署との連携など学生支援のあり方を常に検討していきたい。また、クラス担任のみならず、セミナー制による学生相談や指導や、少人数科目での一層細やかな配慮、保健室・学生相談室との連携も進めている。

(5) 進度の早い学生や優秀学生に対する学習上の配慮や学習支援を行っていれば、記述して下さい。

【現状・評価】 進度の早い学生や高等学校段階での学習状況に応じて、「代替履修制度」という措置を講じている。これは共通教育科目のうち「キリスト教概論」について、すでに高等学校等で同様の科目を履修している学生は、希望があれば「キリスト教と現代」に代えて履修する制度である。主に、姉妹校である長野清泉女学院高等学校の出身者を想定し、より深い学習内容を卒業必修科目として提供する目的である。平成22年度は20名の学生が代替履修した。

【学生生活支援体制について】

(1) 学生生活を支援するための組織や体制（教員組織、事務組織のいずれも）の現状を示して下さい。

【現状・評価】 学生生活を支援するための事務組織として、学生支援部学生支援課が設置されている。この学生支援課で実施する具体的な学生支援内容などを審議検討する組織として「学生生活委員会」が設置されている。学生生活委員会は、教員および事務職員にて構成されており、原則月1回開催されている。

学生生活委員会の組織は、学生支援部長：学生生活担当（1名）、短大学生生活委員長（学生支援部長が兼務）、併設大学学部学生生活委員長（1名）、短大担当者（2名）、学部担当者（1名）、学生相談室担当者（1名）、学生支援課職員（2名）で構成されている。なお学生相談室担当は、必要な場合のみ参加することとなっている。

ここでは短大及び併設大学の学生支援を全学的に話し合い、本年度の学生支援の重点項目を①学生会活動、サークル活動活性化の支援②施設設備利用の支援③健康で明るい大学生生活の支援、生活安全、事故防止の支援④一人暮らしの支援とし、それぞれが役割を分担し非常に効率よく学生支援にあたった。また具体的な実施事業として、危機管理マニュアルの確認、学生対象の生活安全教室「若い女性が狙われる犯罪にあわないために」、ゲートウェイドラッグ講演会「あなたの人生にタバコは必要ですか？」など外部講師を招聘しての講演会の開催、「一人暮らしの生活講座」、火災、消防避難訓練、教職員対象のAED・救急法研修会など学内研修会の開催、オーナー会議の開催、学生生活満足度調査、サークル活動改善・活性化についての提言など多岐にわたることが出来た。

また、学生支援のため学生相談室及び保健室が設置されている。学生相談室は、学外からカウンセラー（1名）を招聘し週1～3回の勤務体制で相談業務に当たっている。さらに、学内的にも臨床心理士資格を有する短大教員（1名）、学部教員（2名）が相談業務に週1コマ分を当てており、学生の相談に応じている。運営には保健室の看護師（1名）と保健室担当職員（1名）が協力し、学生相談室利用のスケジュールリングおよび学生相談の窓口として機能している。学生相談室は、学生相談室会議を原則月1回開催しており、相談室利用学生に関する情報交換および支援方針等を協議・決定している。学生相談室会議は、外部カウンセラー（1名）、短大教員（1名）、学部教員（2名）、看護師（1名）、学生支援課職員（1名）で構成されている。

本学（短大）では、学生支援の基本方針として、クラス担任制を採用している。各科1・2年の担任として4名の教員が配置されている。担任は、日常的な学生支援のみならず、

月曜3コマ目に設定されているキャンパス・アワーを担当し、クラス毎の活動を具体的に支援する担当者となっている。さらに、各科ともに授業の最小単位であるセミナーを学生支援体制に盛り込み、各セミナー担当教員がさらに細部にわたり支援を行っている。

事務組織では、学生支援課職員が主に担当しており、細やかな学生対応を行っている。

#### 【課題・改善策】

今年度は、例年学年末に実施していた学生生活・アメニティーアンケートを学生の要望を予算計上に反映させるため7月に行った。

この結果を踏まえ関係部署で検討し全学生に結果と改善策を掲示にて知らせた。アンケートの成果として、次年度からシャトルバスの増便、昇降口掲示板の見にくさを改善する掲示板等の設置に至った。学生生活・アメニティーアンケートの実施時期について次年度は、学年末に実施予定である。

本年度も、クラス担任制とセミナー制の融合を検討・試行してきたが、来年度も継続し、より具体的な運用形態を構築する課題が残っている。現在においては、クラス担任制を主に行っているわけであるが、計4名のクラス担任が学生生活委員会の構成員でないこともあり、学生生活に直結する委員会の検討結果等が十分に反映されにくいという問題もある。また、事務組織として学生支援を担当する課が現在一つの組織になっているが、実際の業務を行う上では、旧学生課と旧教務課に担当者が分かれてしまうことが時々あり、教員と連携した学生支援のためには改善も必要と考えられる。

今後、クラス担任制とセミナー制を融合実施していくに当たり、学生と直接向き合うことになるクラス担任教員やセミナー担当教員による学生支援の様々な情報を速やかに展開する体制は必要であると考えられる。

(2) クラブ活動の現状、学友会の現状、学園行事（学園祭、短大祭等）の実施の状況を、その指導体制及び学生の活動状況を含めて記述して下さい。

#### ① クラブ活動の状況

バスケットボール、バレーボール、バドミントン、ダンス、フットサル、スキー・スノーボード、陸上、卓球など運動系、児童文化研究や軽音部、吹奏楽、クリエイティブ、茶道、映画鑑賞などの文科系、あるいは CHG (Gather To Help Children)、福祉、やがとも、ゆりくま、あすなろ等その中間的なクラブ・サークルが活動している。

平成22年度は9月18日に第16回長野県短期大学体育大会が飯田市で行われバスケットボールは、2位と大健闘した。

#### ② クラブ活動、学生会の指導及び支援体制

各クラブは学生会が組織運営する形態をとっているが、それぞれのクラブには顧問の教職員が1名ずつおり、学生の相談や支援を行うことになっている。

学生会は、学生相互の親睦と充実した学生生活を送るために、代議員により組織運営されている。主な活動としては、クラブ活動の推進、清泉祭（学園祭）企画と運営、学生交流、学園生活の環境改善などの活動をしている。

毎年の恒例となっている主な行事は以下の通りである。

学生会関連の年間の通常行事

|      |                                                                        |
|------|------------------------------------------------------------------------|
| 4 月  | 学生会リーダー研修会<br>学生会規約説明会<br>クラブ説明会<br>新入生歓迎会<br>1 年生各委員会委員選出<br>予算案作成・審議 |
| 5 月  | 静修会<br>学生総会<br>代議員会<br>泉会・学生会活動助成金制度（エーセス）選定                           |
| 7 月  | 大掃除                                                                    |
| 10 月 | 清泉祭                                                                    |
| 11 月 | 次年度委員会委員の選出<br>代議員会<br>泉会・学生会活動助成金制度（エーセス）選定                           |
| 12 月 | 清泉ファミリー「クリスマスの集い」                                                      |
| 2 月  | 学生会リーダー研修会                                                             |

【課題・改善策】 学生会活動、クラブ活動の拠点となるプレハブを「まつぼっくり」と命名し、ほっとるーむ（旧学生会室）、文科系クラブ 2 室、体育館二階の利用などと併せ有効利用し学生会活動の活性化の場としている。2 年間の学生生活を有意義に過ごすために、クラブ活動を含む課外活動を活発にし、施設利用及びその手続きなどクラブ活動等が行いやすいように活動の場所・時間を配慮した環境、諸制度の整備を更に推進する必要がある。また、7 月に行った学生生活・アメニティアンケートの結果から学生会活動、サークル活動が学生一人一人に理解されにくい状況であり、学生会に対して、「サークル活動改善、活性化に関して」の提言をした。

（3）学生の休息のための施設・空間、保健室、食堂、売店の設置の概要について記述して下さい。なお訪問調査の際にご案内いただきます。

【現状・評価】 学生食堂の運営は外部委託しており、カフェテリアに開設している。授業日の午前 11 時～午後 1 時 30 分に利用できる。自動販売機や給湯、茶器の用意もある。売店としては清泉女学院生活協同組合購買書籍部「どんぐり」が設置されている。午前 8 時 45 分～午後 4 時 30 分まで営業している。食事は主にカフェテリアとマリアンホールを利用することができる。マリアンホールには電子レンジを設置し、自由に使用してもらうようにしているが、多目的ホールとして食事以外でも学生利用がある。なお、平成 21 年度より休息及び学生が自由に使用できる部屋として、「ほっとルーム」を設置した。部屋の入り口には月単位の使用表を張り、使用情報を共有してもらっている。

保健室は学生支援課の兼務職員と 1 名の看護師資格を有する非常勤職員が担当しており、非常勤職員 1 名の在室体制により開室時間は月曜日から金曜日までの午前 9 時から午後 4 時までとしている。

(4) 短期大学が設置する学生寮の状況、下宿・アパート等の宿舍の斡旋の体制、通学のための便宜(通学バスの運行、駐輪場・駐車場の設置等)の概要を示して下さい。

【現状・評価】 本学には学生寮はなく、遠方の学生に対しては本学専用アパートを紹介している。平成 22 年度は 1 年生 23 名、2 年生 26 名のアパート学生がいた。

毎年 10 月頃にアパートの「オーナー会」を開催し、アパートの現状報告、次年度の入居可能数および本学からの要望事項を伝え、入居する学生への便宜を図るとともに、学生指導の参考としている。また、1 年生を対象に年数回の「一人暮らしの生活講座」を開催し、アパート生活の不安への相談や情報交換を図り、親睦を深めている。平成 22 年度は生活管理についてのアドバイス、クッキング講座等を開催し学生間の親睦を深めた。

通学に関する支援としては本学の立地条件を考え、勉学・課外活動等の意欲向上を図る為、自動車通学を希望する学生には自動車通学を許可することとした。平成 20 年度の学生専用駐車場の増設に伴い、平成 22 年度は契約車両台数も増え、課外活動に多少なりともプラスになったようである。臨時駐車場の使用も当日申請も許可した為、増加した。駐輪場は、平成 18 年度にオートバイ専用の 1 箇所を増設し、3 箇所とした。公共交通機関利用の学生に関しては、通学の便宜をはかるため JR 三才駅から本学まで、朝 2 便の無料シャトルバスの運行を行っている。夕方は冬季(11 月～1 月)の月曜日に限定して三才駅まで 1 便を無料で運行し学生の安全を図っている。平成 19 年度より、公共交通機関利用促進のため「定期券・回数券購入代金助成制度」を開始した。この制度は長野電鉄バス、清泉女学院生活協働組合の協力により長野電鉄バス「長野駅ー清泉女学院」に限り定期券・回数券の購入代金の 20%を補助するものである。

【課題・改善策】 時間に便利な自動車通学も、学生が使用できる車の確保が経済的に大変なのか、学生専用駐車場の利用率は増えたがいまだ 100 パーセントに至っていない。自動車通学は安全面の懸念もあるが、できるだけ学生専用駐車場を有効活用してもらえようさらに工夫を考えたい。また、公共交通機関を使用する際の学生のマナー向上も啓蒙したい。スクールバスの増便も財源を工夫し、次年度は試験的に朝の増便を予定している。遠方からの入学者の中には、従来本学から支援斡旋しているアパート以外のアパートを希望する学生も近年増えてきている。キャンパス内での活動よりもアルバイト等に利便性のある地域にある点を重視していることも一因かと考えられる。

(5) 平成 22 年度の日本学生支援機構等の外部奨学金の取得状況を記述して下さい。また短期大学独自の奨学金等があればその概要を記述して下さい。

【現状・評価】 本学では外部奨学金として日本学生支援機構の奨学金を取り扱っている。大学独自の奨学金は、泉会(保護者会)奨学金、親泉会(卒業生の保護者会)奨学金、愛泉会(同窓会)海外研修奨学金、ラファエラ・マリア スカラシップ、緊急奨学金、夢チャレンジ奨学金に加え、平成 21 年度から泉会学費奨学金が導入された。ラファエラ・マリア スカラシップは、学業・人物に優れた学生への給付制度である。緊急奨学金は経済的困難に対する奨学金制度である。夢チャレンジ奨学金は、学園生活の活性化を支援し、学生の学内外の活動を支援する制度である。学生個人や団体からの申請に基づき、定められた手続きで審査し給付している。泉会学費奨学金は授業料の支払いが著しく困難な学生を支援する奨学金であり、経済的困難な学生が除籍となることがないように支援したい。

## 領域V

泉会奨学金については春・秋学期の二度にわたり申込を受付けているが、平成22年度は大幅に申込希望者が減少した。

【課題・改善策】 卒業後、奨学金返済が予定どおりできない卒業生がいる。奨学金事前説明会においても計画的に返済ができるよう指導したい。

平成22年度の奨学金申込採用状況

| 奨学金                                | 奨学金<br>応募者数   | 奨学金<br>採用者数 | 備 考     |
|------------------------------------|---------------|-------------|---------|
| 予約日本学生支援機構第1種                      | 高 校 時 に<br>応募 | 2           |         |
| 予約日本学生支援機構第2種                      |               | 25          |         |
| 日本学生支援機構第1種                        | 25            | 11          |         |
| 日本学生支援機構第2種                        |               | 8           |         |
| 泉会奨学金（春）                           |               | 5           |         |
| 親泉会奨学金                             |               | 1           |         |
| 泉会奨学金（秋）                           | 2             | 2           |         |
| 愛泉会海外研修奨学金                         | 0             | 0           |         |
| 入学時ラファエラ・マリア スカシップ <sup>°</sup>    | 52            | 5           |         |
| 入学時ラファエラ・マリア スカシップ <sup>°</sup> 継続 | 5             | 2           |         |
| 在学生ラファエラ・マリア スカシップ <sup>°</sup>    | 21            | 4           |         |
| 緊急奨学金                              | 0             | 0           |         |
| 合 計                                | 105           | 38          | 予約採用を除く |

平成22年度 夢チャレンジ奨学金給付一覧（短期大学関係分）

| 夢チャレンジ奨学金給付団体又は個人 | 所 属 学 生                 |
|-------------------|-------------------------|
| バスケットボール部         | 幼児教育科・国際コミュニケーション科      |
| 華道部               | 幼児教育科・国際コミュニケーション科・併設大学 |

### （6）学生の健康管理、メンタルケアやカウンセリングの体制の概要を示して下さい。）

【現状・評価】 学生の健康管理は、毎年入学式後のオリエンテーション期間に、全学生に対し健康診断を実施している。受診科目は内科検診（身長・体重測定を含む）、レントゲン、尿検査、視力となっている。健康診断の結果、再検査の必要がある学生には健康診断の結果を通知し、再検査後の結果の報告を求めている。

メンタルケアやカウンセリングに十分に対応する必要から、それまで保健室と兼用していた相談場所を、平成18年度より学生相談室として独立した。本学、併設大学の臨床心理士資格をもつ教員2名と臨床発達心理士の資格を持つ併設大学の卒業生が、1週間を通して時間を設定し、学生相談に応じている。

【課題・改善策】 保健室を利用する学生は年々増えているので、「保健室規程」の制定を検討することとなった。

(7) 学生支援のために学生個々の情報等を記録していれば、それらはどのように保管・保護されているかを記述して下さい。

【現状・評価】 入学時に学生の「個人カード」を記載し学生支援課に提出させている。記入項目およびカードの取り扱い、学生生活委員会で協議している。個人カードは学生支援課とクラス担任が1部ずつ保管し、クラス担任は学生指導の資料としているが、クラス担任の研究室においては施錠のできる保管場所で管理している。学生支援課でも施錠のできるキャビネットで保管し事務室内のみにて閲覧を行うことで個人カードを持ち出すことが無いよう個人情報の保護に努めている。なお、平成21年度からは学生カルテシステムを導入し、インターネット上で学生情報を管理することができるよう学生支援システムを整備したが、学生の個人情報をどこレベルまで誰までが閲覧できるようにするのか、個人情報保護の観点から結論が出ないため、現在もその活用方法について検討中である。

#### 【進路支援について】

(1) 下の進路状況表を例に、過去3ヶ年（平成20年度～22年度）の就職状況を学科等ごとに記載して下さい。また進路一覧表等の印刷物があれば参考資料としてご準備下さい。

【現状・評価】 幼児教育科は、平成22年度も就職率100%を達成した。これにより3年以上幼児教育専門職の就職率は100%を達成している。これは自分自身の進路に対する高い関心と、目標に向けての努力の賜物である。

国際コミュニケーション科の就職状況については、厳しい就職環境下にも関わらず、昨年度を上回り95.9%と高水準を達成することができた。また、未内定卒業生への支援についても公共機関等と連携を図りながら継続的に行っていく予定である。

【課題・改善策】 就職環境は、今後も引き続き厳しい状況が予想される。計画的な企業訪問等による新規求人開拓はもとより、2年間を通じての社会人力養成と極め細やかな支援が必要である。また、幼児教育科については、幼児教育専門職の特殊性から学校斡旋が主流であるとともに学生数の増加もあり、現在の求人先との関係強化と新規求人開拓が必要である。

平成20年度～平成22年度幼児教育科進路状況表

(平成23年5月1日現在)

|                 |     | 平成20年度 |       | 平成21年度 |       | 平成22年度 |       |
|-----------------|-----|--------|-------|--------|-------|--------|-------|
| a 卒業者数          |     | 107人   |       | 101人   |       | 96人    |       |
| b 就職希望者数        | b/a | 102人   | 95.3% | 94人    | 93.1% | 94人    | 97.9% |
| c うち学校で斡旋した就職者数 | c/b | 96人    | 94.1% | 90人    | 95.7% | 93人    | 98.9% |
| d うち自己開拓分の就職者数  | d/b | 6人     | 5.9%  | 4人     | 4.3%  | 1人     | 1.1%  |
| e 就職未定者         | e/b | 0人     | 0.0%  | 0人     | 0.0%  | 0人     | 0.0%  |
| f 進学・留学希望者数     | f/a | 5人     | 4.7%  | 6人     | 5.9%  | 2人     | 2.1%  |
| g その他           | g/a | 0人     | 0.0%  | 1人     | 1.0%  | 0人     | 0.0%  |



平成 20 年度～平成 22 年度国際コミュニケーション科進路状況表

(平成 23 年 5 月 1 日現在)

|                 |     | 平成 20 年度 |       | 平成 21 年度 |        | 平成 22 年度 |       |
|-----------------|-----|----------|-------|----------|--------|----------|-------|
| a 卒業者数          |     | 115 人    |       | 84 人     |        | 97 人     |       |
| b 就職希望者数        | b/a | 94 人     | 81.7% | 68 人     | 81.0%  | 73 人     | 75.3% |
| c うち学校で斡旋した就職者数 | c/b | 66 人     | 70.2% | 50 人     | 73.5 % | 64 人     | 87.7% |
| d うち自己開拓分の就職者数  | d/b | 19 人     | 20.2% | 12 人     | 17.7%  | 6 人      | 8.2%  |
| e 就職未定者         | e/b | 9 人      | 9.6%  | 6 人      | 8.8%   | 3 人      | 4.1%  |
| f 進学・留学希望者数     | f/a | 12 人     | 10.4% | 8 人      | 9.5%   | 9 人      | 9.3%  |
| g その他           | g/a | 9 人      | 7.8%  | 8 人      | 9.5%   | 15 人     | 15.5% |

(2) 学生の就職を支援する組織や体制(教員組織、事務組織のいずれも)の現状を記述して下さい。

【現状・評価】 キャリア支援センター開設から3年、キャリア支援センター長およびキャリア支援センター職員 4 名の構成で学生の進路支援を行っている。「キャリア支援委員会」の構成委員は、キャリア支援センター長、各科の教員(2年生のクラス担任の内1名)、キャリア支援センター職員及び併設されている大学教員(2名)である。月一回定例会を開催し、就職・進学支援計画の策定、就職支援・進学支援活動の検討を行っている。

幼児教育専門職は、委員会組織と併せて教員、専門職担当職員が相互に連携し、各種実務などを通じて求人情報を共有している。求人情報は、学生の指導や求人の斡旋に活用されている。

国際コミュニケーション科では専門教育科目の「キャリア・デザイン」「卒業研究セミナー」とキャリア支援センター主催のガイダンスや各種セミナー、イベント、清泉企業合同説明会の連携で就職支援をおこなっている。

両科とも科会およびキャリア支援センターからの情報をもとに学生の活動進捗状況や進路決定状況を確認し、各卒業研究セミナー担当教員は、就職支援として就業意識の動機付けや就職活動に伴う悩みなど個別相談にあたっている。

【課題・改善策】 学生生活が2年間と短いので、キャリア支援センターと両科においてタイムリーな学生支援や情報提供を双方向から出来るよう、連携と情報共有を今まで以上に図り、多様化している学生のキャリア形成のための基礎力養成と就職支援の体系的なプログラムを確立していく必要がある。

(3) 就職支援室、就職資料室等の現状を示し、学生にどのように就職情報等を提供しているかを記述して下さい。

【現状・評価】 就職資料室、面談室、求人用・編入学用掲示板を設置している。就職資料室には、従来の求人票ファイル、卒業生の内定届ファイル、企業・園・施設・公務別ファイル、編入学資料ファイル、就職対策冊子、パソコン(2台)を配置している。就職内

定者が作成した卒業生の内定届ファイルは、筆記試験の種別、面接で聞かれた内容、後輩へのアドバイスが記載されており、貴重な情報源として活用されている。面談室は2室あり、全員を対象とした個別面談、学生の求めに応じた個別相談や面接練習および履歴書の添削指導等を実施している。求人用掲示板には、学校受付の求人票、企業セミナー情報、合同会社説明会情報等を掲示している。編入学用掲示板には、学校受付の指定校推薦編入、一般編入の案内を掲示している。学内連絡網により個々の学生に求人情報、イベント情報、編入学に関する情報等をタイムリーに配信している。

【課題・改善策】 相談や情報収集をする学生の割合に対して、面談室、掲示板、就職資料室のスペースが手狭であり、居場所としては利用しにくい環境である。スペース整備はもとより、個別の対応が重要であることから、早期からの相談や日頃からの声掛けなどを通して、訪れやすい場所として確立する必要がある。

(4) 過去3ヶ年（平成20年度～22年度）の就職状況について、就職率及び就職先を学長等、学科長等はどのように受け止めているかを記述して下さい。

#### 【現状・評価】

#### 短期大学全体

連続7年間、幼児教育科は100%の就職率を維持することができた。専門職希望者も全員専門職に就けたということは、学科の特質を充分活かしていると考えられる。一般企業を主たる就職先とする国際コミュニケーション科においても不況の影響で出足は悪かったものの最後に来て成績を伸ばし、昨年、一昨年を上回る95.9%まで漕ぎ着けることができた。これはひとえに先輩卒業生たちがこれまでの努力によって培ってきた信頼のお陰であると同時に、教職員の並々ならぬ努力の成果でもある。「社会人基礎力」の低下が言われて久しいが、コミュニケーション能力と相手の立場に気づく能力が大切であるとする。と同時に、基礎的学力の涵養も欠かせない。あらゆる面での能力を高め自信をつけるために必要な基礎的学力をつけるために、国際コミュニケーション科では、次年度は専任教員全員で基礎的学力の実力養成に当たることにした。成果を期待する。

本学の目標にもある「他者に尽くす自分」を忘れず、いかなる職場においても本学の建学の精神に支えられた言動を貫いていって欲しいと願う。

#### 幼児教育科

過去7年間の就職率は100%である。平成22年度も早期に100%に達した。地域の幼稚園、保育園、福祉施設から期待されている証でもあるが、卒業生が現職に果たしてきた功績や評価であると受け止めている。その期待を今後も維持していくには、「卒業生現職幼稚園教諭との懇談会」などで卒業生から本学への要望、また現職の状況と課題について情報交換したい。

#### 国際コミュニケーション科

国際コミュニケーション科の場合、進路として進学を選択する学生が例年1割10人前後おり、卒業者数に対する就職希望者は9割程度である。この就職希望者に対して就職が決定した学生数の割合を就職率としている。過去3年間の就職率は、平成20年度90.4%、

## 領域 V

平成 21 年度 91.2%、平成 22 年度 95.9%であった。例年 90%を超える数値を維持しているが、平成 21、22 年度は非常に厳し雇用環境が続く、キャリア支援センター、学科をあげて懸命の支援の結果何とか例年並みの実績までこぎつけた。

就職先はほとんどが長野県内で、地元で勤務する形になる。地域への人材の供給と貢献は十分行われていると考えるが、就職状況の悪化と雇用形態の様変わりとともに就職先と形態は実にさまざま、かつ一部の学生には就職活動においても無気力、無目的が広がり、就職後の離職率も高まるなど就労の質的变化は深刻であり、キャリア教育と就活支援の方法の重要性がますます高まっている。そこで以下のような改善を平成 18 年度から試み、次第に一定の効果をあげていると考える。

- ① 1 年次秋学期の必修科目「キャリア・デザイン」とキャリア支援センター主催進路ガイダンスの統合や連携により、効率的な進路支援の態勢を作る。自己分析やエントリーシート・履歴書の講座や添削には特に力を入れ、就労意識のレベルアップにも努めている。
- ② 初年次 10 月に、進路支援セミナーを市内のホテルで開催する。内容は就活直前の総括的講習会、卒業生などの激励講話、地元企業の清泉専用合同企業説明会などである。当初は 1 年次終了の 2 月であったが前倒しした。
- ③ 就職活動の意識や進学意思の確認を早めるために、キャリア支援センターのスタッフ中心に春休み中に全学生に面談を実施し、各学生の状況を以前よりも早く把握し、効率的な進路指導に供する。平成 22 年度はさらに 1 年次夏休みにも、進路意識の確認を主目的にほぼ全員の面談を実施した。

(5) 過去 3 ヶ年（平成 20 年度～22 年度）の進学（4 年制大学、専門学校等）及び海外留学の実績について、その支援はどのような方法、体制で行ったかを記述して下さい。

【現状・評価】 4 年制大学 3 年次編入学および専門学校などへの進学希望者のために、編入学関係資料は、キャリア支援センター担当係が掲示・整理している。両科の編入学担当教員は、編入学希望者へ定期的、継続的な説明会や個別指導を行い、編入学試験に向けた論文指導も行っている。また、併設大学（清泉女学院大学）や姉妹校（清泉女子大学）、その他の編入学指定校への推薦編入を希望する学生には、学科会の審査を経て学長推薦の手続きを行っている。海外留学希望者はますます減っており、平成 20～21 年はいなかったが、平成 22 年度は 3 名が希望した。国際交流委員会の担当教員が対応している。過去 3 年間の主な進学先は別表の通りである。

【課題・改善策】 同一キャンパスに併設大学があり、姉妹校である清泉女子大学への編入学希望者が減る傾向にある。平成 20 年度からはキャリア支援センター発足に従い、進路のひとつとして編入希望も同センターで対応しているが、編入を希望する専攻学科などもかつてより多様化しており、最終的に個別対応をする各学科の進学編入担当者の業務はより専門的にならざるをえず、キャリア支援センターの職員と連携を図りながら、今後も内容を一層充実していく必要がある。

## 平成 20 年度～平成 22 年度の編入・進学状況

| 進学先          | 平成 20 年度 | 平成 21 年度 | 平成 22 年度 |
|--------------|----------|----------|----------|
| 清泉女学院大学      | 6        | 8        | 4        |
| 清泉女子大学       | 2        | 1        | 3        |
| 信州大学         | 1        |          |          |
| 愛知新城大谷大学     | 1        |          |          |
| 植草学園大学       |          | 1        |          |
| 上田女子短期大学     |          |          | 1        |
| 都留文科大学       |          |          | 1        |
| 南山大学         | 1        |          |          |
| 新潟医療福祉大学     | 1        |          |          |
| 日本福祉大学       | 1        |          |          |
| 海外語学留学       |          |          | 1        |
| 4 年制大学通信教育課程 |          | 2        |          |
| その他専門学校      |          | 1        | 1        |
| 計            | 14       | 13       | 11       |

## 【多様な学生に対する支援について】

(1) 過去 3 ヶ年（平成 20 年度～22 年度）の留学生・社会人・帰国子女・障害者・長期履修学生・科目等履修生の受け入れ状況を示し、その学習支援、生活支援はそれぞれどのような方法、体制で行っているかを記述して下さい。なお、学生数はいずれの年度も 5 月 1 日時点とします。

【現状・評価】 過去 3 年間で社会人入試により入学した社会人は、幼児教育科で 2 名、国際コミュニケーション科で 1 名、合計 3 名である。また、入学前に短大・大学などで学修し単位を取得している社会人学生に対して、単位登録相談を全体のオリエンテーションとは別に個別に対応しており、主に共通教育などの既修得単位の読み替えや学生生活全般について相談に応じている。また、修学上の悩みや課題等については、主にクラス担任およびセミナー担当者が相談に当たっている。

帰国子女入学者は、過去 3 年間いなかった。科目等履修生は、表に示すとおり、過去 3 年間において幼児教育科で 2 名を受け入れている。

本学では長期履修生制度を導入しているが、幼児教育科は実施せず、国際コミュニケーション科でもこの制度を利用した入学者はいない。障害をもつ者も過去 3 年間入学はなく、留学生入試は実施していない。

平成 22 年度、国際コミュニケーション科では、海外で誕生し、結婚により日本で暮らしているという経験を持つ入学生が 1 名いたが、社会人試験制度による入学者で、日本語能力や一般的な学生生活について特別な支援を必要とはしない学生である。

## 多様な学生の受け入れ状況（平成 20 年度～22 年度）

| 種 別           | 20 年度 |              | 21 年度 |              | 22 年度 |              | 計 |
|---------------|-------|--------------|-------|--------------|-------|--------------|---|
|               | 幼児教育科 | 国際コミュニケーション科 | 幼児教育科 | 国際コミュニケーション科 | 幼児教育科 | 国際コミュニケーション科 |   |
| 社会人<br>(人)    | 0     | 0            | 1     | 0            | 1     | 1            | 3 |
| 帰国子女<br>(人)   | 0     | 0            | 0     | 0            | 0     | 0            | 0 |
| 科目等履修生<br>(人) | 1     | 0            | 1     | 0            | 0     | 0            | 2 |

## 領域V

※社会人入試の応募条件

- ①大学入学資格があり、学習意欲のある者（注：大学入学資格のある者とは、高等学校卒業、または、それと同等の学力があると認められる者）。
- ②入学年度の4月1日現在、満23歳以上の女子、または2年以上の職業経験をもつ満20歳以上の女子。

※帰国子女入試の応募条件

- ①日本国籍をもつ、18歳以上の女子に限る。
- ②保護者の海外在留という事情、または本人の意志により外国の教育を受けた者。  
[基礎資格として、以下の(a),(b)いずれかに該当する者]  
(a) 外国において、学校教育における12年の課程（日本における通常の課程による学校教育の期間を含む）を過去2年前までに卒業（修了）した者及び卒業（修了）見込みの者で、外国において最終の学年を含めて2年以上継続して学校教育を受けている者、ただし、外国に設置された学校であっても日本の学校教育法に準拠した教育を行っている学校に在学した者については、その期間を外国において学校教育を受けた者とはみなさない。  
(b) 国際大学入学資格を有する者、または当該国における大学入学資格を有する者で、原則として上記（a）に準ずる者

### 【特記事項について】

（1）この《V学生支援》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば成績不良者への支援、長期欠席者への援助、学生に対する表彰制度等、学生支援について努力していることがあれば記述して下さい。

#### （1）夢チャレンジ奨学金制度

平成22年度は2件夢チャレンジ奨学金が給付された。

#### 学生に対する表彰制度

学生に対する表彰制度は平成18年度に制定された「表彰に関する規程」により学生表彰される。平成21年度は、信濃毎日新聞「親子のときめき童話」2009年年間を受賞した幼児教育科の学生が受賞の内容・価値並びに本学の知名度を高めることに貢献した意義を鑑みて、学生表彰された。学生表彰第2号である。

#### （2）ビッグシスター制度

国際コミュニケーション科では、1年生の入学当初（4月～5月）に学生生活にスムーズに適應できるようにビッグシスターと呼ばれる2年生有志が1年生のお世話をしている。平成22年度は、学内の案内、履修登録の助言、フレッシュマンセミナーの補助など従来行ってきたものを一層効果的に行ってきたが、20年度から始めたオリエンテーション・キャンプでの特別講師の助手という重要な役目はしっかり引き継がれ、新入生の短大生活への適應を大いに助けた。年間を通して、スポーツフェスティバルやオープンキャンパスなどの行事などでも実質的に学年間の橋渡しをし、リーダーシップを発揮する場面が数多く見られた。新入生への貢献のみならず、ビッグシスター自身の成長という観点は非常に大きくなっており、最大級に評価できる。なお、ビッグシスターは、自ら希望している有志であるが、春休みの間に2泊3日の合宿を行い、ワークショップ等を通じて訓練される。

（2）特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特別の事由や事情はありません。

## 領域VI 研究

### 【教員の研究活動全般について】

(1) 次の「専任教員の研究実績表」を例にして過去3ヵ年（平成20年度～22年度）の専任教員の研究状況を記載し、その成果について記述して下さい。

### 【現状・評価】

平成20年度～22年度 専任教員の研究業績表

| 学科等名                     | 氏名       | 職名  | 研究業績 |     |            |     | 国際的<br>活動の有無 | 社会的<br>活動の有無 |
|--------------------------|----------|-----|------|-----|------------|-----|--------------|--------------|
|                          |          |     | 著作数  | 論文数 | 学会等<br>発表数 | その他 |              |              |
| 幼児<br>教育<br>科            | 高橋 正道    | 教授  | 3    | 0   | 0          | 2   | 有            | 有            |
|                          | 小林 房子    | 教授  | 0    | 0   | 0          | 6   | 有            | 有            |
|                          | 矢上 克己    | 教授  | 1    | 6   | 4          | 0   | 無            | 無            |
|                          | 小林 敏枝    | 教授  | 0    | 0   | 11         | 0   | 有            | 有            |
|                          | 西山 薫     | 教授  | 22   | 0   | 0          | 10  | 無            | 有            |
|                          | 丸山アヤ子    | 准教授 | 0    | 1   | 1          | 0   | 無            | 無            |
|                          | 安藤 健一    | 准教授 | 2    | 3   | 2          | 0   | 無            | 有            |
|                          | 田中 秀明    | 准教授 | 1    | 1   | 0          | 0   | 無            | 有            |
|                          | 碓井 幸子    | 講師  | 2    | 2   | 1          | 0   | 無            | 有            |
| 国際コ<br>ミュニ<br>ケーシ<br>ョン科 | 桜井 剛     | 講師  | 0    | 3   | 5          | 10  | 無            | 有            |
|                          | 窪寺 洋子    | 教授  | 0    | 1   | 5          | 6   | 無            | 有            |
|                          | 村田 信行    | 教授  | 0    | 0   | 0          | 2   | 無            | 無            |
|                          | 武田るい子    | 准教授 | 1    | 4   | 2          | 2   | 有            | 有            |
|                          | 長田 尚子    | 准教授 | 0    | 4   | 3          | 0   | 無            | 有            |
|                          | 中村 洋一    | 准教授 | 2    | 2   | 3          | 1   | 無            | 無            |
|                          | トマス ジョエル | 講師  | 0    | 2   | 4          | 1   | 無            | 無            |
|                          | 藪田由己子    | 講師  | 0    | 5   | 4          | 1   | 無            | 無            |
|                          | 藤井 静子    | 講師  | 0    | 0   | 0          | 0   | 無            | 無            |

【現状・評価】 高等教育機関である短期大学にあっては、教育の質を高めるためにも教員の絶えざる研究は欠かせない。忙しくても怠りなく研究を続けている教員もいれば、役職の雑務に追われて研究がおざなりになっている教員もいる。また、教育よりも研究活動を優先してしまう教員もいる。教員の価値観によって人それぞれである。

【課題・改善策】 研究も教育もどちらも大切であるから、健康に留意しながら研究と教育の両者をバランスよく行って欲しい。忙しすぎる教員には申し訳ないが、各教員への仕事の分担、助手の活用、事務職との連携等を工夫し、チームで働く体制を強化する必要がある。

(2) 教員個人の研究活動の状況を公表していれば、その取組みの概要を記述し、公開している印刷物等を訪問調査の際にご準備下さい。

【現状・評価】 清泉女学院大学・清泉女学院短期大学の「教育文化研究所報」巻末に、本学専任教員の研究・活動一覧という頁を設け、その年度に著わした業績、行った社会的活動などを掲載している。出張講座一覧表を配付し、地域社会への貢献に役立てている。

(3) 過去3ヶ年(平成20年度～22年度)の科学研究費補助金の申請・採択等、外部からの研究資金の調達状況(件数)を一覧表にして下さい。

該当事項なし。

(4) 学科等ごとのグループ研究や共同研究、短期大学もしくは学科等の教育に係る研究の状況について記述して下さい。

【現状と評価】 共同研究に関しては、清泉女学院教育文化研究所が掌握して来ていたが、その見直しをするために、平成22年度の採択等に関しては、一時、学科会議がその任を担うこととなった。平成22年度に具体的な見直しを完了し、23年度から再び、清泉女学院教育文化研究所が共同研究の仕事を掌握することとなった。

共同研究の研究成果は、何らかの形で公表することが義務付けられており、主に「清泉女学院短期大学研究紀要」に掲載される。毎年刊行される教育文化センター報にも採択されたそれぞれの共同研究の概略が記載され学内に周知される。平成20～22年度には、以下のような共同研究が行われた。

幼児教育科では学科教員全員で平成20年度に「期待される保育者の資質と養成・研修プログラムの開発研究(その2)」として、前年度よりで引き続いて取り組みが行われ成果を得た。平成21年度では「今後期待される保育者の資質・能力と初年次教育プログラムの開発研究(その1)」をテーマとして実施し、平成22年度もそれを継続した。

国際コミュニケーション科では、平成20年度に「学生のコミュニケーション力養成カリキュラムとしての学外活動の効果的運用の研究—プロジェクト型学習の開発、地域団体との連携、学内外行事への企画参加などを通して—」を学科スタッフ全員で取り組んだ。さらに、平成21年度は「学生のコミュニケーション力養成カリキュラムとしての学外活動の効果的運用の研究—プロジェクト型学習の開発、地域団体との連携、学内外行事への企画参加などを通して—(その2)」をテーマとして実施し、平成22年度もそれを継続した。

国際コミュニケーションの英語担当の教員が中心となり、平成21年度の共同研究として「英語が使える大学生育成のための指導法の探求—個別・少人数教育による発信重視の指導とeラーニングの活用—」をテーマに掲げ、研究に取り組み、平成22年度もそれを継続した。

また、平成21年度においては、幼児教育科の田中秀明准教授を中心とする共同研究が「幼稚園における『気になる子ども』の行動特徴と保育者の対応に関する実証的研究—『気になる子ども』の実態と支援の課題—」をテーマとして取り組まれ、さらに、国際コミュニケーション科の武田るい子准教授を中心とする共同研究が「グローバル教育の教材研究：テーマ間の関連性から実践関心を高めるために」をテーマとして実施された。

平成22年度は、上記学科の共同研究の継続と併せて、国際コミュニケーション科では、村田信行教授・武田るい子准教授を中心として、「キャリア教育」をテーマとした共同研究が実施された。

それぞれの学科教育に関わる共同研究が精力的に展開される一方、個別の共同研究も実施され、多忙な中で積極的な研究活動が実施され、その成果がそれぞれの学科教育に還元されよりよい効果をあげている。

## 【研究のための条件について】

(1) 研究費（研究旅費を含む）についての支給規程等（年間の支出限度額が記載されているもの）を整備していれば訪問調査時に拝見します。なお規程等を整備していない場合は、過去3ヶ年（平成20年度～22年度）の決算書から研究に係る経費を項目（研究費、研究旅費、研究に係る施設、機器・備品等の整備費、研究に係る図書費等）ごとに抽出し一覧表にして参考資料として準備して下さい。

【現状・評価】 個人研究費・共同研究費・研究旅費・教育研究事業の支出で、専任教員の研究を助成し、教員の資質向上を図っている。専任教員に対して、個人研究費は一律年間40万円、研究旅費は各教員に一律年間10万円を支給している。教育研究事業（各学科40万円）は各学科の事業予算計画に基づく支出を認めている。支出対象の経費、支出手続き、図書・備品・物品の管理などの取扱は、「研究費規程」、「研究旅費規程」、「教育研究事業実施内規」、「個人研究費使用手引き」による。

(2) 教員の研究成果を発表する機会（学内発表、研究紀要・論文集の発行等）の確保について、その概要を説明して下さい。なお過去3ヶ年（平成20年度～22年度）の研究紀要・論文集を訪問調査の際に拝見いたしますのでご準備下さい。

【現状・評価】 研究成果を発表する機会としては「清泉女学院短期大学研究紀要」がある。平成20年度に刊行した第27号には論文6編で総ページ数76である。平成21年度に刊行した第28号には論文4編、研究ノート1編で総ページ数は64であった。平成22年度に刊行した第29号には論文4編で総ページ数61であった。より活発な研究活動を可能とする条件整備が大きな課題である。

(3) 教員の研究に係る機器、備品、図書等の整備状況について、平成22年度の決算よりその支出状況を記述して下さい。また訪問調査の際の校舎等案内時に教員の研究に係る機器、備品、図書等の状況を説明して下さい。

【現状・評価】 教員の研究に係る機器、備品、図書等の整備状況については、平成22年度の決算により支出状況を把握すると、個人研究費及び共同研究費支出総額のうち機器備品1,568,438円、図書206,793円となり、それぞれ24.5%、3.2%を占めている。なお、主な機器備品はデスクトップパソコン、ノートパソコン等の整備である。

(4) 教員の教員室、研究室または研修室、実験室等の状況を記述して下さい。なお訪問調査の際に研究室等をご案内願います。

【現状・評価】 各教員は、全員個室の研究室をもち研究活動に役立てている。平成16年度中にエアコンの設置を完了した。パソコンの配備、LANの接続環境の整備も完了している。

(5) 教員の研修日等、研究時間の確保の状況について記述して下さい。

【現状・評価】 「教員勤務規程」第4条に、「学長の承認を得て、本学以外の職務に従事できる日数は、原則として1週1日とする。」という規定を設けている。またこの1日



## 領域VI

は、半日に分割して設定することも運用上認めている。年度当初に各専任教員からこの希望日を聴取し、「研究日」として位置づけている。研究日は、自身の教育研究や学外での研修の時間に充てることができ、大学に出勤する義務はない。また、規程にしたがい他大学等の非常勤講師として本学以外の職務に従事することもできる。

## 領域VII 社会的活動

【社会的活動（国際的活動は別項で記述）への取組みについて】

（１）社会的活動への取組みについて、その理念や方針等、教育・研究における位置づけについて、短期大学ではどのように考え、また今後どのように取組む予定かを記述して下さい。

【現状・評価】

本学の教育目標の柱の一つとして「ボランティアやその他の奉仕活動の実践」「地域活動や福祉活動への参画と協力」の内容があげられている。また学科の教育目標、学生支援の基本方針ともかかわりが大きく、幼児教育科においては「社会福祉や子育て支援に関するボランティア活動など地域社会とのつながりを支援する」とある。国際コミュニケーション科では「学修をキャンパス内に限ることなく広く地域活動・ボランティア活動・海外研修などに求める」ことを明記している。本学の地域活動への取り組みはあらゆる場面を通じて学生の地域活動を支援し、地域をキャンパスとして学ぶ方向性を強化したいと考えている。

学生の地域活動を支え、学生・地域団体との窓口となっているのが「清泉女学院地域連携センター」である。「地域社会との連携協力の推進、地域社会の活性化と発展に貢献すること」を目的に活動している地域連携センターも設立から３年が経過した。組織として昨年度から変更になった点は、カトリックオフィスが独立したことである。今年度の地域連携センター委員会は「生涯学習」「国際交流」「ボランティア」「高大連携」の各運営委員長とセンター長という体制で運営した。

地域団体との連携強化、継続事業として連携協定締結団体との連絡調整、信州産学官連携に関する事業があり、新規事業として特別支援学校との提携校としての活動、須坂市文化芸術ビジョン策定関連など、学外団体との連携にかかわる事業等多岐にわたり実施した。これら地域団体との連携は学内の事業につなげることが目的である。生涯学習、ボランティア、国際交流、高大連携の各運営委員会との連携、また学科の教育との連動を促進するために、情報提供、プログラム提案など具体的な方策を推進した。今年度はその基礎を築く方向に１歩踏み出したといえよう。次年度につながる事業として、地域活性化プログラム作成、助成金へのチャレンジ、他大学との連携プロジェクトの可能性をさぐるなど、学生と共に展開する地域活動への可能性について検討した。特に各学科の初年次プログラムなど人材育成プログラムと地域活動の連動はますます重要になってくると思われる。

【課題・改善策】

具体的なプログラムの提案、学科や関連部署との連携を密にし、教育活動との連動をさらに強めたい。そのためには、学科と地域連携センター双方の理解を深め、関係性を構築することが必要となる。

そのためにも、学外団体との連携の拡大・強化及び、学生のニーズに適した活動としてプログラム化することが必要となるであろう。今後の課題は、地域の課題を把握し地域と大学のニーズをマッチングさせ活動の協働基盤をつくるなど、活動のコーディネート事業

## 領域Ⅶ

の充実である。そのための活動拠点と人的配置の検討などが今後の課題である。大学の使命である、研究・教育・地域貢献と本学の建学の精神に基づく活動の充実を更に目指す必要がある。

(2) 社会人受け入れの状況について、生涯学習の観点から短期大学では社会人の受け入れを今後どのように考えているかを記述してください。

【現状と評価】 社会人受け入れの方策として、社会人入試、科目等履修生、生涯学習関連講座などを通じた学習支援を行っている。生涯学習活動は、地域連携センターに組織されている生涯学習委員会（教員・職員で構成）が担当し、公開講座・授業開放講座・出張講座を企画して、案内パンフレットや地域のマスコミを通じて広報活動を行っている。より多くの社会人に活用していただくために、交通の便のよい長野市生涯学習センターや長野駅ビルの教室での開講を継続している。その結果、本年度学内会場講座の受講生がなくなるという課題も浮上してきた。地域への貢献と同時に、本学に足を運んでいただくことで、本学の認知も向上することから次年度は学内会場で講座開講に向けた努力が必要である。一方、長野県カルチャーセンターと提携し、本学の特色である心理学に続き国際文化シリーズ公開講座を開講し、2講座合わせた延べ受講者数 982 名であった。公開講座全体では、平成 21 年より 6 講座増え、受講者数は 230 人増加した。これは、単発で集客力のある企画[クリスマスキャロルを歌おう、映画上映会]によるものである。

【課題・改善策】 講義形式の公開・開放講座受講者数に増加傾向は見られないことから、次年度はシリーズものの内容刷新や社会人が受けたい講座について意向調査を行う必要があると考えている。社会人の学習ニーズ把握にまずは、卒業生の生涯学習ニーズ調査から着手するのが現実的改善策と考えている。

(3) 過去 3 ヶ年（平成 20 年度～22 年度）に短期大学が行った地域社会に向けた公開講座、生涯学習授業、正規授業の開放等の実施状況を記述して下さい。

### 【現状・評価】

生涯学習センターは、大学と短期大学が一体となって運営しているため、データは合同のものである。

|          | 公開講座 |       | 授業開放講座 |      | 出張講座 |
|----------|------|-------|--------|------|------|
|          | 講座数  | 受講者数  | 講座数    | 受講者数 | 実施件数 |
| 平成 20 年度 | 44   | 841   | 79     | 202  | 32   |
| 平成 21 年度 | 37   | 1,397 | 66     | 187  | 40   |
| 平成 22 年度 | 43   | 1,627 | 56     | 153  | 45   |

今年度の公開講座の受講生数は増加し、一定の成果をあげることができた。これは、21 年度に続き長野県カルチャーセンターとの提携による心理学シリーズ講座に加え、国際文化シリーズを開講しカルチャーセンター会場にて開催したためである。長野県カルチャーセンターと提携することによって効果的な広報活動が可能になり、情報が広域化した結果、長野市内に留まらず長野県全域から、幅広い世代の受講者を獲得することができた。また他の講座についても、学内だけでなく市街地の会場で開催したことによって、社会人が利

用しやすい環境設定となり、幅広い層の受講生が集まったものと思われる。来年度の提携講座では心理学講座第三弾と「世界遺産」シリーズ第二弾を内容刷新して開講する。

授業開放講座は、正規の授業を一般に開放する講座であり、公開講座と同様、心理学と語学の分野が特に人気がある。また毎年楽しみにして受講される受講生も多く、継続して異なる分野の講座を受講してくださる方々も多いが、受講生数は減少傾向にある。

出張講座では、高等学校から、心理や保育など進路選択をする上で必要な講座として要請されるケースが多い一方、地域の公民館から高齢者向け講座として一般教養的な講座を依頼されることが多い。近年は高校出張講座が増加傾向にある。

各界の著名人を、年に一度講師として招聘する特別企画講演会（以下参照）は、テーマが異なっても毎年欠かさず参加する方も多い。継続して開催しているため、地域からの支持が定着してきたものと理解できる。

|          | 講師 演題                                    | 参加人数 |
|----------|------------------------------------------|------|
| 平成 20 年度 | 加賀乙彦 「現代人の生と死」                           | 400  |
| 平成 21 年度 | 林 望 「言葉の品格」                              | 335  |
| 平成 22 年度 | 月尾嘉男 「地球環境問題に挑戦する先住民族の叡智：<br>進歩史観より温故知新」 | 136  |

【課題・改善策】 今年度は、成人対象の連続した語学講座 4 講座と、資格取得のための講座 4 講座を開講したが、いずれも成立条件となる 8 名受講生に達せず開講できなかった。学生の就職支援的意味合いもあったが希望者は少なかったことからニーズ把握が不十分だった。これまでの生涯学習受講生とは異なる働く社会人をもターゲットとするためには、従来の広報ルート以外にもメディアを使った広報活動が必要と考えている。

（４）過去 3 ヶ年（平成 20 年度～22 年度）の短期大学と地域社会（自治体、商工業、教育機関、その他団体等）との交流、連携等の活動について記述して下さい。

#### 【現状・評価】

##### ① 自治体等との連携協定について

地域連携センター事業の重要な柱に、学外団体との協定等の締結事業がある。過去 3 年間では 3 つの団体と協定をむすんだ。

平成 21 年 3 月 24 日、「教育・文化・学術等の分野における研究の成果の交流、地域振興・教育充実、人材育成」を目的として、長野市との連携協定を締結した。平成 21 年 7 月 14 日には「NP0 法人夢空間松代のまちと心を育てる会」と協定を結んだ。また平成 22 年 2 月 3 日には「小川村」との連携協定を締結した。

長野市との連携事業実績は、前年度からの継続事業として「公立保育園におけるボランティア事業」（27 名）、長野市障がい者スポーツ大会運営支援（20 名）「インターンシップ事業」「公開講座」「放課後子どもプラン」などがあげられる。今年度の新規事業として「児童館体験学習」を実施した。幼児教育科 10 名が長野市の児童館で体験学習を実施した。

NP0 法人夢空間松代のまちと心を育てる会との連携事業は主に「観光・教育・まちづくり」の分野における資源・研究の成果等の交流・協力を図ること、そして地域の振興

## 領域Ⅶ

及び発展、教育研究の充実並びに人材の育成を目的としている。授業を通じたフィールドワークなども実施しており、それらの活動を基盤に展開した。松代との連携は継続して実施していることで、地域の受け入れの充実、学生の活動のレベルアップと実績も向上している。

小川村との連携は「子育て支援、保育・教育に関する事項」「さんさん市場の情報誌作成」「教育・文化の振興、学術研究に関する事項」「観光・地域活性化に関する事項」など地域づくりに関する事業における連携を目指した。小川村の自然・農業・食文化・人などを生かした地域づくりと本学の地域貢献・学生の教育・人材育成・学術研究の分野での連携として「小川村フィールドワーク」（地域研究）や情報誌作成事業事前調査や特産物や産地直送野菜などの販売などの事業を実施した。

今年度の学外団体との連携事業実績については下記の表を参照されたい。

＜連携協定締結団体との連携事業実績＞

| 連携団体                  | 調印年月日       | 平成 22 年度連携事業実績                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-----------------------|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| NPO 法人長野県障がい者スポーツ協会   | 平成 19 年 8 月 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・第 6 回長野車いすマラソン大会（18 名）</li> <li>・長野マラソン視覚障害者の部（15 名）</li> <li>・チャレンジドキッズクラブスポーツ体験（2 名）</li> <li>・長野市・長野地区障害者スポーツ大会（24 名）</li> </ul>                                                                                                                                                                          |
| 長野市                   | 平成 21 年 3 月 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・メンタルフレンド</li> <li>・教育臨床演習事業</li> <li>・学習チューター事業</li> <li>・思春期保健講座</li> <li>・市立長野高校との高大連携事業</li> <li>・国際交流イベントの連携事業</li> <li>・インターンシップ（市役所にて 4 名）</li> <li>・長野市障がい者スポーツ大会（20 名）</li> <li>・公立保育園におけるボランティア（7 園 27 名）</li> <li>・公開講座</li> <li>・公民館への出前講座</li> <li>・放課後子どもプラン</li> <li>・夜間講座（32 名受講）他</li> </ul> |
| NPO 法人夢空間松代のまちと心を育てる会 | 平成 22 年 7 月 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・松代民話紙芝居制作・公演（松代藩真田十万石祭、えびす祭にて公演：国際コミュニケーション科 1 年フィールドワーク）</li> <li>・松代藩真田十万石祭ボランティア</li> </ul>                                                                                                                                                                                                               |
| 小川村                   | 平成 22 年 3 月 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・小川村フィールドワーク</li> <li>・清泉祭：産地直送野菜・おやきの販売</li> <li>・さんさん市場他調査・研究</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                    |

### ② 「地域学習支援活動」プログラム

「地域学習支援活動」プログラムとは、本学教職員が主催または共催する形で、地域社会の活性化に資するため近隣の自治体活動やメセナ活動などと連携して、地域での学習活動を積極的に推進・支援するプログラムである。

平成 21 年度は、「真田幸弘（菊貫）の連句を読む」活動（真田菊貫の連句を読む会）、  
「受け手ボランティア養成」活動（NP0 法人ながのこどもの城いきいきプロジェクトチ  
ャイルドラインながの）、「海三昧ー石垣の海へー（障害児のスポーツプログラム支援）」  
（石垣の海を楽しむ会、長野ドルフィン障害児水泳クラブ）の 3 件が実施された。詳し  
くは、「地域連携センター報」を参照されたい。

なお、平成 21 年度から本プログラムは、生涯学習オフィスから地域連携センターの事  
業となり活動の募集・選定など実施したが、今年度は実際の活動支援はなかった。1 件  
申請があったが、学生支援の観点から見直しが必要である。次年度からはボランティア  
オフィス管轄の学生の活動支援事業として移行される予定である。

### ③ 県教委、市教委との連絡懇談会

毎年度、併設大学との共催で標記の会議を設定している。県教育委員会との連絡懇談  
会では、教員免許更新講習の実施、小学校における英語活動の教員研修への協力、特別  
支援学校における専門的見地からの支援などが討議された。長野市教育委員会との連絡  
懇談会は、昨年度より、長野市との包括協定に基づく総合的な検討へと移行し、その中  
で市立長野高校や長野市との連携事業について検討された。今年度は本学を会場として、  
11 月に開催した。今年度の活動実績の報告および新規事業の提案などがあり大変有意義  
であった。次年度は「男女共同参画啓発講座」開催の提案があり、本学として対応する  
こととした。

### ④ 幼児教育科での取り組み

保育者養成や各種の実習のあり方について、北信地区私立幼稚園協会、長野市私立保  
育園連盟、長野県保育士養成協議会、児童福祉施設連盟などと検討や交流を重ねている。  
また、長野県保育連盟の保育研究大会の助言者の派遣、長野県私立幼稚園協会との「信  
州幼児教育研究会」に対する連携、県私立幼稚園協会の理事への就任なども継続して行  
っている。また、平成 20 年度から実施している青木村教育委員会主催の川遊びキャンプ  
等の「地域はつらつネットワーク」への参加、野沢温泉村教育委員会主催の通学合宿「の  
ざわきっず通学合宿」への企画立案やボランティア参加も継続して行われ、大きな成果  
をあげた。さらに、障害児施設との連携活動も充実してきており、障害児とのかかわり、  
発育発達支援、遊びなどの分野で成果をあげている。

### ⑤ 国際コミュニケーション科での取り組み

開始から 11 年になる「インターンシップ」では、地域の多種多様な企業・団体に受入  
れをお願いし連携を深めている。国際的な活動として、海外大学、特に提携 17 年になる  
韓国姉妹校のハニャン女子大学の学生の来学に際しては、地域社会にホームステイや交  
流活動を依頼するなど交流実績をあげている。

また「フィールドワーク」では毎年地域活動の成果があがっている。20 年度以来松代  
地区のイベント開催や民話紙芝居制作などに協力して NP0 法人夢空間松代のまちと心を  
育てる会と、English Town は長野市社会福祉協議会が運営する児童センター（三輪、大  
豆島）で、そして地域の伝統文化（農業や食文化）の継承や地域おこしのために小川村  
および栄村と連携して地域の人々と農作業や活動を行った。

「卒業研究セミナー」でも、あるセミナーは地域の出版社と連携してオープンキャン  
パスで来学する高校生へのお土産グッズとして手鏡を開発し、多くの高校生の関心と呼

んだ。

【学生の社会的活動について】

（１）過去３ヶ年（平成 20 年度～22 年度）の学生による地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等社会的活動の状況を記述して下さい。

【現状・評価】 平成 20 年度 4 月に「地域連携センター」が設立され、地域との連携も進む中で地域活動、ボランティア活動は促進されているといえる。特にボランティアオフィスが担当する事業については、短大全体の地域連携活動の取り組みの中に位置づけられることにより、地域のニーズ・活動に関する情報収集やネットワーキングが強化された。また、地域連携センターの各部門や学科との連携も強化されてきた。特に学科の教育目標や初年次プログラムなどの取り組みと地域活動は連動しており、人材育成における地域活動の意義は大きいといえる。

ボランティアオフィスには、今年度は 77 件のボランティア依頼があった。地域との連携の窓口となっており、本学の HP を見て地域活動が活発な本学にということで、活動説明に訪れる関係者も多い。このように、ボランティアオフィスは、学外の団体からのボランティア依頼受付の窓口業務及び学生への情報提供・募集など、学生を地域活動につなげる役割を担っている。今年度も昨年に引き続き「学生のボランティア活動の促進」を目標に、いくつかの事業を実施した。

- ① 「ボランティアの手引き」配布・説明・・・学科全体のオリエンテーションにおいて「地域連携説明」の時間を確保し、新入生対象に活動の意義と手続きの方法等について説明した。
- ② 「地域活動のすすめ」講座開催・・・キャンパスアワーを利用して、地域団体の方からボランティア活動の魅力ややりがいについて講演(JICA, 長野県障がい者スポーツ協会)
- ③ 地域連携センターニュースの中でボランティア活動報告を行った（年 2 回発行）
- ④ 学生の活動支援・・・メール配信登録者のボランティア保険加入、活動にかかる交通費支援（メール配信登録者数の推移：H20 年度 140 名、H21 年度 217 名、H22 年度 245 名（短大のみ））
- ⑤ 学生のボランティア活動に対する意識調査実施・・・現在のシステムの検討および学生のニーズの把握を目的として実施。

今年度のボランティア活動状況を下記に示す。

ボランティアオフィスに依頼のあった活動分野別の内訳と参加学生数は、表に示すとおりである。過去 3 ヶ年のボランティア依頼件数は 92、79、77 件であり、ほぼ毎年継続の活動依頼も多い。活動参加者数は全体としては減少傾向であるが、短期大学としては、373 名から 357 名と年度による変動の範囲であった。

過去3年間のボランティア参加人数

(人)

| 年度     | 障害者スポーツ関係 | 保育・子ども関係(障害児関係も含む) | 国際交流関係(通訳、外国籍児童支援など) | 障害者施設関係 | イベント関係    | その他      | 合計          |
|--------|-----------|--------------------|----------------------|---------|-----------|----------|-------------|
| 平成20年度 | 73 (62)   | 167 (142)          | 31 (28)              | 14 (13) | 34 (25)   | 40 (15)  | 359 (285)   |
| 平成21年度 | 78 (63)   | 275 (183)          | 7 (6)                | 13 (7)  | 92 (68)   | 93 (46)  | 558 (373)   |
| 平成22年度 | 78 (70)   | 167 (147)          | 0                    | 18 (15) | 137(103)  | 25 (23)  | 425 (358)   |
| 合計     | 229 (195) | 609 (472)          | 38 (34)              | 45 (35) | 263 (196) | 158 (84) | 1342 (1016) |

(ボランティアオフィスは大学・短大共通部署となるため、表は大学・短大の合計数で示してある。但し( )内は短大生の数字である)

学生のボランティア参加人数を分野別に見ると、「保育・子ども関係」のボランティアが一番多い。特に幼児教育科の学生の参加が多く、幼児教育者を目指す学生の意欲的な取り組みと推察できる。幼児教育・国際コミュニケーション科共に多かったのが『イベントボランティア』である。次いで「障害者スポーツ関係」が多く、これは連携協力協定を結んだNPO法人長野県障がい者スポーツ協会との連携によるものが大きい。単発の活動も多いが継続して関わる活動もいくつか見られた。例えば、『ニコキッズスポーツクラブ』『児童クラブ』『キッズスキー教室』『障害児施設』などがそれに該当し、学生にとって大変有意義な機会となった。

学生の活動支援として、「ボランティア情報メール配信」「ボランティア保険」「交通費支援」などのサービスを行っている。学外からのボランティア依頼をメール配信するサービスに登録して学生数は、H20年207名、H21年321名、H22年331名であった。登録者数の増加は、活動に関心のある学生の増加を意味している。しかし、実際に活動した学生の実数は登録者の60%弱であり、約40%の学生は活動に参加しなかった。今年度末に実施したアンケート結果から、その原因と解決方策を検討していきたい。

また、昨年に引き続き『活動後報告書』の提出を実施し、ファイルに取り纏めて閲覧可能としている。報告書の内容から、学生にとっての活動の満足度および感想をまとめたものを下記に示す。

- ① 満足度はほぼ全員「満足」の回答であった。「後輩・友達に薦めるか」についてもぜひ薦めたいと回答した者が多かった。
- ② 感想の紹介
  - ・「子どもが初めての活動に挑戦する場面に出会えて学ぶことが多かった」「初めてスキーが滑れた子どもの笑顔が最高であった」(キッズスキー教室)
  - ・「小学生と遊ぶ体験は貴重。幼児との違いも見ることができる」「小学生への先生の指導など、幼稚園や保育園との違いなど学べた」「小学生の行動が予測できずとまどった時もあったが、子どもと一緒にたくさん自然体験ができ有意義であった」「幼児教育や教職コースの学生におすすめ」(児童クラブ)
  - ・「選手も疲れきっているのに、ありがとう、かぜひかないでね・・・などいつも周囲の人に感謝の気持ちを忘れず精いっぱい頑張っている姿に感動した」「障害の理解を深めたいと思った」(障害者スポーツ)



## 領域Ⅶ

上記内容は報告書の一部であり、この他にも様々な感想があった。

活動の種類にかかわらず、参加した学生は、様々な人々とかわり、目標に向かって協力して働き、やり遂げた時の達成感を共有する体験となっている。社会人として大切な「人とのかわり、思いやりの気持ち、伝え方」などを学ぶと同時に、専門分野の学習意欲向上にもつながっている。

年度末には、学生にとって利用しやすいオフィスを目標として、「学生のボランティアに対する意識調査」を実施した。結果は次年度に反映させたい。

### 【課題・改善策】

- ① 学生のニーズと地域から依頼された活動のマッチングを行う。つまり学生の望んでいる活動をさがし地域につなげていく事業の充実を目指す。活動内容・時間的な条件など、学生にマッチする活動を紹介することができれば、さらに活動は促進される。つまり相談事業が展開できる人的・物的環境の整備。
- ② ボランティアオフィスの在り方の検討。学生のボランティアに対する意識調査を今年度実施したので、学生の声を反映させて学生が利用しやすいオフィスになるよう努力したい。特に学生や地域の方々が満足するハード・ソフト両面の充実を目指す。

(2) 短期大学では学生の地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等についてどのように考え、どのように評価しているか記述して下さい。

【現状・評価】 本学においては、学外活動を評価するシステムをとっている。H22 年度より科目名が変更となった。今年度から共通教育科目「学外活動認定科目」の中に「海外研修 A」「海外研修 B」「国際交流活動」「ボランティア活動」として位置づけられている。

「ボランティア活動」は実習 1 単位として認定している。「単位認定願とレポート」の提出が必要であり、ボランティア運営委員会が担当している。そのほか海外研修・国際交流関係の活動は、国際交流運営委員会が担当している。「国際交流活動」は漢陽女子大学姉妹校交流受け入れに関するボランティアによる単位認定である。認定の状況を下記に示す。

「学外活動認定科目」単位認定者数(昨年度科目名)

| 年度       | ボランティア活動<br>(ボランティア活動 A) | 国際交流活動<br>(ボランティア活動 B) |
|----------|--------------------------|------------------------|
| 平成 20 年度 | 13                       | 3                      |
| 平成 21 年度 | 2                        | 3                      |
| 平成 22 年度 | 2                        | 0                      |
| 合計       | 17                       | 6                      |

ボランティア活動の単位化に関心のある学生および単位認定の条件を満たしている学生は多いが、実際に認定願いを提出する学生は少ない。今後個人の活動記録が残るようなシステムの導入や学生への周知方法など今後検討していきたい。

ボランティア活動は単位を目的としているわけではないが、本学としては積極的に学生の活動を評価する姿勢を進めたいと考えている。

**【国際交流・協力への取組みについて】**

(1) 過去3ヶ年(平成20年度～22年度)の学生の海外教育機関等への派遣(留学〈長期・短期〉を含む)の状況を記述して下さい。

【現状・評価】 本学では開学以来これまで体制・制度を整備しながら、積極的に国際交流活動を推進してきた。平成20年度～22年度の活動実績は別表の通りである。夏休みに4本、春休みに1本の研修を実施し、参加人数はここ3年間の中では一番多くなった。また、アメリカ・ハワイ州のカピオラニコミュニティカレッジと学術交流提携を結び、今年度から研修を実施したが、第一回目は10名の参加があり、成功裡に終わらせることができた。また、ハニャン女子大学とは昨年度からのセメスター留学のプログラムを継続し、2名の学生を送ることができた。フィリピンプログラムは参加者が催行人数に達しなかったため、実施できなかった。

【課題・改善策】 今年からハワイのプログラムを導入し、英語圏への参加者人数は今年度は上向いたが、今後もより多くの学生が参加できるような仕組みが必要である。2年間という短い期間の中でどのように学生の興味を引き出して参加に結びつけるかが課題である。また、フィリピンとモンゴルの研修については、プログラム内容を見直し、来年度にのぞみたい。

過去3ヶ年の海外研修活動実績

| 地 域                     | プログラム                                            | 引率の有無 | 時 期 間      | 年度別参加者数 |      |      |
|-------------------------|--------------------------------------------------|-------|------------|---------|------|------|
|                         |                                                  |       |            | 20年度    | 21年度 | 22年度 |
| オーストラリア・ケアンズ            | ホームステイと語学研修                                      | 無     | 夏休み<br>2週間 |         | 4    | 4    |
| オーストラリア・サンシャインコースト      | University of the Sunshine Coast<br>セメスター留学プログラム | 無     | 9月～2月      |         | 1    |      |
| オーストラリア・サンシャインコースト      | University of the Sunshine Coast<br>1年間留学プログラム   | 無     | 3月～12月     |         | 1    |      |
| 韓国・ソウル                  | ハニャン女子大学<br>セメスター留学プログラム                         | 無     | 9月～2月      |         | 2    | 2    |
| 韓国・ソウル                  | ハニャン(漢陽)女子大学との姉妹校交流プログラム                         | 有     | 夏休み<br>1週間 | 3       | 16   | 12   |
| フィリピン                   | 幼稚園研修                                            | 有     | 夏休み<br>8日間 | 6       | 8    |      |
| モンゴル                    | チョイ・ロブサンジャップ語<br>学文明大学文化研修                       | 有     | 夏休み<br>1週間 | 5       |      |      |
| カナダ・バンクーバー              | Pacific Gateway College<br>セメスター留学プログラム          | 無     | 2月～3月      |         | 1    |      |
| アメリカ・カリフォルニア            | ホームステイと文化研修                                      | 無     | 春休み<br>3週間 | 7       | 3    |      |
| アメリカ・ハワイカピオラニコミュニティカレッジ | ホームステイと語学研修                                      | 有     | 春休み<br>2週間 |         |      | 10   |

(2) 過去3ヶ年(平成20年度～22年度)の短期大学と海外教育機関等との交流の状況を記述して下さい。

【現状・評価】 平成22年度時点で本学が姉妹校提携、交流協定を結んでいる海外教育機関は以下の通りである。

- ① ハニャン(漢陽)女子大学(ソウル市、韓国)＝姉妹校提携

## 領域Ⅶ

- ② The University of Utah (Salt Lake City, Utah, USA) = 交流協定
- ③ チョイ・ロブサンジャップ語学文明大学（ウランバートル，モンゴル）= 交流協定
- ④ Kapiolani Community College (Hawaii, USA) = 交流協定

ハニャン女子大学の日語通訳科を中心とした交流は、平成 5 年度に試験的にスタートし、平成 6 年度の正式な姉妹校提携を経て 15 年に及ぶ。同大学との平成 20 年度から平成 22 年度の 3 年間の交流実績は下表の通りである。ユタ大学との交流は平成 15 年度にスタートし、平成 16 年度に正式に交流協定を締結している。平成 21 年 2 月清泉女学院短期大学はチョイ・ロブサンジャップ語学文明大学と交流協定を締結した。

平成 22 年度にハワイのカピオラニコミュニティーカレッジとの交流協定の交渉を結び、平成 23 年度 2 月より語学学習のプログラムを開始した。

ハニャン女子大学との交流

|      |      | 平成 20 年度 |     | 平成 21 年度 |     | 平成 22 年度 |     |
|------|------|----------|-----|----------|-----|----------|-----|
|      |      | 実施時期     | (人) | 実施時期     | (人) | 実施時期     | (人) |
| 派遣   | 短期交流 | 9 月      | 3   | 9 月      | 16  | 9 月      | 12  |
|      | 1 年  | 9 月～2 月  | 0   | 9 月～2 月  | 1   | 9 月～2 月  | 2   |
| 受け入れ | 短期交流 | 6 月      | 40  | 6 月      | 38  | 6 月      | 38  |
|      | 1 ヶ月 | 6 月～7 月  | 4   | 6 月～7 月  | 2   | 6 月～7 月  | 4   |

【課題・改善策】 ハニャン女子大学との交流は、着実に続けられており、昨年度から日本からの参加者も増加してきた。これは、海外研修の機会を授業と結びつけ、研修に対する興味を高めていく取り組みがあったことが効果をもたらしていると思われる。ユタ大学との交流は、実施プログラムの価格や機関から今年度は行わなかった。アメリカでの研修ではハワイのプログラムがスタートしたので、2 つのプログラムの兼ね合いをみつつ、今度どのような形で交流ができるのか検討していく必要がある。チョイ・ロブサンジャップ語学文明大学からは、平成 22 年度に 1 人の学生を 1 ヶ月間受け入れ、2 名の学生を派遣した。今後も学生の派遣・受け入れを中心に、交流協定校、姉妹校ともに活動を継続していく予定である。

(3) 過去3ヶ年(平成20年度～22年度)の教職員の留学、海外派遣、国際会議出席等の状況を記述して下さい。

【現状・評価】 教職員の留学、海外派遣、国際会議等の状況は、以下のとおりである。

| 年 度    | 海外留学・海外派遣・国際会議等の内容     |                                    | 教職員名                              |
|--------|------------------------|------------------------------------|-----------------------------------|
| 平成20年度 | 1.韓国/漢陽女子大学            | 姉妹校交流プログラムの引率                      | 飯野厚<br>(准教授)<br>碓井幸子<br>(講師)      |
|        | 2.フィリピン                | フィリピン幼稚園との交流                       | 小林房子<br>(教授)<br>武田るい子<br>(准教授)    |
|        | 3.韓国/漢陽女子大学他           | 食文化の研究                             | 掛塚芳子<br>(教授)                      |
|        | 4.北アイルランド              | 研究会参加                              | 武田るい子<br>(准教授)                    |
|        | 5.中国北京市                | 2008北京パラリンピック競技大会                  | 小林敏枝<br>(教授)                      |
|        | 6.韓国ソウル市               | 研修先の開拓                             | 窪寺洋子<br>(教授)                      |
|        | 7.タイ/バンコク、シンガポール       | 食文化の研究、市場調査                        | 掛塚芳子<br>(教授)                      |
|        | 8.ベトナム/フエ市             | 教育支援NGO活動の調査、研究                    | 武田るい子<br>(准教授)                    |
|        | 9.韓国ソウル市/漢陽女子大学他       | 資料収集、打合わせ                          | 飯野厚<br>(准教授)<br>藪田由己子<br>(講師)     |
| 平成21年度 | 1.韓国/漢陽女子大学            | 姉妹校交流プログラムの引率                      | 藪田由己子<br>(講師)                     |
|        | 2.フィリピン                | 文化交流プログラムの引率                       | 小林房子<br>(教授)<br>トーマス・ジョエル<br>(講師) |
|        | 3.カンボジア                | 研修及び海外ボランティア実習先の開拓                 | 窪寺洋子<br>(教授)                      |
|        | 4.フランス                 | エリザベートレクイエム in パリ                  | 高橋正道<br>(教授)                      |
| 平成22年度 | 1.韓国/漢陽女子大学            | 平成22年度韓国文化研修同行                     | 藪田由己子<br>(講師)                     |
|        | 2.ケダ州立ろう学校外特別支援学校      | 障害者シンクロの指導                         | 小林敏枝<br>(教授)                      |
|        | 3.韓国/漢陽女子大学            | 韓国文化研修プログラム                        | 村田信行<br>(教授)                      |
|        | 4.La Thanh Guest House | Asia TEFL 2010 Conference における研究発表 | 藪田由己子<br>(講師)                     |

【特記事項について】

(1) この《Ⅶ社会的活動》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば高大連携等の他の教育機関との連携、外国人への日本語教育等、社会的活動について努力していることがあれば記述して下さい。

(1) 高大連携の取組み

平成 22 年 6 月には、長野県立中野西校等学校との連携協定が結ばれることになり、本学において調印式が行われた。これにより、本年度より高大連携事業を実施することになった。本年度の事業内容は、高校主催のものとして、10 月にキャリア教育運営委員会へ本学職員の出席、11 月は 2 年生進路ガイダンスに高大連携委員が参加、3 月には 1, 2 年生進路説明会に高大連携委員が参加している。本学への協力として、清泉女学院短期大学の外部評価委員を依頼し、中野西校等学校の学校長が受諾され協力を頂いている。

姉妹校である長野清泉女学院高等学校との連携は、平成 22 年度も継続して行われた。本学における連携事業の取り組みとして行われている「体験授業」は、大学の実際の授業を体験してもらうものであり、本年度も実施され多くの高校生が参加した。また、「オープンキャンパス」が提携校向けに行われており、清泉女学院高等学校も参加してもらっている。また、教員相互の交流に関しては、平成 22 年度も昨年通り、本学の授業を高校側教員が兼任講師として担当しており、授業科目上の連携が実施されている。

平成 19 年に包括協定を結んだ長野市立長野高等学校の高大連携事業は、協定締結後 3 カ年が経過した。協定においては 3 カ年毎に見直しをする規定になっているため、それぞれで会議・協議した結果、平成 22 年度において更新を行い、連携事業の継続と一層の充実が確認された。連携内容としては、本学主催の「体験授業」への参加、「オープンキャンパスへの参加」、「本学の正規授業への参加」（音楽等）、本学の教員が出向いて行う「模擬授業」の実施（3 科目）、が実施されている。また、本年度より本学教員が長野市立長野高等学校の「学校評議員」に任命され、高校で開催される会議に出席している。

このように、平成 22 年度は 3 校との連携が行われ、昨年度よりも多くの高等学校と本学との連携事業が展開された。その他にも、連携協定は行っていないが松代高等学校との部分的な連携などが行われている。

次年度においては、本学および高等学校との連携内容を一層充実したものにするために、相互のニーズと実態の理解をより深め、お互いに実りの多い高大連携とすることが課題である。さらに、高大連携の幅を拡張するため連携が可能な高校を検討し、本学から高大連携を呼びかけることも必要となるであろう。

## 領域VIII 管理運営

### 【法人組織の管理運営体制について】

（１）短期大学を設置する法人のトップである理事長は、短期大学の運営に対して適切にリーダーシップを発揮しているか、また短期大学に係る重要事項はどのような流れで決定し、その流れのなかで理事長はどのように関与しているかを、できれば理事長自身が率直に現状を記述して下さい。

【現状・評価】 原則として年間７回の理事会を開催し、必要に応じて随時に臨時理事会を開催、また、年間４回の評議員会を開催し、必要に応じて臨時評議員会を開催する。理事長は議長として会議を統括するほか、理事、監事及び評議員の意見を十分聴取し、法人全体及び各学校の経営並びに管理運営状況を把握し、それぞれの発展のためにその課題の解決に努めている。

更に、必要の都度、法人傘下の各学校を訪問・滞在し、教職員及び学生とのコミュニケーションにも配慮している。

2009年10月には、清泉女学院姉妹校交流会を開催し、参加各校の教職員により30の分科会を設け、各学校の研究成果の発表と同時に、各学校が抱えている課題について討議して、共通認識を持つ機会となった。また、同時に学長・校長及びその補佐役により、今後の学校運営上の課題について協議した。

短期大学に係る通常的意思決定事項は、法人本部の理事が原則として毎月出張し、学長及び事務局長との定期的な業務連絡、案件の協議及び懇談を行う他、大学・短大合同の企画運営会議に出席し、本部事務局、理事会及び理事長とのコミュニケーションに留意している。

特に重要な案件については、理事長が短期大学に出張し、意思の疎通を図っている。具体的な業務執行に当たっては、「学校法人清泉女学院理事会決議または理事長の決裁規程」、「学長・校長職務規程」に基づき、理事会、評議員会における審議及び決裁、稟議書を起案し、それぞれの承認を得て遂行に及んでいる。

【課題・改善策】 短期大学の学長も法人の理事であり、理事長及び理事会と教授会等との関係において問題はない。

（２）過去３ヶ年（平成20年度～22年度）の理事会の開催状況（主な議案、理事の出席状況等を含む）を下表を例に開催日順に記述して下さい。加えて理事会についての寄附行為上の規定を記述して下さい。平成23年5月1日現在の理事・監事・評議員名簿等を準備し、理事の構成に著しい偏りがないことをお示し下さい。また理事会議録は必要に応じて閲覧いたします。

#### ① 理事会開催状況（平成20年度～22年度）

領域Ⅷ

平成 20 年度の理事会の開催と主な内容は以下のとおりである

| 年  | 月  | 日  | 主な議案                                                                                                                      | 出席数  | 定数   |
|----|----|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|------|
| 20 | 4  | 1  | ① 堀明子理事長任期満了に伴う理事長選任について承認<br>② 理事長職務代理の選任について承認                                                                          | 10 名 | 12 名 |
|    | 5  | 23 | ① 平成 19 年度決算及び平成 19 年度事業報告承認<br>② 国立病院機構東長野病院との学生用駐車場賃貸借契約締結について承認（大学・短大）<br>③ 役員人事について承認<br>④ 大学・短大事務局長八重田修氏の評議員選任について承認 | 12 名 | 12 名 |
|    | 10 | 31 | ① 学則の改正について承認（大学）<br>② 学則の改正について承認（短大）                                                                                    | 12 名 | 13 名 |
|    | 12 | 12 | ① 平成 20 年度補正予算承認<br>② 学則の編入学定員に係る改正について承認（大学）                                                                             | 13 名 | 13 名 |
| 21 | 2  | 13 | ① 役員・評議員人事について承認<br>② 長野清泉女学院中学・高等学校校長選任について承認<br>③ 教育課程変更に伴う学則の一部改正について承認（短大）                                            | 13 名 | 13 名 |
|    | 3  | 27 | ① 平成 21 年度事業計画及び予算承認<br>② 学則の一部改正について承認（大学・短大）<br>③ 就業規則等の諸規程の一部改正について承認（大学・短大）<br>④ 中長期計画について承認（大学）                      | 11 名 | 13 名 |

平成 21 年度の理事会の開催と主な内容は以下のとおりである

| 年  | 月  | 日  | 主な議案                                                                                                                                                                 | 出席数  | 定数   |
|----|----|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|------|
| 21 | 5  | 22 | ① 平成 20 年度決算及び平成 20 年度事業報告承認                                                                                                                                         | 12 名 | 13 名 |
|    | 6  | 26 | ① 教育課程の一部改正について承認（大学・短大）<br>② 清泉女学院大学人間学部に対する法人の財政的支援について条件付き承認（大学）                                                                                                  | 11 名 | 13 名 |
|    | 9  | 25 | ① 清泉女学院大学学則の改正について承認（大学）<br>② 清泉女学院短期大学学則別表（1）の一部改正について承認（短大）<br>③ 人間学部の新コース検討について経過報告（大学）                                                                           | 12 名 | 13 名 |
|    | 10 | 30 | ① 清泉女学院大学人間学部数学計画の経過報告（大学）                                                                                                                                           | 13 名 | 13 名 |
|    | 12 | 11 | ① 平成 21 年度補正予算承認<br>② 清泉女学院短期大学学則別表（1）の一部改正について承認（短大）<br>③ 清泉女学院大学 2011 年度より導入の新コース案について承認（大学）                                                                       | 13 名 | 13 名 |
| 22 | 2  | 12 | ① 清泉女学院大学人間学部の 2011 年度新コース開設に伴う学則別表（1）の改正について承認（大学）<br>② 清泉女学院中学高等学校耐震補強改修工事 第一期工事について承認（清泉中高）<br>③ 原監事の辞任及び後任監事の候補者選出について承認<br>④ 清泉女学院大学に対する学校法人の財政的支援について承認（大学・本部） | 12 名 | 13 名 |
|    | 3  | 26 | ① 平成 22 年度事業計画及び予算承認<br>② 清泉女学院大学人間学部の経営改善計画について承認（大学）<br>③ 清泉女学院大学学則、清泉女学院短期大学学則の改正について承認（大学・短大）<br>④ 評議員人事について承認<br>⑤ 役員人事について承認                                   | 11 名 | 13 名 |

平成 22 年度の理事会の開催と主な内容は以下のとおりである

| 年  | 月  | 日  | 主な議案                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 出席数  | 定数   |
|----|----|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|------|
| 22 | 5  | 21 | ① 平成 21 年度決算及び平成 21 年度事業報告承認                                                                                                                                                                                                                                                           | 13 名 | 13 名 |
|    | 6  | 25 | ① 清泉女学院短期大学学則の一部改正について承認（短大）<br>② 清泉女学院大学及び清泉女学院短期大学学長の任命及び任期に関する規程の改正について承認（大学・短大）<br>③ 清泉女学院大学及び清泉女学院短期大学就業規則等の改正について承認（大学・短大）                                                                                                                                                       | 12 名 | 13 名 |
|    | 10 | 22 | ① 清泉女学院大学及び清泉女学院短期大学個人情報の保護に関する規程の改正について承認（大学・短大）<br>② 清泉女学院大学及び清泉女学院短期大学清泉女学院短期大学兼任教職員給与規程の改正について承認（大学・短大）<br>③ 清泉女学院短期大学学則別表（1）及び保育士資格課程履修規程の一部改正について承認（短大）<br>④ 理事の選任について承認<br>⑤ 評議員の選任について承認<br>⑥ 清泉女学院大学学長及び清泉女学院短期大学学長任期満了に伴う後任学長候補者の理事会推薦について承認<br>⑦ 清泉女学院大学認証評価実地視察について報告（大学）  | 12 名 | 13 名 |
|    | 12 | 10 | ① 清泉女学院中学高等学校耐震補強改修工事第二期工事について承認（清泉中高）<br>② 平成 22 年度補正予算承認<br>③ 学校法人の情報公開状況について承認（大学・本部）<br>④ 清泉女学院大学に対する学校法人の財政的支援について承認（大学・本部）                                                                                                                                                       | 9 名  | 13 名 |
| 23 | 2  | 18 | ① 清泉女学院大学学長及び清泉女学院短期大学の後任学長の決定について報告<br>② 清泉女学院大学学則別表（1）の改正について承認（大学）<br>③ 清泉女学院短期大学国際コミュニケーション科学則別表（1）の訂正について承認（短大）<br>④ 清泉女学院大学及び清泉女学院短期大学教職員連絡協議会規程、人事委員選任規程の改正について承認（大学・短大）<br>⑤ 清泉女学院短期大学幼児教育科教授高橋正道氏の定年延長について承認（短大）<br>⑥ 評議員人事について承認<br>⑦ 役員人事について承認                             | 11 名 | 13 名 |
|    | 2  | 23 | ① 清泉女学院中学高等学校校長の選任について承認                                                                                                                                                                                                                                                               | 12 名 | 13 名 |
|    | 3  | 25 | ① 平成 23 年度事業計画及び予算承認<br>② 清泉女学院大学及び清泉女学院短期大学給与規程の改正について承認（大学・短大）<br>③ 清泉女学院大学及び清泉女学院短期大学育児休業に関する規則、介護休業に関する規則の改正について承認（大学・短大）<br>④ 清泉女学院大学及び清泉女学院短期大学嘱託職員勤務規程の改正について承認（大学・短大）<br>⑤ 神保勝朗理事退任に伴う後任理事の選任について承認<br>⑥ 須田和男評議員辞任に伴う後任評議員の選任について承認<br>⑦ 監事の選任について報告<br>⑧ 東北関東大震災への義捐金支出について承認 | 12 名 | 13 名 |

理事会に関する規定は「寄附行為」の第 16 条を参照されたい。また、理事の定員及び選任数は平成 23 年度 5 月 1 日時点では、8 人以上 13 人以内のところ、13 人を選任している。

（3）理事会の下に理事会の業務を一部委任する常任理事会、幹部会等を置いている場合は、その名称と根拠規定、理事会との関係、構成メンバー等を記述して下さい。

【現状・評価】 本学校法人においては、理事会の下に理事会の業務を一部委任する機関はない。



（４）監事の業務についての寄附行為上の規定、平成 22 年度における監事の業務執行状況について、できれば監事自身が率直に現状を記述して下さい。

【現状・評価】 監事の業務に関する規定は、「寄附行為」の第 15 条を参照されたい。

監事の定員及び選任数については、平成 23 年度 5 月 1 日時点では、定数 2 人のところ 2 人選任している。また、平成 22 年度における監事の業務執行状況については、2 名の監事は、年度中の上記の理事会及び評議員会に出席して必要な質問を行うとともに意見を述べ、また平成 22 年度の決算及び事業報告並びに平成 23 年度の予算及び事業計画について、各学校長及び学長から説明を受け、会議において適切な職務を遂行した。また、法人に関する平成 22 年度の業務及び会計監査については、本部事務局において業務、財産の状況等を調査のうえ、平成 23 年 5 月 20 日に事業報告書、収支計算書、貸借対照表及び財産目録を監査し、理事会並びに評議員会に監査報告書を提出した。

（５）平成 22 年度の評議員会の開催状況（主な議案、評議員の出席状況等を含む）を開催日順に記述し、評議員会についての寄附行為上の規定を記述して下さい。

【現状・評価】 評議員会開催状況

平成 22 年度において評議員会は以下のように開催されている。

| 年  | 月  | 日  | 主 な 議 題                                                                | 出席者数 | 定数   |
|----|----|----|------------------------------------------------------------------------|------|------|
| 22 | 5  | 27 | ① 平成 21 年度決算及び平成 21 年度事業報告承認                                           | 23 名 | 27 名 |
| 22 | 7  | 28 | ① 清泉女学院中学高等学校耐震補強改修工事第一期に伴う南棟改修工事について承認（清泉中高）                          | 15 名 | 27 名 |
| 22 | 12 | 9  | ① 清泉女学院中学高等学校耐震補強改修工事第二期工事について承認（清泉中高）<br>② 平成 22 年度補正予算承認（清泉中高）       | 17 名 | 27 名 |
| 23 | 3  | 24 | ① 平成 23 年度事業計画及び予算承認<br>② 監事の任期満了に伴う選任について承認<br>③ 東北関東大震災への義捐金支出について承認 | 19 名 | 27 名 |

評議員会に関する規定は、「寄附行為」の第 19 条～第 25 条を参照されたい。評議員の定員及び選任数は、平成 23 年度 5 月 1 日時点では、17 人以上 27 人以内のところ 27 人を選任している。

（６）法人の管理運営について今後改善や変更をしたいと考えている事項があれば記述して下さい。また法人が抱えている問題あるいは課題について差し支えのない範囲で記述して下さい。

【現状・評価】 当法人傘下の学校は、小学校から大学まで 7 校（長野県 4 校、神奈川県 3 校）、インターナショナルスクール 1 校（東京都）の合計 8 校あり、それぞれの学校ごとに経営環境（教育内容、財務内容、施設設備内容、学生・生徒・父兄の動態、教職員の構成、地域の要望等）が異なっており、管理運営体制も各校の特色を反映して相違があるので、「学校法人清泉女学院理事会決議または理事長の決裁規程」及び「学長・校長職務規程」に基づき各校の自主性を尊重しつつ法人本部が全体の取り纏めを行っており、意思疎通の点で問題はないが、より一層法人全体としてきめ細かな管理運営を心がけたい。

## 【教授会等の運営体制について】

(1) 短期大学の教育・研究上のトップである学長は、短期大学の教育活動全般について適切にリーダーシップを発揮しているか、また短期大学に係る教育・研究上の事項はどのような流れで決定し、その流れのなかで学長はどのように関与しているかを、できれば学長自身が率直に現状を記述して下さい。なお学長選考規程等があれば訪問調査の際に拝見することがありますのでご準備下さい。

【現状・評価】 学長は併設大学の学長と本短期大学の学長とを兼ねているので、個別に副学長を任命し、学長の承認のもとにはあるが、学内の諸事項の運営の大部分を副学長に任せ、不都合のあるときのみ意見を述べてきた。学校全体に関わる問題や新しく生じてくる問題については、学長の諮問機関である企画運営会議で話し合い、そのあと評議会に諮り、次いで教授会にかけるという形をとっている。日常的な問題については、各委員会や科会で検討し、教授会で承認する必要がある議案については、内容によって、評議会経由で提案するものと直接教授会に提案するものがある。

教員の個人研究については、各個人のイニシアティブに任せ、共同研究については、教育文化研究所が所轄しており、申請された共同研究について、研究所運営委員会でその是非を審査し、その結果を学長が承認するというかたちをとっている。

教育に関しては、教師の学生に向き合う姿勢など、本学の建学の精神浸透のための話を、学長が各学期のはじめに全教員に対して話す機会を設けている。

学生に対しては、学長講話を通し直接学生たちに語りかけ、キャンパス・アワーに行われるメディテーション・アワーを通してキリスト教的価値観の伝授に務めてきた。

なお、学長の選考方法に関しては、「学長等の任命及び任期に関する規程」に従って行っている。

(2) 教授会についての学則上の規定（教授会で議すべき事項等を含む）、平成 21 年度における開催状況（主な議案、構成メンバー、出席状況等を含む）を年月日の順に記述して下さい。なお、学則を添付して下さい。

## 【現状・評価】

**教授会の組織**

本学の教授会は学長、専任の教授、准教授、講師及び助教をもって組織することを「清泉女学院短期大学教授会規程」の第 2 条に規定している。現状は、同第 8 条により、必要に応じて事務局長、総務部長、学生支援課長、入試広報室長及びキャリア支援課係長が同席している。

**教授会の招集者および審議事項**

学長は毎月 1 回（定例日）及び学長が必要と認めたときに教授会を招集し、議長となることが「清泉女学院短期大学教授会規程」第 3 条及び第 4 条に規定されており、毎月第 2 水曜日の午後 3 時から教授会を行っている。

また、清泉女学院短期大学教授会規程第 6 条に審議事項が規定されている。

**教授会開催の状況**

平成 22 年度における教授会の開催状況は、以下のとおりである。

## 領域Ⅷ

- ① 構成メンバー：学長、副学長、学長補佐、教務委員長、学生生活委員長、幼児教育科長、国際コミュニケーション科長他、教授3名、准教授5名、専任講師4名。事務職関係として、総務部長、学生支援課事務、キャリア支援課係長、入試広報室長以上4名、計23名が出席している。

### ② 定例教授会

| 開催日               | 主な審議議題                                                                                                                                                                            | 出席者数 | 定数  |
|-------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----|
| 4月2日（金）           | ① 学籍異動について<br>② 新2年生の秋学期の単位認定について<br>③ 平成23年度入試計画について                                                                                                                             | 16名  | 18名 |
| 4月14日（水）          | ① 学籍移動について<br>② 履修科目及び修得単位の読み替え措置について<br>③ 図書費の決算予算について                                                                                                                           | 18名  | 18名 |
| 5月19日（水）          | ① 学則別表（新旧カリキュラム表）の改正の確認について<br>② 各種の単位認定について<br>③ 年間歴の変更（5月30日の幼教2年授業日）について<br>④ 長野県中野西高等学校との連携について                                                                               | 18名  | 18名 |
| 6月9日（水）           | ① 教職員連絡協議会の過半数代表者の選任について<br>② 各諸規程の改正について                                                                                                                                         | 18名  | 18名 |
| 7月14日（水）          | ① 秋学期の国際コミュニケーション科科目担当者の変更等について<br>② 学籍の異動について<br>③ 市立長野高等学校との連携協定の継続について                                                                                                         | 17名  | 18名 |
| 9月29日（水）          | ① 教員の採用について<br>② 学籍の異動について<br>③ 学則別表の変更について<br>④ 平成22年度春学期の単位認定について<br>⑤ 諸規定の改正について                                                                                               | 16名  | 18名 |
| 10月13日（水）         | ① 各種検定試験による単位認定について<br>② 相互履修制度による単位認定について<br>③ 平成23年度当初の日程について<br>④ 研究倫理委員会規程及び同基準について<br>⑤ 「信州地域共同リポジトリ」への参加について                                                                | 17名  | 18名 |
| 11月10日（水）         | ① 春学期科目の単位認定の追加について                                                                                                                                                               | 18名  | 18名 |
| 12月8日（水）          | ① 人事について<br>② 春学期科目の単位認定の追加について<br>③ 平成23年度の年間歴について                                                                                                                               | 18名  | 18名 |
| 平成23年<br>1月12日（水） | ① 人事について<br>② 学則別表（国際コミュニケーション科）の訂正について<br>③ 規程の改正について<br>④ 学籍の異動について                                                                                                             | 18名  | 18名 |
| 2月9日（水）           | ① 諸規程の改正について<br>② 危機管理規程について                                                                                                                                                      | 17名  | 18名 |
| 3月2日（水）           | ① 平成23年度の兼任講師の採用について（幼児教育科）<br>② 平成23年度秋学期の単位認定と卒業認定について<br>③ 学籍異動について<br>④ 学校法人信学会と幼児教育科の協力関係に関する覚書の交換について<br>⑤ 平成24年度入学試験の実施計画について<br>⑥ 情報システム関連諸規定について<br>⑦ 出張講座の講師料等の取り扱いについて | 18名  | 18名 |

平成 22 年度の教授会は、13 回開催された。各科会や教務委員会で、協議・調整がなされてきており、合意形成を使命とする教授会の運営はスムーズに運営されていると言える。所要時間も 3 時から始めて平均 1 時間 50 分弱と効率的に運営されている。欠席状況は、出張等である。また、事務職の参加は、運営の共通理解と意思疎通のために非常に有効であると判断される。

(3) 学長もしくは教授会の下に教育・研究上の各種の委員会等を設置している場合は、その名称と根拠規程、主な業務、構成メンバー、平成 22 年度の開催状況等を記述して下さい。

【現状・評価】 各種委員会の開催状況は以下の通りである。

| 委員会名                         | 規程名                   | 主な役割と新規提案事項                                   | 構成メンバー                                                                | 開催日時                                                                                                             |
|------------------------------|-----------------------|-----------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 教務委員会                        | 教務委員会規程               | 教務に関する重要な事項の調査、審議及び処理                         | 学生支援部長（教務担当）：西山<br>教務委員長：田中<br>委員：安藤・村田・中村<br>大学教員 4 名<br>事務局：原田      | 3/31, 4/7, 5/13, 6/2, 7/7, 9/22, 10/6, 11/4, 12/11/5, 2/2, 2/23                                                  |
| 入学試験実施委員会（兼教務委員会）            | 入学試験委員会規程             | 入学者の選抜を公正かつ適正に行うための必要な事項を定めること                | 教務委員長：田中<br>委員：安藤・高橋・村田・中村<br>事務局：原田                                  | 3/31, 4/7, 5/13, 6/2, 7/7, 9/22, 10/6, 11/4, 12/11/5, 2/2, 2/23                                                  |
| 学生生活委員会                      | 学生生活委員会規程             | 学生の福利・厚生並びに学生生活に関する重要な事項の調査、審議及び処理            | 学生支援部長（学生生活担当）：小林（房）<br>委員長：小林（房）<br>委員：丸山・トーマス<br>大学教員 2 名<br>事務局：寺田 | 4/1, 4/28, 6/27/7, 10/6, 10/2712/1, 1/6, 2/7                                                                     |
| 入試・広報企画委員会                   | 入試・広報企画委員会規程（大学と合同）   | 学内外の入試・広報企画活動の円滑な運営に関すること                     | 委員長：桜井<br>委員：藪田・大学教員 2 名<br>事務局：小池・城子・西澤・藤井                           | 4/6, 4/20, 5/13, 5/25, 6/8, 6/22, 7/6, 7/19, 7/27, 8/19, 8/29, 9/24, 10/5, 10/27, 11/30, 12/21, 1/25, 2/22, 3/15 |
| 図書委員会<br>紀要編集委員会             | 図書委員会規程（大学と合同）        | 図書館の充実と発展に関すること                               | 委員長：芝山（大学）<br>教員：矢上・中村<br>大学教員 2 名<br>事務局：（司書）田村                      | 3/31, 4/12, 5/17, 6/7, 7/12, 10/6, 10/27, 12/1, 1/6, 2/2                                                         |
| 情報システム委員会                    | 情報システム委員会規程（大学と合同）    | 情報教育用コンピュータシステム及び情報ネットワークシステムの合理的運用に関すること     | 委員長：長田<br>教員：中村<br>大学教員 2 名<br>事務局：坂口・金子                              | 4/27, 5/25, 6/297/27, 9/14, 10/21, 11/18, 12/21, 1/20, 2/15, 3/10                                                |
| ファカルティ・ディベロップメント委員（兼自己評価委員会） | ファカルティ・ディベロップメント委員会規程 | 教育機能の改善、教育と研究の発展について検討、実施し、教育環境の充実、質的向上に関すること | 委員長：西山<br>委員：高橋・田中・村田<br>小林（房）・中村<br>事務局：西村・西澤                        | 5/19, 6/9, 9/2210/13, 12/8, 1/12, 3/2                                                                            |
| キャリア支援委員会                    | キャリア支援委員会規程           | 学生のキャリア支援活動に関すること                             | 委員長：宮下<br>委員：桜井・窪寺<br>大学教員 2 名<br>事務局：八重田・三ツ橋・森山                      | 4/7, 5/12, 6/27/7, 9/22, 10/611/2, 12/1, 1/72/2, 2/23                                                            |

## 領域Ⅷ

|                |                  |                          |                                              |                                                             |
|----------------|------------------|--------------------------|----------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|
| 生涯学習運営委員会      | 生涯学習運営委員会規程      | 生涯学習活動に関すること             | 委員長：武田<br>委員：碓井<br>大学教員1名<br>事務局：下平・渡辺（雅）    | 3/30, 5/28, 7/28<br>10/27, 11/26<br>2/2, 2/23               |
| ボランティア運営委員会    | ボランティア運営委員会規程    | ボランティア活動を円滑に推進するための運営    | 委員長：小林（敏）<br>委員：トーマス<br>大学1名<br>事務局：渡辺（雅）・下平 | 4/27, 6/28, 10/19<br>11/16, 2/10                            |
| 教育文化研究所運営委員会   | 教育文化研究所規程        | 教育、学術文化の調査と研究に関すること      | 委員長：芝山（大学）<br>委員：中村・小林（敏）<br>事務局：下平・渡辺（雅）    | 5/6, 6/22, 7/20,<br>10/28                                   |
| 国際交流運営委員会      | 国際交流運営委員会規程      | 国際交流の推進、留学生の派遣、受入に関すること。 | 委員長：飯田<br>委員：トーマス<br>大学教員2名<br>事務局：下平・渡辺（雅）  | 4/12, 5/10, 5/31<br>7/5, 10/4, 11/1<br>11/29, 1/31,<br>3/18 |
| カトリックオフィス運営委員会 | カトリックオフィス運営委員会規程 | カトリック活動の円滑な運営に関すること。     | 委員長：芝山（大学）<br>委員：高橋・窪寺<br>事務局：倉島             | 4/14, 11/4                                                  |
| 高大連携運営委員会      | 高大連携運営委員会規程      | 高等学校との教育研究の連携に関する運営      | 委員長：安藤<br>委員：大学教員1名<br>事務局：仲條、城子             | 4/12                                                        |

（４）短期大学の運営全般について抱えている問題あるいは課題について差し支えがない範囲で記述して下さい。

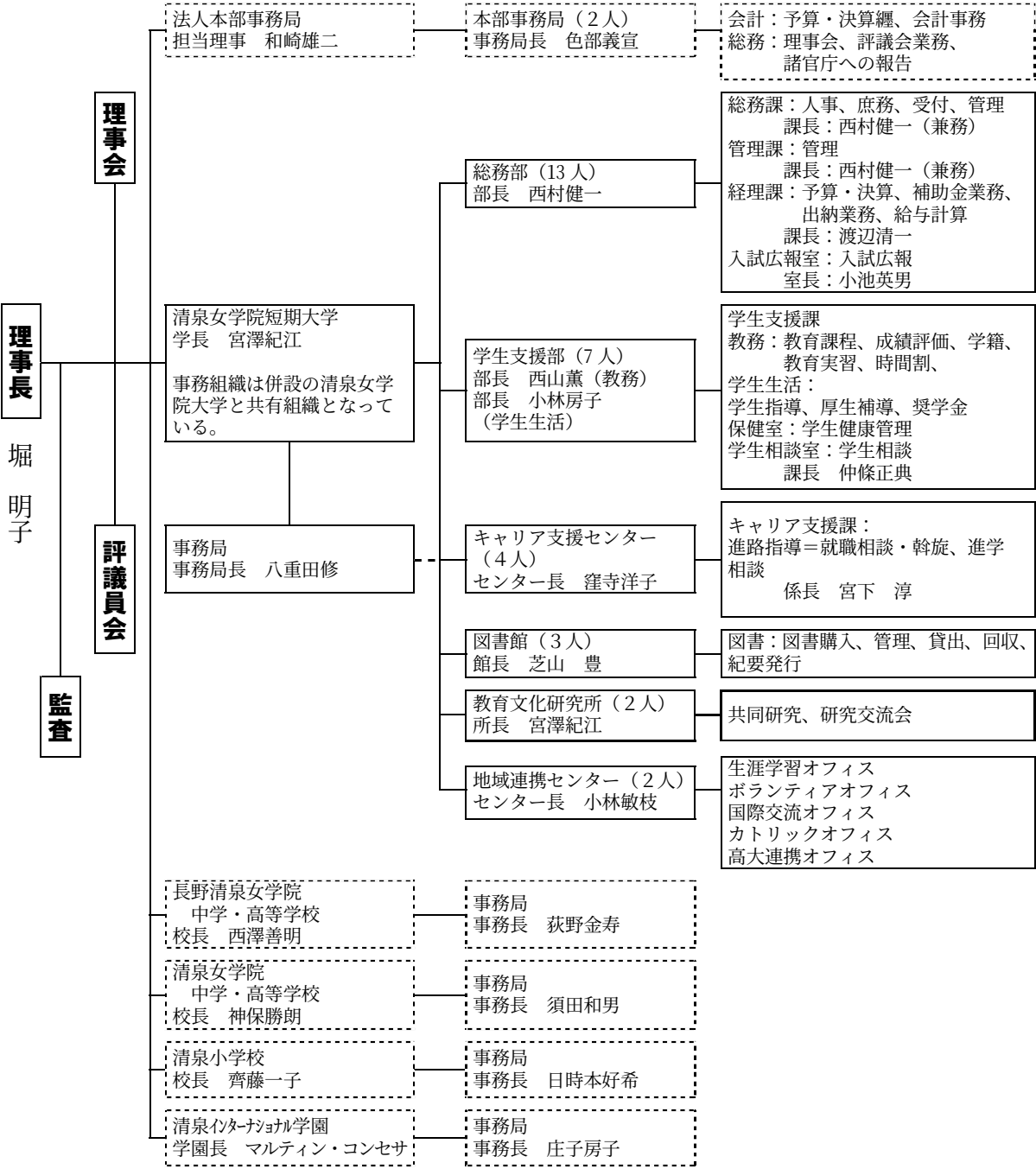
【課題・改善策】 本短期大学を構成する幼児教育科と国際コミュニケーション科への学生志願状況に差のあることが問題である。教員免許状と保母資格というしっかりした資格を取得でき、かつ伝統のある幼児教育科では、幸い多数の志願者を得ているが、国際コミュニケーション科では、毎年志願者の数が減っている。学生数の不均衡のほかに、いくつかの実習を抱えている幼児教育科では、教員の負担が大きくなる。きめ細かい指導を必要とする学生もあり、設置基準で必要とされる専任教員数だけでは指導の手が行き届かない。専任教員増員の必要性を感じている。国際コミュニケーション科では、志願者増に向けた工夫が緊急の課題である。

ICT 環境の一元化がほぼ完了した。情報システム室が整備され機能を開始した。安全面からも安心して使える状態が整いつつある。大学運営を円滑にする上からも、また、教職員の労力削減の上からも、情報ネットワークに備わっている機能を十全に生かした利用ができるようにと期待している。

【事務組織について】

(1) 現在の法人全体の事務組織図を記載し、その中に短期大学の事務部門を記入して下さい。また組織図には短期大学の事務部門の役職名（課長、室長相当者以上。兼職の有無を含む）、各部門の人員（専任・兼任の別を含む）、各部門の主な業務を含めて記入して下さい。また事務組織が使用している部屋等は、機器・備品を含めて訪問調査の際に案内いただきます。

学校法人清泉女学院及び短期大学の事務組織



平成 23 年 3 月 31 日現在

(2) 事務職員の任用（役職者の任免を含む）について現状を訪問調査時にご説明下さい。

【現状・評価】 専任職員の採用は、評議会の審議と教授会での報告を行い、学長、所轄部署の部課長及び事務局長の面接を経て、6ヶ月の試用期間後に正規職員に任用している。具体的な採用の方法としては、学内の教職員による紹介及び人材派遣会社との連携（紹介予定派遣）を中心として行っている。

応募資料による書類審査を経て、学長、事務局長及び当該部署の部長及び課長による面接により採用を決定し、更に6ヶ月の試用期間経過直前に被雇用者と面談し、就業条件及び業務内容等に双方異存がなければ正規職員へ登用することを前提に任用している。

パート等の臨時職員の採用は、専任職員に欠員が生じたとき、または臨時的に業務が煩雑になり評議会の了承及び教授会での報告に基づき1年以内の雇用期間を定め雇用契約を締結している。2007年度施行によりパートについては、「期限付雇用職員勤務規則」を新設し、1年以上3年（労働基準法第14条第1号又は2号のいずれかに該当する労働契約にあっては5年）を超えない期間で雇用契約を締結し、更新は、原則として最長5年に達するまで更新することができるものとした。

2010年度の事務職員の人事発令状況は次のとおりである。

1. 採用

| 区 分  | 採用発令年月日  | 所 属（目的） | 備 考        |
|------|----------|---------|------------|
| 女性職員 | 2010.4.1 | 学生支援課   | パートタイマーの採用 |

2. 退職

| 区 分  | 退職発令年月日   | 所 属（目的） | 備 考     |
|------|-----------|---------|---------|
| 女性職員 | 2011.3.31 | 学生支援課   | 雇用期間の終了 |

【課題・改善方法】 中途採用職員の給料の決定や昇任・昇格について、他大学等の基準を参考にし、また学長及び本部事務局との協議のもとに経歴換算表を策定し、2006年度から運用した。SD活動や組織改善の観点において、人事給与制度との関連性を考え、人事評価制度、目標管理制度の導入について検討を開始したい。

(3) 事務組織について整備している諸規程名を列記して下さい。なお諸規程等は訪問調査の際に拝見することがありますのでご準備下さい。

【現状・評価】 事務局長、学生支援、総務の各部長及び学部長、学長代理、学科長、科長、学長補佐、図書館長、研究所長、地域連携センター長、並びにキャリア支援センター長の任免等に関する規定がある。

(4) 決裁処理の概要と流れ、また公印や重要書類（学籍簿等）の管理、防災の状況、情報システムの安全対策等の現状を記述して下さい。

【現状・評価】

① 決裁処理

管理職教職員の任免、一定金額以上の予算の執行、教職員の分限・服務・懲戒、諸規

程の制定及び改廃、その他の執行は、学校法人清泉女学院が定める「学長・校長職務規程」に基づき理事会、評議員会における審議と決裁及び同「理事会決議または理事長の決裁規程」に基づき稟議書による起案と決裁により遂行している。

## ② 重要書類及び公印・公印の管理

文書管理は、文書取扱規程及び文書保存規程に基づき決裁、保管等の管理を行っている。公印管理は、公印取扱規程に基づき管理している。

## ③ 防災の状況

消防法上の設備及び点検は遺漏なく行っている。また校内各所に避難経路の表示を行い、さらに年1回（10月）地震対策を含めた防災訓練を実施している。

## ④ 情報セキュリティ

情報処理教室に機械警備システムを敷設している。また、ネットワーク、教職員が使用するパソコン及びサーバー等についてのセキュリティについては、ハッカーなど、侵入を目的でアクセスしてきた場合には防げない部分もあるが、それ以外においては十分対応できる体制を整えている。また、ウィルス対策の他、不正アクセス対策、教職員の認証システムについては、今年度から総合的な対策が整備された。

【課題・改善策】 実務上の問題はないが、業務の効率的運営（決裁と執行）の観点、また重要書類の管理等については、情報のデータベース化と保管スペース等、全体的な見直しが必要である。また、保育者養成、ボランティア実務士の養成という本学の特性から、防災訓練だけでなく、救急医療や救命措置などについても講習会を実施していくことが必要であり、平成19年度から部分的な実施を行っている。

情報セキュリティ対策は、学内の情報システム運営委員会の重要なテーマとなっていて、平成23年度からは、情報セキュリティポリシーおよび関連規程を定め情報資産の管理など具体的に対応する予定である。

（5）事務職員は教員や学生から支持され信頼されているか、できれば事務組織の責任者（事務局長等）が現状を率直に記述して下さい。

【現状・評価】 教員と事務職員との関係は、教員の教育・研究活動、学生支援活動等が円滑に推進できるよう職員がサポートしていく立場にある一方、多様化している学生や教員のニーズに対応していく能力が求められている。

しかし、学内における意思決定の多くが教授会に委ねられており、タイミングを失ってしまうことも生じている。教員と職員の役割分担が一樣、一面的でない昨今、機動性のある運営を進めていくには、特に「学生募集」や「キャリア支援」における職員の職務スキルを高めると同時に、どの職務において誰がイニシアティブをとるのか、固定観念にとらわれることなく、再構築の必要がある。

また、本学の組織運営の特性としては、強力なリーダーシップというよりも、合意形成による執行（意思決定）体制といえる。この特性が、執行及び結果責任の所在不明や、結果に対する十分な検証ができない大きな原因となっており、構成員間の信頼性欠如に繋がる恐れを感じている。

【課題・改善策】 事務局の職務は、学生や教員あるいは他部門の職員からの依頼や要請に対し、臨機応変に対応し課題解決するソリューションスキルがますます必要になってく



る。成功事例や失敗事例を多く学ぶことにより、同僚職員や教員に対し十分な説明を行い、その結果として納得のうえ、本学としての戦略を構築していくという地道な努力が必要である。「顧客は学生である」という古くて新しい原点に立ち返り、教員及び職員それぞれの言動が「学生」という「顧客」のニーズや利益に結びつき、「学生募集」や「キャリア支援」に全員のベクトルを向ける体制づくりが必要である。平成 23 年度は、特に権限委譲等について、検討を始めたい。

（６）事務組織のスタッフデベロップメント（SD）活動（業務の見直しや事務処理の改善等、事務職員の能力開発、内部研修、外部への研修等）の現状を記述して下さい。

【現状・評価】 平成 22 年度も事務局においては SD 活動の一貫として、事務局会議、研修会及び職員面談を実施した。

会議の主たる目的は、まず課長職等との間に、学内の情報を可能な限り共有できる関係をつくり、職員自ら問題や課題に対し認識を深め、解決意欲、解決策を提案できる環境づくりである。また、研修会等は、新たな知識や情報・手法を身につけ、最新のビジネス感覚により学生及び教員へのサービスを提供すること、あるいは新たな政策立案を目的としたものである。

職員面談は、事務局長及び総務部長が定期的あるいは必要に応じて随時職員と面談し、事務局の問題解決や職員の意識改革を図るものである。

事務組織の改善、学生支援部におけるキャリア支援体制・講座の改善、学外施設を活用しての社会貢献活動等に一定の成果が認められる。

【課題・改善策】 今後のテーマとしては、職員各自が、解決テーマを見つけ出し、解決手段・手法を産み出すソリューション能力が求められる。そうした能力を高めるための学内啓発活動や研修体制に引き続き力を注ぎたい。

（７）短期大学の事務組織が抱えている問題あるいは課題について差し支えがなければ記述して下さい。

【現状・評価】 高等教育機関の事務職には、将来を見据え改革や基盤整備のために企画立案能力が求められている。

テーマによっては教員より高いレベルでの知識や技能、先見性が求められる場合も少なくない。高等教育機関に期待される教育施策、社会的使命、それに対応した私学助成制度の活用、更に地方行政や地域社会への具体的な対応等、高度な知識・技能が要求されている。

平成 21 年度中・長期の計画を策定したので、この組織目標に向かって推進することが引き続き大きな課題である。

#### 【人事管理について】

（１）教職員の就業について、現在、短期大学が抱えている問題あるいは課題について差し支えない範囲で記述して下さい。なお教職員の就業についての規程（就業規則、給与規程等）を訪問調査の際にご準備下さい。

【現状・評価】 就業規則及び給与規程等については、平成 18 年度以降、随時見直しや点

検を行っている。今後とも、労働行政に関する法制の改正等に留意しながら、学内の諸規程について整備していきたい。

【課題・改善策】 平成 19 年度中に教職員の評価制度や事務組織の目標管理制度について検討したが、今後も引き続き検討していきたい。

(2) 法人（理事長及び理事会等）と短期大学教職員の関係について、できれば理事長及び学長がそれぞれ記述して下さい。

【現状・評価】 理事長は、常時長野にいないわけではないので、何もかも知り尽くす関係というわけにはいかないが、大切な事柄については十分に把握している。6 月には 1 週間ほど滞在し、希望する教職員と面談の時間をもった。また教職員一同に対して講話を行った。他にも学長任命に関する件で必要に応じて何回か来学し、教職員に意見を求めている。また、月に 1 度は法人の理事が来学し、この学校の運営に関する報告を受け、また、企画運営会議などにも同席し、本学の動きをつかみ、必要に応じて助言している。

学長は理事として理事会の構成員であり、教授会で、必要に応じて理事会の情報を提示している。理事会にあげるべき事項等については、担当職員は、理事と頻繁に綿密に連絡を取りながら進めている。

(3) 教員と事務職員との関係について、できれば学科長等及び事務局長がそれぞれ記述して下さい。

### 幼児教育科

【現状・評価】 本学では教員と事務職員との関係は良好である。担任を通して、また個別学生に対しても学生支援部、キャリア支援部と連絡を密にしながら学生支援全般に対応している。平成 21 年度は新型インフルエンザへの対策・対応も円滑に動いたと評価できる。また、平成 21 年度は、文部科学省と厚生労働省の現地調査、指導調査があったが、日頃の協力・連携が発揮されて資料作成段階から教員と事務職員が協力しながら準備して対応した。評価結果も良好であった。長野県内養成校の施設実習調整当番校として担当教員と事務が連携して運営に当たった。また、教員、事務職員、学生との間にあって細かな仕事を担っている助手の働きも大きい。

【課題・改善策】 長野県内養成校の施設実習調整当番校の最終年度であるが、施設実習担当教員と事務職員間の連絡、協力体制を密接にしておくこと。学生支援全般に渡り教員側から事務職員へ情報を入れたい。

### 国際コミュニケーション科

【現状・評価】 本学科教員と事務職員との関係はおおむね良好で、学生指導、学生支援、教務対応など基本的に連携がとれている。これには本学の規模がそれほど大きくなく、互いを熟知し円滑な意思疎通が可能であるといった組織上の理由が大きいように思う。

【課題・改善策】 かねてより期待されていた学科つき事務助手が 20 年度 6 月より採用され、十分機能するようになったことはありがたい。20 年度にはキャリア支援センターも発足し、より柔軟な教員と職員の連携が求められているが、事務局全体を見ても、職員の移動（ジョブローテーション）は不十分であり、募集上非常に厳しい時代にあって、全体と

して効率的で専門職的な事務態勢をもさらに望みたい。

### 事務職員

【現状・評価】 事務職員は、教員の教育研究活動、学生支援活動等が円滑に推進できるようサポートしていく立場にある。

平成 20 年度、教職員の提案によるキャリア支援センターが発足し、教員と職員のいっそうの連携が進んでいる。

個人差はあると思われるが、全体と個、グローバル性とローカル性という視点に立って本学の位置関係を常に認識しながら、国政、文部科学省、長野県、子育て支援、幼児教育、産業構造、経済情勢、地域産業等の動向を俯瞰し、企画立案し、学内の様々な業務を推進していこうとする意識が不足しているように思われる。

【課題・改善策】 職員各自の専門性、スキルアップとともに「気付き」「気配り」が求められる。「気付き」は組織の改善や改革のシーズでもある。学校を活性化あるいは改善していくためには、「今の改善は 2 年後でしか改善されない」という認識が必要である。これは文部科学省が定める設置基準上、やむを得ないが、5 年後、10 年後の本学の将来を見通して、日々の業務に忙殺されることなく、「今の改善」「今の気付き」「今の提案」を実践していけるようにしたい。

(4) 教職員の健康管理、就業環境の改善、就業時間の順守等の現状を率直に記述して下さい。

【現状・評価】 学生及び教職員の健康診断は、平成 17 年度から学校に隣接する独立行政法人国立病院機構東長野病院と実施委託契約を締結した。また学校医及び産業医の派遣契約についても、同病院と協定し、学内の健康管理体制を一新、現在も継続中であり特段の問題はない。

学内の環境については、各教室、施設及び事務室に暖房を完備し、エアコンが未設置の教室については、平成 19 年度中に完了した。

職員の出退勤管理及び時間外労働管理については、法令及び労働基準監督署の指導に従い行っているが、平成 22 年度の実績としては、時間外労働は、当初の計画を上回る見通しであり、引き続き管理の徹底をはかる必要がある。

【課題・改善策】 職員の就業時間については、特に時間外労働の命令・管理において、管理者及び職員ともにまだまだ認識が低い。事務局が行うあらゆる業務について、コスト意識を再確認させ、内部処理とアウトソーシング、「作業」と「仕事」の違いを認識し、通常勤務時間内の効率化と時間外労働の削減について、具体的事例を提案しながら進めていきたい。

## 領域IX 財務

### 【財務運営について】

（１）学校法人もしくは短期大学において「中・長期の財務計画」を策定している場合は、計画の名称、策定した経緯等を簡潔に記述して下さい。なお中・長期の財務計画は訪問調査の際に参考資料として拝見いたしますのでご準備下さい。

【現状・評価】 学校法人もしくは短期大学において「中・長期の財務計画」を策定したことはない。平成 17 年度中に大学、短大合同の将来構想委員会が設置され、平成 18 年度（平成 19 年 2 月）に合同将来構想委員会最終報告書が公表された。この報告書において「財務状況」の項目において中期的な考え方を述べているのみである。

### 【課題・改善策】

本学学校法人傘下の各学校は、一定の基準に基づいた中・長期計画を策定し、各学校及び法人としての投資計画・財務計画を構築していくことが望ましく、そのことを提案し実施できればと思っている。

（２）学校法人及び短期大学の毎年度の事業計画及び予算決定に至る過程、手続を簡潔に記述して下さい。

【現状・評価】 学校法人では、毎年 2 月、傘下の清泉小学校、清泉女学院中学・高等学校、清泉インターナショナル学園、長野清泉女学院中学・高等学校、清泉女学院大学及び清泉女学院短期大学から次年度の予算計画書を提出させ、評議員会及び理事会での審議を経て執行認可される。

学内における手続き及び学校法人における決定のプロセスは、以下とおりである。

- ① 予算計画書の提出（11 月末）：学科別、図書館、教育文化研究所、地域連携センター、国際交流等の各委員会、事務部署別に、教育研究事業に関わる予算、共同研究に関わる予算、授業科目及び科目外講師招聘予算、機器備品の購入、修繕等の計画書の提出。
- ② 査定（12 月から 1 月の間）：企画運営会議により、提出された事業計画及び予算を予算編成チームにて査定。
- ③ 相互調整（1 月の評議会及び教授会）：査定結果を評議会及び教授会で報告し審議。
- ④ 決定・予算編成（2 月の教授会）：決定予算に基づき、事業計画書及び予算計画書を作成し、法人本部事務局に送達。
- ⑤ 法人評議員会及び理事会（3 月）：この評議員会及び理事会で、上記の事業計画書及び予算計画書が審議され、最終決定。

（３）決定した予算の短期大学各部門への伝達方法、予算執行に係る経理、出納の業務の流れを必要な承認手続きを含めて簡潔に記述して下さい。なお経理規程等の財務諸規程について、整備している規程名を列記して下さい。財務諸規程は訪問調査の際に参考資料として拝見いたしますのでご準備下さい。

### 【現状・評価】

## 予算の各部門への伝達方法

本学の予算は、計画書提出から最終決定の段階まで、その資料の明細を教授会及び事務職員会議で公表・伝達しているため、これ以上の特別な方法は用いていない。

## 予算執行の流れ

予算執行は、計画書により承認されているとはいえ、教育研究事業費、機器・備品費、講師謝礼、共同研究費等の費目ごとに専用の支出伺書（購入願）等により、その都度決裁を仰ぎ金銭の出納を行っている。

## 財務諸規程

本学では、経理規程、固定資産及び物品管理規程、証明書等発行手数料規程、部門配分基準の内規、施設使用料規程、国際交流基金運用規程、奨学基金運用規程、受託研究取扱規程、科学研究費補助金取扱管理規程を整備し、規程を遵守した処理を行っている。

（４）過去３ヶ年（平成 20 年度～22 年度）の公認会計士監査状況の概要を開催日順に記述して下さい。公認会計士の監査と監事がどのように連携しているか、また公認会計士から指摘を受けた事項があれば、その対応について記述して下さい。

### 【現状・評価】

#### 公認会計士による監査実施状況（平成 20 年度～22 年度）

| 年  | 月  | 日     | 概要                                                                                         | 備考 |
|----|----|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 20 | 5  | 19～20 | 平成 19 年度決算処理等の監査                                                                           |    |
| 21 | 3  | 24～25 | 平成 20 年度期中会計処理書類等の監査<br>・内部統制の仕組みを通して会計処理の正確性について<br>・資産・資金収入・人件費・経費支出関係の確認                |    |
| 21 | 5  | 19～20 | 平成 20 年度決算書類等の監査                                                                           |    |
| 21 | 11 | 24～25 | 平成 21 年度期中会計処理書類等の監査<br>・内部統制の仕組みを通して会計処理の正確性について<br>・資産・資金収入・人件費・経費支出関係の確認                |    |
| 22 | 5  | 18～19 | 平成 21 年度決算書類等の監査                                                                           |    |
| 22 | 11 | 24～25 | 平成 22 年度期中会計処理等の監査<br>・会計記録を通じてコントロールの状況について<br>・学納金、事業収入の検証<br>・人件費、設備、教育経費、その他の経費支出関係の確認 |    |

※ 監査委託先は、青南監査法人である。

年 1 回 6～7 月頃、監事同席の上、理事長、財務担当理事、本部事務局長に対して、公認会計士より前年度に実施した監査内容、結果についての報告を受け、その際に本法人が設置する各学校の監査結果、問題点等について相互に意見交換を行い、今後の学校法人の管理運営に生かすようにしている。詳しくは、「会計監査報告書」を参照されたい。

（５）財務情報の公開は今までどのように行ってきたか。また私立学校法第 47 条第 2 項に基づき、財務情報の公開をどのように実施しているか。それぞれの概要を記述して下さい。

【現状・評価】 平成16年度決算から、改正私立学校法にしたがい学校法人としての財務の情報公開を行っている。

大学及び短大独自として平成 18 年発行の広報紙「清泉女学院カレッジ通信 Vol. 7」より現在に至まで事業報告、消費収支計算書、資金収支計算書及び貸借対照表、財産目録を公開し、ホームページにおいても同様の公開を行っている。

また、平成 23 年 4 月より情報公開の義務化が決まった。本学においても、22 年の 12 月よりさらに詳しくホームページにも掲載を行っている。

（６）寄附行為に基づき、どのような基本方針で資金等の保有と運用を考えているか簡潔に記述して下さい。なお資金等の保有と運用に関する規程等が整備されていれば、訪問調査の際に参考資料として拝見いたしますのでご準備下さい。

【現状・評価】 寄付行為の見直しは、関連法律等の改正に併せ随時行っている。現在の寄付行為は、私立学校法の改正に伴い平成 21 年 4 月 1 日付で改正したものである。

資金等の保有と運用については、特別な個別の運用規定はないが、経理規程に基づき現預金の取り扱いについては、安全な金融機関への預託を旨に、よりリスクの少ない運用を基本方針としている。

【課題・改善策】 余裕資金の運用について、学校法人傘下の学校を含め、将来の投資計画、運用計画を政策的に構築する必要性を、課題としての検討。

（７）寄附金・学校債の募集を行っていればその概要を記述して下さい。なお寄附金・学校債の募集についての印刷物等を訪問調査の際に参考資料としてご準備下さい。

【現状・評価】 寄付金及び学校債を計画的に募集することは行っていない。

# 領域IX

## 【財務体質の健全性と教育研究経費について】

(1) 過去3ヶ年(平成20年度～22年度)の資金収支計算書・消費収支計算書の概要を、別紙様式1にしたがって作成し、添付して下さい。

### 過去3ヶ年(平成20～22年度)の収支計算書の概要

#### 【資金収支計算書／資金収入の部】

(単位：千円)

| 区 分        | 20年度       |           | 21年度       |           | 22年度        |           |
|------------|------------|-----------|------------|-----------|-------------|-----------|
|            | 法人全体分      | うち短期大学分   | 法人全体分      | うち短期大学分   | 法人全体分       | うち短期大学分   |
| 学生生徒等納付金収入 | 3,431,025  | 438,642   | 3,389,567  | 418,070   | 3,512,109   | 431,110   |
| 手数料収入      | 40,140     | 7,572     | 39,608     | 8,833     | 34,316      | 8,546     |
| 寄付金収入      | 239,802    | 16,400    | 225,378    | 13,540    | 216,044     | 13,613    |
| 補助金収入      | 771,329    | 69,034    | 786,735    | 87,395    | 919,381     | 73,700    |
| 資産運用収入     | 70,169     | 6,739     | 66,325     | 6,730     | 46,943      | 4,976     |
| 資産売却収入     | 0          | 0         | 165        | 0         | 0           | 0         |
| 事業収入       | 43,536     | 778       | 41,475     | 821       | 29,646      | 633       |
| 雑収入        | 139,069    | 31,577    | 96,574     | 2,562     | 103,822     | 1,277     |
| 借入金等収入     | 13,650     | 0         | 30,250     | 0         | 22,250      | 0         |
| 前受金収入      | 739,748    | 59,430    | 741,772    | 59,510    | 730,546     | 56,019    |
| その他の収入     | 418,248    | 1,076     | 236,095    | 56,920    | 269,535     | 2,318     |
| 内部資金収入     |            |           |            | 12,400    |             | 18,300    |
| 資金収入調整勘定   | △ 910,550  | △ 86,660  | △ 869,887  | △ 61,658  | △ 1,101,288 | △ 60,140  |
| 前年度繰越支払資金  | 8,487,782  | 2,062,692 | 8,483,145  | 2,082,121 | 8,916,944   | 2,241,334 |
| 収入の部合計     | 13,483,948 | 2,607,280 | 13,267,202 | 2,687,244 | 13,700,248  | 2,791,686 |

#### 【資金収支計算書／資金支出の部】

|           |            |           |            |           |            |           |
|-----------|------------|-----------|------------|-----------|------------|-----------|
| 人件費支出     | 2,951,771  | 328,535   | 2,929,214  | 290,348   | 2,869,230  | 279,734   |
| 教育研究経費支出  | 564,786    | 125,421   | 514,702    | 96,153    | 616,259    | 109,963   |
| 管理経費支出    | 258,876    | 40,364    | 247,105    | 38,878    | 248,143    | 36,738    |
| 借入金等利息支出  | 0          | 0         | 0          | 0         | 0          | 0         |
| 借入金等返済支出  | 21,850     | 0         | 17,350     | 0         | 26,350     | 0         |
| 施設関係支出    | 460,467    | 2,841     | 70,471     | 4,606     | 706,030    | 19,466    |
| 設備関係支出    | 129,014    | 17,791    | 49,646     | 7,749     | 89,721     | 32,576    |
| 資産運用支出    | 555,604    | 2,752     | 497,108    | 0         | 480,115    | 439       |
| その他の支出    | 101,514    | 9,638     | 69,364     | 12,376    | 96,214     | 11,236    |
| 内部資金支出    | 0          | 8,184     | 0          | 7,084     | 0          | 7,436     |
| 資金支出調整勘定  | △ 43,079   | △ 10,367  | △ 44,702   | △ 11,283  | △ 40,052   | △ 8,257   |
| 次年度繰越支払資金 | 8,483,145  | 2,082,121 | 8,916,944  | 2,241,333 | 8,608,238  | 2,302,355 |
| 支出の部合計    | 13,483,948 | 2,607,280 | 13,267,202 | 2,687,244 | 13,700,248 | 2,791,686 |

## 【消費収支計算書／消費収入の部】

| 区 分       | 20年度      |          | 21年度      |         | 22年度      |         |
|-----------|-----------|----------|-----------|---------|-----------|---------|
|           | 法人全体分     | うち短期大学分  | 法人全体分     | うち短期大学分 | 法人全体分     | うち短期大学分 |
| 学生生徒等納付金  | 3,431,025 | 438,642  | 3,389,567 | 418,070 | 3,512,109 | 431,110 |
| 手数料       | 40,140    | 7,572    | 39,608    | 8,833   | 34,316    | 8,546   |
| 寄付金       | 256,929   | 16,768   | 226,712   | 13,766  | 216,963   | 14,109  |
| 補助金       | 771,329   | 69,034   | 786,735   | 87,395  | 919,381   | 73,700  |
| 資産運用収入    | 70,169    | 6,739    | 66,325    | 6,730   | 46,943    | 4,976   |
| 資産売却差額    | 0         | 0        | 162       | 0       | 0         | 0       |
| 事業収入      | 43,536    | 778      | 41,474    | 821     | 29,646    | 633     |
| 雑収入       | 178,987   | 31,576   | 135,522   | 29,101  | 104,772   | 1,277   |
| 内部取引（入）収入 |           |          |           | 12,400  |           | 18,300  |
| 帰属収入合計    | 4,792,115 | 571,109  | 4,686,105 | 577,116 | 4,864,130 | 552,651 |
| 基本金組入額合計  | △ 613,773 | △ 14,393 | △ 213,678 | 0       | △ 713,978 | △5,057  |
| 消費収入の部合計  | 4,178,342 | 556,716  | 4,472,427 | 577,116 | 4,150,152 | 547,594 |

## 【消費収支計算書／消費支出の部】

|                          |           |          |           |           |           |           |
|--------------------------|-----------|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 人件費                      | 2,958,964 | 331,287  | 2,957,194 | 290,348   | 2,900,214 | 280,173   |
| 教育研究経費                   | 897,119   | 172,521  | 849,009   | 143,444   | 947,756   | 154,078   |
| （うち減価償却費）                | (331,763) | (46,800) | (334,098) | (47,170)  | (331,255) | (44,024)  |
| 管理経費                     | 301,482   | 44,349   | 285,996   | 42,895    | 286,181   | 40,702    |
| （うち減価償却費）                | (42,878)  | (3,986)  | (38,104)  | (4,017)   | (37,754)  | (3,964)   |
| 借入金等利息                   | 0         | 0        | 0         | 0         | 0         | 0         |
| 資産処分差額                   | 1,916     | 93       | 4,876     | 427       | 17,869    | 595       |
| 徴収不能引当金繰入額<br>（または徴収不能額） | 11,229    | 0        | 5,149     | 0         | 4,045     | 0         |
| 内部資金支出                   | 0         | 8,184    | 0         | 7,084     | 0         | 7,436     |
| 消費支出の部合計                 | 4,170,710 | 556,434  | 4,102,224 | 484,198   | 4,156,065 | 482,984   |
| 当年度繰越消費収入<br>（支出）超過額     | 7,632     | 282      | 370,203   | 92,918    | △5,913    | 64,610    |
| 前年度繰越消費収入<br>（支出）超過額     | 5,987,607 | 969,953  | 6,065,748 | 970,234   | 6,463,262 | 1,068,859 |
| （何）年度消費支出準繰入額            | 0         | 0        | 0         | 0         | 0         | 0         |
| （何）年度消費支出準備金取崩額          | 0         | 0        | 0         | 0         | 0         | 0         |
| 基本金取崩額                   | 70,509    | 0        | 27,311    | 5,707     | 3,357     | 0         |
| 翌年度繰越消費収入<br>（支出）超過額     | 6,065,748 | 970,235  | 6,463,262 | 1,068,859 | 6,460,706 | 1,133,469 |



領域IX

(2) 平成 23 年 3 月 31 日現在の貸借対照表の概要を、別紙様式 2 にしたがって作成し、添付して下さい。

平成 22 年度末の貸借対照表概要

【学校法人 清泉女学院】

(平成22年度末日現在／単位：千円)

| 資産の部                  |            |            |         |
|-----------------------|------------|------------|---------|
| 科 目                   | 22 年度末     | 21 年度末     | 増 減     |
| 固定資産                  | 20,003,932 | 19,213,544 | 790,388 |
| 有形固定資産                | 13,074,728 | 12,664,796 | 409,932 |
| その他の固定資産              | 6,929,204  | 6,548,748  | 380,456 |
| 流動資産                  | 9,059,919  | 9,113,175  | 53,256  |
| 資産の部合計                | 29,063,851 | 28,326,719 | 737,132 |
| 負債の部                  |            |            |         |
| 固定負債                  | 556,637    | 526,704    | 29,933  |
| 流動負債                  | 1,007,067  | 1,007,932  | 865     |
| 負債の部合計                | 1,563,704  | 1,534,636  | 29,068  |
| 基本金の部                 |            |            |         |
| 基本金合計                 | 21,039,441 | 20,328,821 | 710,620 |
| 消費収支差額の部              |            |            |         |
| 翌年度繰越消費収入<br>(支出) 超過額 | 6,460,706  | 6,463,262  | 2,556   |

(3) 財産目録及び計算書類（資金収支計算書、資金収支内訳表・人件費支出内訳表・消費収支計算書・消費収支内訳表・貸借対照表・固定資産明細票・借入金明細表・基本金明細表）について、過去 3 ヶ年（平成 20 年度～22 年度）分を訪問調査の際に参考資料としてご準備下さい。

訪問調査の際、参考資料として提示する。

(4) 過去 3 ヶ年（平成 20 年度～22 年度）の短期大学における教育研究経費比率（消費収支計算書の教育研究経費を帰属収入で除した比率）を、小数点以下 2 位を四捨五入し 1 位まで求め記述して下さい。

教育研究経費比率（平成 20 年度～22 年度）

|                  | 20 年度      | 21 年度      | 22 年度      |
|------------------|------------|------------|------------|
| 教育研究経費支出 (a)     | 172,520 千円 | 143,444 千円 | 154,078 千円 |
| 帰属収入 (b)         | 571,109 千円 | 577,116 千円 | 552,651 千円 |
| 教育研究経費比率 (a)/(b) | 30.2%      | 24.9%      | 27.9%      |

## 【施設設備の管理について】

(1) 固定資産管理規程、図書管理規程、消耗品及び貯蔵品管理規程等、施設設備等の管理に関する諸規程を、財務諸規程を含めて一覧表として示して下さい。なお整備した諸規程を訪問調査の際に参考資料としてご準備下さい。

【現状・評価】 各種管理規程および施設設備、物品等の管理規程は以下のとおりであり、平成 22 年度の改正を記した（改定規程は、参考資料を参照）。

| 諸 規 程                                                                                                                                             | 平成 22 年度中の改定の有無                 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|
| 1. 事務関係<br>(1) 文書取扱規程<br>(2) 公印取扱規程<br>(3) 文書保存規程                                                                                                 | 無<br>無<br>無                     |
| 2. 図書館、研究施設関係<br>(1) 図書館管理規程<br>(2) 図書の購入・収集等管理規程<br>(3) 図書館利用管理規程<br>(4) 寄贈図書の評価に関する取扱要領<br>(5) 図書館文献複写管理規程<br>(6) 図書館一般市民等利用要綱<br>(7) 教育文化研究所規程 | 有<br>無<br>無<br>無<br>無<br>無<br>無 |
| 3. 管理<br>(1) 防火管理規程<br>(2) 安全衛生管理規程<br>(3) 体育館使用規程<br>(4) グラウンド使用規程<br>(5) パーソナル・コンピュータ使用規程<br>(6) 個人情報の保護に関する規程                                  | 無<br>無<br>無<br>無<br>無<br>有      |
| 4. その他<br>(1) 学生対象の物品購入斡旋規程<br>(2) 自動車通学規程<br>(3) 学生専用駐車場使用管理規程                                                                                   | 無<br>無<br>無                     |

(2) 火災等の災害対策等、以下の危機管理対策について現状を簡潔に記述して下さい。

## (1)火災等の災害対策

【現状・評価】 小冊子（MY CAMPUS GUIDE BOOK）を作成し、その中で避難場所等の周知を行っている。防災システムについては、火災報知設備、屋内消火栓及び消火器を備え置きし、さらに防災専門業者により定期的な点検を行い不備等がある場合は修理及び取替等その都度、対処している。

## (2)防犯対策

【現状・評価】 小冊子（MY CAMPUS GUIDE BOOK）を作成し、その中で防犯としてのストーカーの被害にあわないように気をつけることや、被害にあった場合どうするかなど被害にあった場合どうするかなど安全な暮らしを守る心得を紹介している。また、必要書類の保管については十分留意しているが、重要書類のデータ化や、保管場所が耐火構造になっていないなどの問題がある。登下校における交通安全や不審者による傷害事故の防止の PR、護身術の習得等について、校内掲示や警察官による指導及び巡回、防犯灯の設置等、前年度に引き続いて対策を検討実施していきたい。

## 領域IX

### (3)学生、教職員の避難訓練等の対策

【現状・評価】 防災訓練は毎年度実施しており、平成 22 年は 10 月に消防署員を招聘し、地震及び火災を想定した避難誘導訓練を行った。

【課題・改善策】 全学生及び全教職員を対象に市消防署分署から、避難誘導のみならず、屋内消火栓操作、搬出訓練等を取り入れた総合訓練を実施するよう指導もあったが、実現は困難である。今後、これらの訓練を段階的に取り入れ、特に幼児教育科においては、幼稚園や保育園、施設について、想定した講習会ないしは訓練も考えたい。

### (4)コンピュータのセキュリティ対策

【現状・評価】 情報処理室の機器更新と情報系授業環境の充実に向けて平成 22 年度に情報システム室を立ち上げ、サーバールーム構築(一元的な情報資産管理と集約化・集中化された保守運用管理)と学内ネットワーク工事(共通の利用の推進と安全性、信頼性、柔軟性の確保)、情報処理室の更新等及びセキュリティ対策を含め総合的な ICT の基盤強化の充実を図った。

また、情報セキュリティ基本方針に則って実施規程・利用規程の整備を行い、平成 23 年 4 月より情報資産の適正な管理・運用を明確化し展開をしていく。

【課題・改善策】 情報処理室の一部不具合と認証システムの工期遅れ等で完全に整備・構築ができていない。今後、システム室の強化を図りつつ問題のおこらない整備を目指すことを考えたい。

### (5)省エネ及び地球環境保全対策

【現状・評価】 省エネ及び地球環境保全対策については、完全とは言えないが、校内掲示や操作盤にエアコン運転についてのガイドラインの設定(冬季 18℃、夏季 28℃)及び照明器具等のオン・オフの徹底等を PR し、また教授会や学生会等の機関を使ってその励行を促している。

学内の自動販売機に関しては、一部、年式の古い自動販売機の入替・撤去及び地球にやさしいヒートポンプ&ノンフロン自動販売機の導入を行い、オゾン層破壊抑制・地球温暖化抑制・安全性を考え省エネの実現を図っている。

【課題・改善策】 化石資源のみならず、学内で排出される生活資源に至るまで、あらゆる資源の再生、再利用の習慣付けが必要であると認識している。

### (6)その他

#### ① セクシャルハラスメントについて

【現状・評価】 小冊子(MY CAMPUS GUIDE BOOK)を作成し、学生及び教職員全員に配布し意識啓蒙を行っている。また、苦情や相談にすぐ対応できるように、必要な助言や救済にあたるように相談員を置いている。

【課題・改善策】 教職員個々の認識や対応においても、個人差があり、学内の各機関、各組織を有効に使った継続的な意識啓発運動の一方、講演会や講習会等の必要性を感じている。

② 個人情報の保護について

【現状・評価】 平成 17 年度に「個人情報の保護に関する規程」を策定し、学生に配布する学生便覧及びキャンパスガイドブックに規程と方針を提示しており、学生の同意を得た上で個人情報を取得し法令遵守のもとに提供することにしており、入試広報活動や広報誌等の発行等に留意している。また、本学の組織の中に個人情報保護委員会を設置している。

【課題・改善策】 本学の教職員に対して運用指針を定め周知徹底して個人情報の保護に関する啓発を図るものとする。

## 領域 X 改革・改善

### 【自己点検・評価について】

(1) 短期大学では自己点検・評価を、短期大学の運営のなかでどのように位置づけているか。また自己点検・評価を実施するための組織、規程等の整備状況を記述して下さい。また今後、自己点検・評価をどのように実施しようと考えているかについても記述して下さい。

【現状・評価】 学則第 40 条に、本学の教育目標を達成する有力な手段として自己点検・評価を位置づけている。自己評価活動を企画・運営する組織として、「自己点検・評価委員会」（以下自己評価委員会と称する）を設置し、定期的に委員会を開催し、年間を通じて評価活動を推進する体制となっている。また、「自己点検・評価規程」および「同実施要項」、「同実施細則」を平成 17 年度に全面的に見直し、自己点検・評価、相互評価、外部評価、第三者評価等を総合的に規定する「大学評価規程」を新設し、「自己点検・評価実施要項」、「同実施細則」や、相互評価等に関する実施要領および外部評価規程等を整備し、実施してきた。平成 19 年度には、学則第 40 条に「2 本学は、教育研究等の総合的な状況について、学校教育法施行令で定める期間ごとに、文部科学大臣の認定を受けた認証評価機関による評価を受けるものとする。」という規定を追加し、短期大学設置基準との整合性を図った。また、平成 18 年度、19 年度に「清泉ブランド力調査」を実施し、自己評価の基礎資料として活用してきた。今後とも、厳密な自己点検評価活動を踏まえ、定期的な外部評価、相互評価を計画的に実施し、2 回目のサイクルに入る認証評価の準備を堅実に進めていきたい。

(2) 過去 3 ヶ年（平成 20 年度～22 年度）の自己点検・評価報告書の発行状況を記述して下さい。またその報告書の配付先の概要を記述して下さい。なお過去 3 ヶ年（平成 20 年度～22 年度）にまとめられた自己点検・評価報告書を訪問調査の際にご準備下さい。

【現状・評価】 過去 3 年間、毎年度「自己点検・評価報告書」を発行している。いずれも、短期大学基準協会の平成 22 年度までの「自己点検・評価報告書作成マニュアル」に準拠した構成になっている。また、作成部数は 300 部ずつであり、その配付先は、学内の専任・兼任の教職員、法人・姉妹校、県内の教育機関、県内の私立大学・短期大学、所属する日本カトリック短期大学連盟校、県外の短期大学等となっている。平成 23 年度分からは、短期大学基準協会が定めた新たな評価基準ならびに報告書作成マニュアルに則った報告書に改編する予定である。

### 【自己点検・評価の教職員の関与と活用について】

(1) 平成 22 年度までに行った自己点検・評価に関わった教職員の範囲を記述して下さい。また今後、どのような教職員の関わり方が望ましいと考えているかを記述して下さい。

【現状・評価】 自己評価委員会は、副学長のほか各学科、学生支援関係教員、事務局関係の責任者を構成メンバーとし、自己点検・評価のほか、相互評価、外部評価、第三者評

価の各評価を統括している。自己点検・評価報告書の作成には、短期大学基準協会の作成要領にしたがって、学内分掌組織に対応しながら、領域ごとに項目執筆の担当部局を定めている。その結果、自己点検・評価報告書の執筆、検討、編集等は、ほぼ全教職員の支援と協力のもとで行われ、この体制は確立されたと評価する。

【課題・改善策】 実際の短大の改善に結びつく評価活動とするため、FD・SD活動との連動が重要であり、とくに、各評価項目に記された課題と改善策の進行状況と更新を心がけたい。

(2) 平成 22 年度までに行った自己点検・評価結果の活用についてその実績を記述して下さい。また今後、自己点検・評価の結果をどのように活用しようと考えているかについても記述して下さい。

【現状・評価】 前年度の自己点検・評価報告書を、各学科・事務局ごとにしっかりと読み合わせをし、とくに、年度ごとに重点的に取組む目標や各項目で多数出された課題や問題点を洗い出し、少しでも改善するよう取組んでいる。

平成 22 年度は、平成 21 年度に引き続き幼児教育科は「初年次教育プログラム」、国際コミュニケーション科は「キャリア形成支援プログラム」の実施に重点を置いてきた。また、その成果を確実なものとするべく、私学事業財団の学習支援分野の特別補助の継続申請に結びつけている。また、年度末には第 2 回外部評価と短大専任教員による懇話会等を実施し、各学科の重点プログラムの課題と成果、学生指導の体制と具体的な改善課題などを検討し、この評価活動との連動を図っている。

具体的な評価結果の活用では、学生生活の満足度調査を受けた生活環境や、個別支援・指導の改善、学生の要望を盛り込んだ学生支援の改善などの取組みが行われた。入学前講座の実施、各学科のセミナーの活性化、個別支援のための学生カルテの作成などにつながっている。

#### 【相互評価や外部評価について】

(1) 平成 22 年度までに行った相互評価及び外部評価の概要を示し、評価結果の活用についてその実績を記述して下さい。

【現状・評価】 過去の相互評価として、平成 17 年度に育英短期大学（群馬県高崎市）との間で相互評価の協定を交わし、平成 18 年度に実施している。平成 21 年度の短大専任教員による研修会では、育英短期大学の現代コミュニケーション学科の学科長を外部講師として招聘し、相互評価以降の相互の取り組みについて貴重な意見交換を行った。2 回目の相互評価は、同短大と平成 24 年度中に実施する予定で準備を進めている。

外部評価は平成 17 年度に規程を整備し、平成 18 年度に実施した。平成 22 年度には第 2 回目の外部評価を実施した。今回は全体会と分科会（各学科）にわけ、全体会の外部評価委員として本学外郭団体（親泉会、泉会、愛泉会）の代表者及び長野清泉中学・高等学校校長を、分科会には高大連携校の中野西高等学校の校長および教諭、学校法人信学会本部代表および幼稚園園長、長野信用金庫、リコージャパンの人事担当者をお願いし、書面調査および外部評価会議による意見聴取を行った。この外部評価は、地域社会における本学の果たすべき役割や、卒業生を通じた社会貢献などの社会的評価を確かめるよい機会とな

## 領域 X

った。今後とも定期的に実施していきたい。詳しくは「第2回外部評価報告書を参照されたい。

(2) 相互評価や外部評価を実施するための組織、規程等の整備状況を記述して下さい。また今後、相互評価や外部評価をどのように実施しようと考えているかについても記述して下さい。

【現状・評価】 平成18年度の相互評価、外部評価の実施に向けて当該規程を、平成17年度に整備した。平成18年度に相互評価、外部評価ともに自己評価委員会が企画し、実施したところである。相互評価については、平成24年度に実施予定とし、外部評価は3年に1度の頻度で行えればと考えている。

### 【第三者評価（認証評価）について】

(1) 第三者評価を実施するための学内組織の概要を記述して下さい。

【現状・評価】 平成19年度に短期大学基準協会による認証評価を実施し、平成20年3月19日付けで「適格」との認証を受けた。

本学では次回の第三者評価へ向けた体制づくりや準備として、自己評価委員会を中心に短期大学基準協会による第三者評価の評価基準および報告書作成マニュアルを検討し、学内に周知し情報を共有するようになっている。常に第三者評価の実施に向けた情報提供を行い、自己評価委員会のもと第三者評価の実施に向けた対応、円滑な運営をしていきたいと考えている。

(2) 第三者評価にあたって短期大学の決意を述べて下さい。理事長、学長、各部門の長及びALO（第三者評価連絡調整責任者）がそれぞれ記述されても結構です。

【現状・評価】 平成18年度の相互評価、外部評価の実施を踏まえ、平成19年度には初めての短期大学基準協会の第三者評価を受けることができたが、平成20年度は、改善の課題とされた2項目を速やかに改善することに重点をおいて取り組んだ。第2回目の第三者評価をいつにするかは未定であるが、平成25～26年度を目標に、様々な評価活動を重層的に行うことで、本学の教育・研究の質の向上と共に今後の改善事項や重点項目の明確化を図っていきたい。

### 【特記事項について】

(1) この《X改革・改善》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば評価に関する教職員への研修の実施等、当該短期大学が改革・改善について努力していることがあれば記述して下さい。

### 「中期計画」の策定と検証

短大の評議会を中心に、平成21年度から2年間に重点的に取り組むべき事項と検討すべき事項を、各学科の教育活動、共通教育、学生支援・学生指導、入試・広報活動、地域連携活動、財務状況等に整理し策定したが、平成23年度にはこの計画の検証と見直しを予定している。中期計画の進捗状況に対する自己点検や外部評価は重要であり、PDCAサイクルの要として重視していきたい。

## おわりに

本年度の自己点検評価報告書も、これまでの形式を踏襲して、評価項目ごとの「課題・改善策」の内容を明確にし、本学が抱える問題点や課題について、当面何をどう改善するのか、また何をどのように検討していくかなどの改善の見通しを記述するようにしました。ただ、報告内容も編集方式もやや「マンネリ化」しつつあることが懸念されます。また、報告書に記した改善策と、実際の改善の準備や実施が時間的にもズレることもあり、報告書自体が後追い、追認となることもあります。その意味では、PDCAのサイクルを厳格に維持すること、すなわち、報告書の編集・作成の時期と年度のまとめの時期とを一致させることが不可欠です。

また、定期的な外部の視点は必要かつ重要であり、とくに外部評価や相互評価はそのよい機会となるはずです。22年度は、第2回目の外部評価を、外郭団体や地域の企業、幼稚園、連携する高等学校等のご協力をいただき、実施することができました。また、外部評価では全体会と分科会にわかれ、積極的な意見交換がかわされました。自らそのような機会を積極的に設ける姿勢が重要であり、今後は、第2回目の相互評価を平成24年度に実施する予定です。

各学科とも、入学前のオリエンテーションや事前学習、1年次教育プログラム、セミナー制を活用した個別支援の創意工夫を推進しています。そうした成果が具体的に個々の学生の成長や満足度にどのように反映されたのか、また就職や進路実績にどうつながったのかを客観的に検証する必要もあります。そのためには、学生の実感や具体的な変容の姿を教職員が共有し、少しの変化をも把握し、機敏に対応、改善する姿勢が強く求められます。

今後とも、本報告書をご覧になった方々より、忌憚のないご批判、ご助言をお願いいたします。最後に、中村洋一編集委員長をはじめ、限られた時間の中で編集作業に携わった委員の方々、執筆にご協力をいただいた関係教職員の方々に感謝申し上げます。

清泉女学院短期大学  
自己評価委員会委員長 西山 薫



**平成 22 年度  
自己点検・評価報告書**

---

平成 23 年 7 月 20 日発行

発 行 清泉女学院短期大学

〒381-0085 長野市上野 2 丁目 120 番 8 号

TEL 026-295-5665

HP <http://www.seisen-jc.jp/>

印 刷 大日本法令印刷株式会社

---